

群馬工業高等専門学校				電子メディア工学科				開講年度				令和06年度 (2024年度)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
学科到達目標																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
電子メディア工学における情報通信、新エネルギー及び電子材料の分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識及び理論、並びにこれらを応用するエレクトロニクスの知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
実務経験のある教員による授業科目一覧はこちら																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
						1年				2年				3年				4年						5年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
一般	必修	化学	1E001	履修単位	2	2		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

専門	必修	計算機基礎	3E013	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

専門	選択	複合創造実験	4E024	履修単位	1												2						平社信 人佐木 々々市 雄信 村智康	
専門	必修	確率統計	4E025	履修単位	1												2						平井 宏	
一般	必修	社会政策	5E001	履修単位	1													2					半田諒 志宮剛	
一般	必修	法学	5E002	履修単位	1																	2	多田庶 弘宮剛	
一般	必修	保健・体育	5E003	履修単位	2													2		2			正保佳 史佐之 藤孝之	
一般	必修	英語	5E004	学修単位	4													2		2			小菅 智也	
一般	選択	中国語Ⅰ	5E005	学修単位	2													2					桑名潔 江横孝一 山板谷洋一郎	
一般	選択	中国語Ⅱ	5E006	学修単位	2															2			桑名潔 江横孝一 山板谷洋一郎	
専門	必修	電子回路Ⅱ	5E008	履修単位	2													4					富澤 良行	
専門	必修	通信・伝送工学	5E009	学修単位	2															2			佐々木信雄	
専門	必修	電子材料基礎Ⅰ	5E010	学修単位	2													2					塚原 規志	
専門	必修	自動制御	5E011	履修単位	1															2			松本 敦	
専門	必修	デザイン実験	5E012	履修単位	3													4		2			電子メ ディア 工学科 科教員 布施川 秀紀	
専門	必修	卒業研究	5E013	履修単位	9													2		6			電子メ ディア 工学科 科教員 五十嵐 睦夫	
専門	選択	現代科学概論	5E014	学修単位	2													2					橋本 修	
専門	選択	伝送メディア工学	5E015	学修単位	2													2					松本 敦	
専門	選択	電気機器	5E016	学修単位	2															2			中山 和夫	
専門	選択	電子材料基礎Ⅱ	5E017	学修単位	2															2			平井 宏	
専門	選択	音響工学	5E018	履修単位	1													2					鈴木 靖 富澤良行	
専門	選択	計算機工学	5E019	学修単位	2															2			谷中勝 布施川 秀紀	
専門	選択	実用情報処理資格Ⅰ	5E020	履修単位	1																集中講義		五十嵐睦夫	
専門	選択	実用情報処理資格Ⅱ	5E021	履修単位	1																集中講義		五十嵐睦夫	
専門	選択	実用無線通信資格	5E022	履修単位	1																集中講義		五十嵐睦夫	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	化学
科目基礎情報						
科目番号	1E001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：新編 化学基礎：数研出版， 問題集：インプレス化学基礎ノート：浜島書店， 問題集：セミナー化学基礎+化学：第一学習社					
担当教員	辻 和秀					
到達目標						
1. 原子の構造および電子配置と周期律の関係を理解できる。 2. さまざまな化学結合について仕組みと性質を理解できる。 3. 物質量（モル）の概念を理解し、これを用いて実用的な計算ができる。 4. 酸塩基反応や酸化還元反応の基本的な考え方や法則を理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	原子の構造および電子配置と周期律の関係を十分に説明出来る		原子の構造および電子配置と周期律の関係を説明できる。		原子の構造および電子配置と周期律の関係を説明できない。	
評価項目2	さまざまな化学結合について仕組みと性質を十分に説明出来る		さまざまな化学結合について仕組みと性質を説明できる。		さまざまな化学結合について仕組みと性質を説明出来ない。	
評価項目3	物質量（モル）の概念を理解し、これを用いてた応用問題を解くことができる		物質量（モル）の概念を理解し、これを用いた基礎問題を解くことができる。		物質量（モル）の概念を理解し、これを用いた基礎的な問題を解くことができない。	
評価項目4	酸塩基や酸化還元概念を理解し、これを用いた応用問題を解くことができる		酸塩基や酸化還元概念を理解し、これを用いた基礎問題を解くことができる		酸塩基や酸化還元概念を理解できず、これを用いた基礎問題を解くことができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	化学的な知識や考え方を身につけ、自然科学的なものの見方を学ぶ。また化学の知識や考え方を、日常生活や社会、それぞれの専門分野の学習に関連づけて考えられるようにする。					
授業の進め方・方法	講義中心の授業であるが、演習や実験を交えながら進める。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	物質の構成：純物質と混合物		純物質、混合物を理解できる 混合物の分離法について理解できる	
		2週	物質の構成：物質とその成分		単体、化合物を理解できる 元素、同素体を理解できる	
		3週	物質の構成：物質の三態と熱運動		物質の三態と状態間の変化を理解できる 粒子の熱運動が理解でき、絶対温度を計算できる	
		4週	物質の構成粒子：原子とその構造		原子の構造を理解でき、同位体および放射性同位体について理解できる	
		5週	物質の構成粒子：原子とその構造		原子の電子配置を理解できる	
		6週	物質の構成粒子：イオン		イオンの生成について理解できる 代表的なイオンをイオン式でかける	
		7週	物質の構成粒子：周期表		元素の周期表を理解できる	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	粒子の結合：イオン結合とイオン結晶		イオン結合について理解できる イオン結晶の特徴を理解できる	
		10週	粒子の結合：共有結合と分子		共有結合と分子の形成について理解できる	
		11週	粒子の結合：配位結合、分子間に働く力		電気陰性度と分子の極性について理解できる	
		12週	実験：炭酸カルシウムの分解			
		13週	粒子の結合：高分子化合物、共有結合の結晶		高分子化合物について理解できる 共有結合の結晶の特徴を理解できる	
		14週	化学結合：金属結合と金属結晶		金属結合について理解できる 金属結晶の特徴を理解できる	
		15週	期末試験			
		16週	テスト返却			
後期	3rdQ	1週	物質量と化学反応式：原子量・分子量・式量		原子の相対質量について理解できる。 原子量について理解でき、分子量や式量を計算できる	
		2週	物質量と化学反応式：物質量		アボガドロ数と物質量の関係が理解できる 物質の質量や粒子数と物質量の関係を理解できる 気体の体積の物質量の関係を理解できる	
		3週	物質量と化学反応式：溶液の濃度		質量パーセント濃度とモル濃度を理解でき、計算できる	
		4週	物質量と化学反応式：化学反応式と物質量		化学反応式を正しく書き表せる	
		5週	物質量と化学反応式：化学反応式と物質量		化学反応式の表す量的関係を理解でき、計算できる	

		6週	酸と塩基の反応：酸と塩基	酸と塩基の性質を理解できる 酸と塩基の定義を理解できる
		7週	酸と塩基の反応：水素イオン濃度とpH	酸の強弱を理解できる 水素イオン濃度とpHについて理解でき、計算できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	酸と塩基の反応：中和反応と塩	中和反応について理解できる
		10週	酸と塩基の反応：中和滴定	簡単な中和滴定の計算ができる
		11週	実験：中和滴定	
		12週	酸化還元反応：酸化と還元	酸化と還元について理解できる 酸化数について理解できる
		13週	酸化還元反応：酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤について理解できる 電子の授受と酸化還元反応式について理解できる
		14週	酸化還元反応：金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用	金属のイオン化傾向について理解できる 金属の反応性について理解できる
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学基礎演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	1E002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：新基礎数学：碓氷久 他：大日本図書：978-4-477-02579-7						
担当教員	塚原 規志						
到達目標							
☐ 数と式の計算ができる。 ☐ 方程式と不等式の計算ができる。 ☐ 三角関数の計算ができる。 ☐ 指数関数と対数関数の計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	数と式の計算が十分にできる。			数と式の計算ができる。		数と式の計算ができない。	
評価項目2	方程式と不等式の計算が十分にできる。			方程式と不等式の計算ができる。		方程式と不等式の計算ができない。	
評価項目3	三角関数の計算が十分にできる。			三角関数の計算ができる。		三角関数の計算ができない。	
評価項目4	指数関数と対数関数の計算が十分にできる。			指数関数と対数関数の計算ができる。		指数関数と対数関数の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目は1学年に於ける数学Aおよび数学Bのわかりにくいところを重点的に演習を行う機動的な科目である。 1学年で学習する数学についての内容を演習形式で学習する。 問題集の基本問題レベルの問題を解いていく。						
授業の進め方・方法	演習形式						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	整式の計算, いろいろな数と式		整式の加減乗除の計算ができる。 公式等を利用して因数分解ができる。 分数式の加減乗除の計算ができる。 実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。 平方根の基本的な計算ができる（分母の有理化も含む）。 複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。		
		2週	方程式		2次方程式を解くことができる（解の公式も含む）。 因数分解を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。 基本的な連立方程式を解くことができる。具体的には、1次式と2次式の連立方程式を解くことができる。 基本的な無理方程式・分数方程式を解くことができる。		
		3週	不等式		基本的な1次不等式を解くことができる。 1元連立1次不等式を解くことができる。 基本的な2次不等式を解くことができる。		
		4週	2次関数		2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数		分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。 基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。 無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。 関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。		
		6週	点と直線, 2次曲線		2点間の距離を求めることができる。 内分点の座標を求めることができる。 通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。 2つの直線の平行・垂直条件を理解している。 基本的な円の方程式を求めることができる。		
		7週	場合の数		積の法則と和の法則の違いを理解している。 順列・組合せの基本的な計算ができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	中間試験の総括				

		10週	三角比とその応用	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。
		11週	三角関数	角を弧度法で表現することができる。三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		12週	加法定理とその応用	加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。三角関数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		13週	指数関数	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		14週	対数関数	対数を利用した計算ができる。対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の総括、まとめ	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気基礎 I	
科目基礎情報							
科目番号	1E003			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	高橋寛、増田英二：わかりやすい電気基礎，コロナ社／安部則男ほか編：ポイントマスター わかりやすい電気基礎トレーニングノート，コロナ社						
担当教員	佐々木 信雄						
到達目標							
☐ 電気回路素子の概念について理解し、直流回路の問題を解くことができる。 ☐ 直流回路における回路の諸定理について理解し、それらに関する問題を解くことができる。 ☐ 抵抗の性質について理解し、それに関する問題を解くことができる。 ☐ 電流のいろいろな作用について理解し、それらに関する問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		直流回路の定理、法則を深く理解し、応用問題を解くことが出来る。		直流回路の定理、法則を理解し、基礎的な問題を解くことが出来る。		直流回路の定理、法則を理解出来ず、基礎的な問題を解くことが出来ない。	
評価項目2		抵抗の性質を深く理解し、応用問題を解くことが出来る。		抵抗の性質が理解でき、基礎的な問題を解くことが出来る。		抵抗の性質が理解できず、基礎的な問題を解くことが出来ない。	
評価項目3		電力・電力量を深く理解し、応用問題を解くことが出来る。		電力・電力量を理解でき、基礎的な問題を解くことが出来る。		電力・電力量を理解できず、基礎的な問題を解くことが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電子電気工学への入門として、また工学実験を行う上で必要となる電気回路の基礎知識を身につけさせる。						
授業の進め方・方法	まず、前期の「工学実験」で学習した直流回路の取り扱いについて復習するとともに演習問題を多く解かせ、直流回路の計算ができるようにする。次に、回路の諸定理、さらに、抵抗の性質や電流が及ぼすいろいろな作用について説明を行うとともに、演習問題を解かせながらそれらに対する理解を深めさせる。授業は、プロジェクトを使用して進める。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電流と電圧		電流と電圧を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		2週	電流と電圧		電流と電圧を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		3週	直列接続と並列接続		直列接続と並列接続を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		4週	直列接続と並列接続		直列接続と並列接続を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		5週	キルヒホッフの法則		キルヒホッフの法則を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		6週	キルヒホッフの法則		キルヒホッフの法則を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		7週	ブリッジ回路		ブリッジ回路について理解し、それに関する問題を解くことができる。		
		8週	中間テスト				
	4thQ	9週	重ねの理		重ねの理を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		10週	重ねの理		重ねの理を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		11週	テブナンの定理		テブナンの定理を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		12週	テブナンの定理		テブナンの定理を説明し、直流回路の計算に用いることができる。		
		13週	抵抗の性質		抵抗の性質について理解し、それに関する問題を解くことができる。		
		14週	電力とジュール熱		電力、消費電力に関する計算ができる。ジュール熱の計算をすることができる。許容電流に関する理解ができる。		
		15週	期末テスト				
		16週	まとめ		これまで学習した内容のまとめ		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50

專門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子メディア工学序論	
科目基礎情報							
科目番号		1E004		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		1	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		セ`ロから分かるUNIX基礎講座:中井 獏:技術評論社:9784774139807, 情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2019対応版:矢野 文彦:オーム社:9784274224447, 例題100でしっかり学ぶ メディアリテラシー標準テキスト ーメディアとインターネットを理解するための基礎知識:定平 誠:技術評論社, K-SEC教材, 自作Web教材					
担当教員		布施川 秀紀					
到達目標							
☐ 1.UNIXの操作をすることができる。 ☐ 2.ワープロソフトを使うことができる。 ☐ 3.表計算ソフトを使うことができる。 ☐ 4.プレゼンテーションソフトを使うことができる。 ☐ 5.コンピュータネットワークを活用する上での情報モラル, 情報セキュリティについて理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	UNIXのファイルシステムを理解し、コマンドを使いこなすことができる。		UNIXの基本的なコマンドを使うことができる。		UNIXの基本的なコマンドを使うことができない。		
評価項目2	ワープロソフトを使って、複雑な文書を作成することができる。		ワープロソフトを使って、簡単な文書を作成することができる。		ワープロソフトを使って、文書を作成することができない。		
評価項目3	表計算ソフトを使って、複雑な表を作成することができる。		表計算ソフトを使って、簡単な表を作成することができる。		表計算ソフトを使って、表を作成することができない。		
評価項目4	プレゼンテーションソフトを使って、効果的なスライドを作成することができる。		プレゼンテーションソフトを使って、簡単なスライドを作成することができる。		プレゼンテーションソフトを使って、スライドを作成することができない。		
評価項目5	PowerPlatformを使って、さまざまなソフトウェアを作成することができる。		PowerPlatformを使って、簡単なソフトウェアを作成することができる。		PowerPlatformを使って、簡単なソフトウェアを作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目では、主にコンピュータリテラシーを扱う。コンピュータの基本的な操作法とUNIX入門、電子メール等をコミュニケーションツール使う上での情報モラル, 情報セキュリティ, 実験報告書の作成に必要なワープロや表計算ソフトの使用, 卒研発表で必要なプレゼンテーションソフトの使い方を学習する。また、プログラミングの入門として、PowerPlatformの使い方を学習する。						
授業の進め方・方法	教科書, 自作Webテキスト等を使ってPC画面上で操作方法を説明し, その後実習を行う。また, K-SEC教材も活用する。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	機器の説明,コンピュータへのLogin, 初期設定 コンピュータネットワーク利用における, 情報モラル, 情報セキュリティ (K-SEC教材も活用)		本校の学生用PCへのLogin, 初期設定ができる。 コンピュータネットワーク利用における, 情報モラル, 情報セキュリティについて理解する。		
		2週	コミュニケーションツール(電子メール, Teamsなど)の使い方 コンピュータネットワーク利用における, 情報モラル, 情報セキュリティ (K-SEC教材も活用)		コミュニケーションツール(電子メール, Teamsなど)の使い方理解をする。 コンピュータネットワーク利用における, 情報モラル, 情報セキュリティについて理解する。		
		3週	ワープロソフト (Word) の使い方1		ワープロソフトで文書を作成することができる。		
		4週	ワープロソフト (Word) の使い方2		ワープロソフトで文書を作成することができる。		
		5週	表計算ソフト (Excel) の使い方1		表計算ソフトで簡単な表を作成することができる。		
		6週	表計算ソフト (Excel) の使い方2		表計算ソフトで基本的な関数と使うことができる。		
		7週	表計算ソフト (Excel) の使い方3		表計算ソフトで統計的なデータや計算を行うことができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の使い方1		プレゼンテーションソフトで簡単なスライドを作成することができる。		
		10週	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の使い方2		プレゼンテーションソフトで簡単なスライドを作成することができる。		
		11週	UNIXの基本コマンド1		基本的なUNIXコマンドを使うことができる。		
		12週	UNIXの基本コマンド2		基本的なUNIXコマンドを使うことができる。		
		13週	プログラミング入門1		Power Platformを使って簡単なソフトウェアを作成する事ができる。		
		14週	プログラミング入門2		Power Platformを使って簡単なソフトウェアを作成する事ができる。		
		15週	期末試験				
		16週	答案返却		期末試験の解説		
評価割合							

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
UNIX	10	10	0	0	0	0	20
ワープロソフト	10	5	0	0	0	0	15
表計算ソフト	20	10	0	0	0	0	30
プレゼンテーションソフト	10	10	0	0	0	0	20
プログラミング	10	5	0	0	0	0	15

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学実験	
科目基礎情報							
科目番号	1E005			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	4		
教科書/教材	プリント教材／WEB教材／高橋寛、増田英二：わかりやすい電気基礎, コロナ社						
担当教員	電子メディア工学科 科教員,中山 和夫						
到達目標							
電子・電気工学を机上で理解するだけでなく、さらに実際のに把握し、理論と実験とは現実の現象や実際の創造物を理解するための、車の両輪であることを認識する。また、計器・器具の取り扱いおよび測定方法を習得するとともに、「電気基礎Ⅰ」で学んだ事柄を実験・実習を通して確認することにより、以下の目標を達成する。 ☐ 直流回路の基礎的問題を解くことができる。 ☐ 工学実験における基礎的手法を実演できる。 ☐ 各テーマの測定原理や実験方法について理解し、必要な計器・器具の取り扱いができる。 ☐ 書式に沿った正しい報告書を作成することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実験内容に関する理解	手順書と教員の指導に従って、実験を自主的に、的確に進めることができる。			適宜、教員の指導を仰ぐことで指示書に書いてある内容を進めることができる。		指示書の実験内容を進めることができない。	
レポートに関する項目	実施した実験に関する報告書を自分の言葉で的確にまとめることができる。			実施した実験に関して、最低限の記載方法を守ってまとめることができる。		実施した実験に関するレポートをまとめられない、もしくは提出できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実験に必要なとなる電子工学の基礎的知識を学習したうえで、電子工作および電子工学の導入的な実験を行い、さらに電気回路に関する基礎的な実験を行うことにより、「電気基礎Ⅰ」で学習した事柄についての理解を深める。						
授業の進め方・方法	[前期] (富澤、塚原、中山) 実験を行う前の準備として、まず電子工学の基礎知識について学習する。その後電子工作実習を行い、次に電子工学への導入的な実験を行う。具体的にはまず、直流回路について学習した後、実験の心得およびリテラシについて説明し、次に工作実習としてキットを用いてテストを製作する。さらに、その製作テストを用いて、抵抗や電子素子で構成される基本電気回路についての導入的な実験を行う。 [後期] (富澤、塚原、中山) 電子メディア工学実験として下記8テーマについての実験を1～3名の班編成でローテーションして行う。その間、レポートの書き方についての説明を行うとともに、何回かレポート整理日を設け添削指導する。最後に理解度確認のための試験を行う。 1 巡目 ・乾電池の特性 ・分圧回路の作成とその特性 ・P.O.Boxによる中位抵抗の測定 ・電圧降下法による中位抵抗の測定 2 巡目 ・回路の諸定理 ・抵抗の温度特性 ・ヒューズの特性 ・モータの製作						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	直流回路基礎				
		2週	直流回路基礎				
		3週	直流回路基礎				
		4週	直流回路基礎				
		5週	直流回路基礎				
		6週	直流回路基礎				
		7週	実験心得・リテラシー				
		8週	電子工作 (テスターの製作)				
	2ndQ	9週	電子工作 (テスターの製作)				
		10週	電子工作 (テスターの製作)				
		11週	電子工作 (テスターの製作)				
		12週	電子工学基礎実験				
		13週	電子工学基礎実験				
		14週	電子工学基礎実験				
		15週	電子工学基礎実験				
		16週					
後期	3rdQ	1週	第1 順目実験テーマの説明				
		2週	1 順目第1 回実験				
		3週	レポートの書き方				
		4週	レポート作成				

		5週	1 順目第 2 回実験	
		6週	レポート作成	
		7週	1 順目第 3 回実験	
		8週	1 順目第 4 回実験	
	4thQ	9週	確認テスト	
		10週	第 2 順目実験テーマの説明	
		11週	2 順目第 1 回実験	
		12週	2 順目第 2 回実験	
		13週	2 順目第 3 回実験	
		14週	2 順目第 4 回実験	
		15週	確認テスト	
		16週		

評価割合			
	レポート	取組点（確認テスト含む）	合計
総合評価割合	70	30	100
配点	70	30	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物質科学基礎	
科目基礎情報							
科目番号		2E001		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		教科書：新編 化学：数研出版、問題集：セミナー化学基礎+化学：第一学習社、問題集：インプレス化学ノート：浜島書店					
担当教員		平井 里香,辻 和秀					
到達目標							
物質の三態やその間の状態変化が、個々の粒子の性質とどのように関係するか理解できる すべての気体に共通する法則について理解できる 溶解のしくみと溶液の様々な性質について理解できる 固体中の粒子の配列構造について理解できる 化学反応に伴うエネルギーの出入りについて理解出来る 電気エネルギーと化学エネルギーの関係について理解できる 化学反応の速さの表し方と、反応の速さを決める要因について理解できる 化学平衡における物質の量的関係および化学平衡の移動について理解できる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		物質の三態や気体の法則について十分理解し、これを用いた応用問題を解くことができる		物質の三態や気体の法則について理解し、これを用いた基礎問題を解くことができる		物質の三態や気体の法則について理解できず、これを用いた基礎問題を解くことができない	
評価項目2		溶液の性質や固体の構造について十分理解し、これを用いた応用問題を解くことができる		溶液の性質や固体の構造について理解し、これを用いた基礎問題を解くことができる		溶液の性質や固体の構造について理解できず、これを用いた基礎問題を解くことができない	
評価項目3		化学反応の熱の定量的な関係や電池や電気分解について十分に理解し、これを用いた応用問題を解くことができる		化学反応の熱の定量的な関係や電池や電気分解について理解し、これを用いた基礎問題を解くことができる		化学反応の熱の定量的な関係や電池や電気分解について理解できず、これを用いた基礎問題を解くことができない	
評価項目4		化学反応の速さや化学平衡について十分理解し、それに関する応用問題を解くことができる		化学反応の速さや化学平衡について理解し、それに関する基礎問題を解くことができる		化学反応の速さや化学平衡について理解できず、それに関する基礎問題を解くことができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		化学的な知識や考え方を身につけ、自然科学的なものの見方を学ぶ。また化学の知識や考え方を、日常生活や社会、それぞれの専門分野の学習に関連づけて考えられるようにする。					
授業の進め方・方法		講義中心の授業であるが、演習や実験を交えながら進める。					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	固体の構造：結晶とアモルファス		結晶とアモルファスについて理解できる		
		2週	固体の構造：金属結晶、イオン結晶		代表的な金属の結晶の構造について理解できる 代表的なイオン結晶の構造について理解できる		
		3週	固体の構造：分子間力と分子結晶、共有結合の結晶		分子間力の分類と分子結晶の構造について理解できる 共有結合の結晶の構造について理解できる		
		4週	物質の状態変化：粒子の熱運動、三態の変化とエネルギー		熱運動と温度の関係について理解できる 状態変化とエネルギーについて理解できる		
		5週	物質の状態変化：気液平衡と蒸気圧		気液平衡と蒸気圧について理解できる		
		6週	溶液：溶液とそのしくみ		イオン結晶と分子からなる物質が水に溶けるしくみを理解できる		
		7週	溶液：溶解度		気体の溶解度、溶液の濃度について理解できる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	溶液：希薄溶液の性質		希薄溶液について理解できる		
		10週	実験：凝固点降下				
		11週	気体：気体の体積		ボイルの法則やシャルルの法則について理解できる		
		12週	気体：気体の状態方程式		気体の状態方程式について理解できる		
		13週	気体：混合気体の圧力		全圧と分圧の関係について理解できる		
		14週	気体：実在気体		実在気体と理想気体の違いについて理解できる		
		15週	期末試験				
		16週	溶液：コロイド溶液		コロイド溶液の定義とその性質について理解できる		
後期	3rdQ	1週	化学反応とエネルギー：化学反応と熱		反応熱と熱の出入りについて理解できる		
		2週	化学反応とエネルギー：ヘスの法則		ヘスの法則について理解でき、これを用いた計算ができる 反応物や生成物の生成熱や結合エネルギーと反応熱の関係について理解できる		
		3週	化学反応とエネルギー：化学反応と光		化学反応と光の関係について理解できる		
		4週	実験				

		5週	電池と電気分解：電池	電池の原理について理解できる 実用電池について理解できる
		6週	電池と電気分解：電気分解1	電気分解について理解できる
		7週	電池と電気分解：電気分解2	電気分解の量的関係について理解でき、計算できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	化学反応の速さとしくみ：化学反応の速さ	反応の速さの表し方について理解できる
		10週	化学反応の速さとしくみ：反応条件と反応速度	反応速度と濃度、温度、触媒の有無などの関係について理解できる
		11週	化学反応の速さ：化学反応のしくみ	反応のしくみについて、粒子の衝突や活性化エネルギーという概念を用いて理解できる
		12週	化学平衡：可逆反応と化学平衡1	可逆反応と化学平衡について理解できる
		13週	化学平衡：可逆反応と化学平衡2	平衡定数と化学平衡の法則について理解できる
		14週	化学平衡：平衡状態の変化	平衡移動の原理を理解できる
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学基礎演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	2E002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	新 基礎数学 改訂版, 新 基礎数学問題集 改訂版, 新 微分積分I 改訂版, 新 微分積分I問題集 改訂版 高遠節夫ほか 大日本図書						
担当教員	布施川 秀紀						
到達目標							
☐ 三角関数, 指数関数, 対数関数の計算ができる。 ☐ 各種関数の微分の計算ができる。 ☐ 各種関数の積分の計算ができる。 ☐ 複素数の計算ができる。 ☐ 場合の和, 数列, 数列の和, 漸化式の計算ができる。 ☐ 行列の和, 差, 積, 逆行列の計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	様々な三角関数, 指数関数, 対数関数の計算ができる。		基本的な三角関数, 指数関数, 対数関数の計算ができる。		三角関数, 指数関数, 対数関数の計算ができない。		
評価項目2	各種関数の様々な微分の計算ができる。		各種関数の基本的な微分の計算ができる。		各種関数の微分の計算ができない。		
評価項目3	各種関数の様々な積分の計算ができる。		各種関数の基本的な積分の計算ができる。		各種関数の積分の計算ができない。		
評価項目4	様々な複素数の計算ができる。		基本的な複素数の計算ができる。		複素数の計算ができない。		
評価項目5	様々な場合の和, 数列, 数列の和, 漸化式の計算ができる。		基本的な場合の和, 数列, 数列の和, 漸化式の計算ができる。		場合の和, 数列, 数列の和, 漸化式の計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	微分, 積分, 数列・場合の数・三角関数・指数関数, 対数関数, 複素数について基本から復習する。						
授業の進め方・方法	基本的に学生が演習を行う。毎回小テストを実施し理解度を確認し, 理解度が低い者については繰り返し解説, 演習を行い, 理解を深める。						
注意点	特に微分・積分は, 高学年の専門科目の中で必要とされるスキルであるので, スラスラと計算ができるまでトレーニングをする必要がある。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	基本的な微分		基本的な微分の計算ができる。		
		2週	三角関数と三角関数の微分		三角関数と三角関数の微分の計算ができる。		
		3週	指数関数, 対数関数と指数関数, 対数関数の微分		指数関数, 対数関数と指数関数, 対数関数の微分の計算ができる。		
		4週	複素数		複素数の計算ができる。		
		5週	微分の応用		微分を応用した問題が解ける。		
		6週	場合の数		場合の数の数え方を理解する。		
		7週	数列		数列, 数列の和, 漸化式について理解する。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	基本的な積分		基本的な積分の計算ができる。		
		10週	定積分		基本的な定積分の計算ができる。		
		11週	三角関数, 指数関数, 対数関数の積分		三角関数, 指数関数, 対数関数の積分の計算ができる。		
		12週	置換積分		置換積分の計算ができる。		
		13週	部分積分		部分積分の計算ができる。		
		14週	積分の応用		積分を応用した問題が解ける。		
		15週	後期定期試験				
		16週	答案返却				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題、小テスト等	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	メディアリテラシ	
科目基礎情報							
科目番号	2E003			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	LaTeX2ε美文書作成入門:奥村晴彦、黒木 裕介:技術評論社:9784297117122, セ`ロからわかるUNIX基礎講座:中井 猷:技術評論社:9784774139807						
担当教員	布施川 秀紀						
到達目標							
☐ 1.pLaTeXを使って文書を作成することができる。 ☐ 2.Gnuplotを使って、グラフを描くことができる。 ☐ 3.Power Platformを使って、処理の自動化を作ることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	pLaTeXを使って論文等大規模な文書を作成することができる。		pLaTeXを使って簡単な文書を作成することができる。		pLaTeXを使って文書を作成することができない。		
評価項目2	Gnuplotを使って、自由にグラフを描くことができる。		Gnuplotを使って、簡単な数式のグラフを描くことができる。		Gnuplotを使って、グラフを描くことができない。		
評価項目3	Power Platformを使って、自由にソフトウェアを作ることができる。		Power Platformを使って、簡単なソフトウェアを作ることができる。		Power Platformを使って、ソフトウェアを作ることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1年次に習得したコンピ`ュータの基本的な使い方をさらに発展させ、より高度なド`キュメント作成、情報伝達、情報発信を行う能力を身につける。LaTeX や Gnuplot等を利用したド`キュメントの作成方法を学ぶ`。Power automateの使用法を学ぶ`。また、この科目は3年次以降に学習するフ`ロク`ラミング`等につな`がる。						
授業の進め方・方法	教科書、自作Webテキスト等を使い、PC画面上で操作方法を解説し、その後実習を行う。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	UNIXの基本コマンド` 1		1年次に学習したUNIXの基本コマンド` を使うことができる。		
		2週	UNIXの基本コマンド` 2		1年次に学習したUNIXの基本コマンド` を使うことができる。		
		3週	LaTeXの使い方1		LaTeXで簡単な文書作することができる。		
		4週	LaTeXの使い方2		LaTeXで基本的な環境を使うことができる。		
		5週	LaTeXの使い方3		LaTeXでよく使われる数式を書くことができる。		
		6週	LaTeXの使い方4		LaTeXで表や図を使うことができる。		
		7週	Gnuplotの使い方1		Gnuplotで簡単な関数を描くことができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	Gnuplotの使い方2		Gnuplotで複雑な関数を描くことができる。		
		10週	Gnuplotの使い方3		Gnuplotでより複雑な関数を描くことができる。		
		11週	Formsの使い方		Formsを使ってアンケートを作成することができる。		
		12週	Power Platformの使い方1		Power Platformを使ってソフトウェアを作成することができる。		
		13週	Power Platformの使い方2		Power Platformを使ってソフトウェアを作成する事ができる。		
		14週	Power Platformの使い方3		Power Platformを使ってソフトウェアを作成する事ができる。		
		15週	期末試験				
		16週	答案返却		期末試験の解説		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
pLaTeX	30	20	0	0	0	0	50
Gnuplot	10	10	0	0	0	0	20
Power Platform	20	10	0	0	0	0	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気基礎Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	2E004			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	「わかりやすい電気基礎」 高橋寛、増田英二 コロナ社 978-4-339-00757-2						
担当教員	市村 和也,中山 和夫						
到達目標							
☐ 正弦波交流回路の性質について理解できる。 ☐ 正弦波交流回路を、記号法を用いて取り扱うことができる。 ☐ 電流と磁気に関する現象について理解し、問題を解くことができる。 ☐ 静電気に関する現象について理解し、問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	正弦波交流回路の性質を十分に説明できる。		正弦波交流回路の性質を説明できる。		正弦波交流回路の性質を説明できない。		
評価項目2	正弦波交流回路の基礎問題を十分に解くことができる。		正弦波交流回路の基礎問題を解くことができる。		正弦波交流回路の基礎問題を十分に解くことができない。		
評価項目3	電流と磁気に関する現象について理解し、問題を十分に解くことができる。		電流と磁気に関する現象について理解し、問題を解くことができる。		電流と磁気に関する現象について理解し、問題を解くことができない。		
評価項目4	静電気に関する現象について理解し、問題を十分に解くことができる。		静電気に関する現象について理解し、問題を解くことができる。		静電気に関する現象について理解し、問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1年生のときに学習した「電気基礎Ⅰ」の続きとして、電気回路および電磁気学の基礎知識を修得させる。電気回路の分野としては、正弦波交流回路の取り扱い法と計算法について説明する。 また、電磁気学の分野では、まず電流と磁気に関する現象とその取り扱い法、つぎに静電気に関する現象とその取り扱い法について説明する。 いずれの場合も、演習問題を解かせながら理解を深めさせる。						
授業の進め方・方法	講義形式						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	正弦波交流の性質		正弦波交流の特徴を説明し、周期や周波数などを計算できる。 平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。		
		2週	正弦波交流起電力の発生		弧度法と角速度を理解し、位相や位相差などを計算できる。		
		3週	交流回路の取り扱い方1		R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。		
		4週	交流回路の取り扱い方2		R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。		
		5週	交流回路の取り扱い方3		RLC直列回路における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。		
		6週	交流回路の取り扱い方4		RLC並列回路における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。		
		7週	交流回路の電力		交流電力と力率を説明し、これらを計算できる。		
		8週	中間テスト				
	2ndQ	9週	中間テスト総括 共振回路		直列共振回路と並列共振回路の計算ができる。		
		10週	複素数 複素数のベクトル表示		複素数の計算ができる。 複素数のベクトル表示が理解できる。		
		11週	複素数の乗除とベクトルの関係		複素数の乗法・除法の計算ができ、ベクトルとの関係を理解できる。		
		12週	記号法による交流回路の取り扱い1		正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。 正弦波交流の複素表示を説明し、これを交流回路の計算に用いることができる。		
		13週	記号法による交流回路の取り扱い2		フェーザを用いて、簡単な交流回路の計算ができる。 インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。		
		14週	記号法による交流回路の取り扱い3		交流ブリッジ回路の平衡条件を求められる。		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ				

後期	3rdQ	1週	磁気1	電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。
		2週	磁気2	電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。
		3週	電流と磁界1	電流が作る磁界をビオ・サバールの法則およびアンペールの法則を用いて説明でき、簡単な磁界の計算に用いることができる。
		4週	電流と磁界2	磁性体と磁化、及び、磁束密度を説明できる。
		5週	電磁誘導作用1	電磁誘導を説明でき、誘導起電力を計算できる。
		6週	電磁誘導作用2	磁気エネルギーを説明できる。
		7週	電磁誘導作用3	自己誘導と相互誘導を説明でき、自己インダクタンス及び相互インダクタンスに関する計算ができる。相互誘導を説明し、相互誘導回路の計算ができる。理想変成器を説明できる。
		8週	中間テスト	
	4thQ	9週	中間テスト総括	
		10週	電磁力	電流に作用する力やローレンツ力を説明できる。
		11週	静電現象1	電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。
		12週	静電現象2	電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。
		13週	コンデンサと静電容量1	静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。静電エネルギーを説明できる。
		14週	コンデンサと静電容量2	静電容量の接続を説明し、その合成静電容量を計算できる。
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	計測基礎	
科目基礎情報							
科目番号	2E005			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	松本 佳宣： 新SI対応 デジタル時代の電気電子計測基礎, コロナ社／配布プリント						
担当教員	鈴木 靖,富澤 良行						
到達目標							
☐ 単位、標準、誤差、不確かさ、有効数字、近似式などについて理解し、実験結果の基本的な処理ができる。 ☐ OPアンプを用いた基本増幅回路・演算回路、フィルタ回路、AD変換器の原理を理解できる。 ☐ 各種電気量の測定法を理解できる。 ☐ 各種指示電気計器およびオシロスコープの原理を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		単位、標準、誤差、不確かさ、有効数字、近似式などについて深く理解し、実験結果の基本的な処理が良くできる。		単位、標準、誤差、不確かさ、有効数字、近似式などについて理解し、実験結果の基本的な処理ができる。		単位、標準、誤差、不確かさ、有効数字、近似式などについて理解できず、実験結果の基本的な処理もできない。	
評価項目2		演算増幅器やフィルタ、AD変換器などについて深く理解している。		演算増幅器やフィルタ、AD変換器などについて理解している。		演算増幅器やフィルタ、AD変換器などについて理解していない。	
評価項目3		各種電気量の測定について深く理解している。		各種電気量の測定について理解している。		各種電気量の測定について理解していない。	
評価項目4		各種指示電気計器の原理や、オシロスコープの取り扱いについて深く理解している。		各種指示電気計器の原理や、オシロスコープの取り扱いについて理解している。		各種指示電気計器の原理や、オシロスコープの取り扱いについて理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	単位と標準、不確かさ、測定値の処理など、計測の基礎について学び、つぎに交流回路の復習をするとともに演算増幅器、フィルタ、AD変換器について学習する。さらに各種電気量の測定法について学習し、最後にオシロスコープの取扱法について学ぶ。						
授業の進め方・方法	まず、測定の基礎である、単位、標準、不確かさ、誤差等について説明し、測定結果の処理法である最小二乗法の応用について簡単に説明する。次に、交流回路の計算法について復習を行い、電子計測でよく用いられる演算増幅器およびフィルタとその回路、またAD変換器について説明する。そして、各種電気量の測定測定について説明し、その後、オシロスコープの原理および取り扱いについて説明する。最後に応用計測の一例として、音に関する計測について述べる。途中、理解を確実にするために、まとめと練習問題を行う週を設ける。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	計測の基礎とSI	単位と標準、次元と表示法、SIについて理解している。			
		2週	測定手法と統計処理	測定手法、有効数字、不確かさとその伝搬、誤差について理解している。			
		3週	測定手法と統計処理	近似式、誤差分布と最小二乗法について理解し、計測値の処理が行える。			
		4週	交流回路の復習	電気回路、電子回路を扱うにあたり、基本的な回路計算ができる。			
		5週	演算増幅器とフィルタ	OPアンプを用いた基本増幅回路、演算回路について理解している。			
		6週	演算増幅器とフィルタ	フィルタ回路について理解し、基礎的なアナログ信号処理ができる。			
		7週	まとめと問題	ここまで学習してきた内容を理解している。			
		8週	中間テスト				
	4thQ	9週	AD変換器	基本的なAD変換器の原理について理解している。			
		10週	電圧測定、電流測定	交流電圧計の原理および測定法、また電流測定法について理解している。			
		11週	抵抗・インピーダンス測定	抵抗・インピーダンス測定法について理解している。			
		12週	電力測定	直流電力と交流電力について理解し、交流電力の測定法について説明できる。			
		13週	オシロスコープ	オシロスコープの原理を理解し、表示波形の取り扱いができる。			
		14週	まとめと問題	ここまで学習してきた内容を理解している。			
		15週	期末テスト				
		16週	応用計測	音に関する計測の概要について理解している。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50

專門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学実験	
科目基礎情報							
科目番号		2E006		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		実験・実習		単位の種別と単位数		履修単位: 4	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		4	
教科書/教材		配布プリント					
担当教員		電子メディア工学科 科教員,塚原 規志					
到達目標							
☐ 工学実験における基礎的手法を実演できる。 ☐ 各テーマの測定原理や実験方法について理解し、必要な計器・器具の取り扱いができる。 ☐ 書式に沿った正しい報告書を作成することができる。 ☐ 基本的な電子回路を製作することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各テーマの測定原理や実験方法について理解し、必要な計器・器具の取り扱いが十分にできる。		各テーマの測定原理や実験方法について理解し、必要な計器・器具の取り扱いができる。		各テーマの測定原理や実験方法について理解できず、必要な計器・器具の取り扱いができない。	
評価項目2		書式に沿った正しくきれいな報告書を作成することができる。		書式に沿った報告書を作成することができる。		書式に沿った正しい報告書を作成することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前後期各 8 テーマに関する実験実習を 1 ～ 3 名の班編成で行い、それぞれのテーマについて各自レポートを提出する。その間 3 週ごとに、それまでに行った実験について、理解度を確認するための簡単な試験を行う。					
授業の進め方・方法		実験実習					
注意点		出席して実験し、レポートを提出するまでが”実験”です。欠席してもレポートは提出しなければなりません。レポートが提出されない場合は実験を行ったとみなしません。レポートは必ず提出すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期実験テーマの説明1				
		2週	前期実験テーマの説明2				
		3週	前期実験テーマの説明3				
		4週	前期実験1				
		5週	前期実験2				
		6週	前期実験3				
		7週	前期確認テスト1				
		8週	前期実験4				
	2ndQ	9週	前期実験5				
		10週	前期実験6				
		11週	前期確認テスト2				
		12週	前期実験7				
		13週	前期実験8				
		14週	前期確認テスト3				
		15週	レポート整理				
		16週					
後期	3rdQ	1週	後期実験テーマの説明1				
		2週	後期実験テーマの説明2				
		3週	後期実験テーマの説明3				
		4週	後期実験1				
		5週	後期実験2				
		6週	後期実験3				
		7週	後期確認テスト1				
		8週	後期実験4				
	4thQ	9週	後期実験5				
		10週	後期実験6				
		11週	後期確認テスト2				
		12週	後期実験7				
		13週	後期実験8				
		14週	後期確認テスト3				

		15週	レポート整理	物理、化学、情報、工学についての基礎的原理や現象を、実験を通じて理解できる。 基礎的原理や現象を理解するための実験手法、実験手順、実験データ処理法等について理解する。 実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の取扱いに慣れ、安全に実験を行うことができる。 実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の進め方について理解し、実践できる。 実験テーマの内容を理解し、実験・測定結果の妥当性評価や考察等について論理的な説明ができる。 実験ノートの記述、及び実験レポートの作成の方法を理解し、実践できる。
		16週		

評価割合			
	レポート	実験の取り組み方	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

群馬工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電子メディア工学基礎演習
科目基礎情報				
科目番号	2E007		科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	2
開設期	後期		週時間数	2
教科書/教材	(1) 「技術者倫理-技術者として幸福を得るために考えておくべきこと-」 堀田 源治, 辻井 洋行, 水井 万里子著 (日刊工業新聞社) 978-4526076114 (2) 「システム英単語」 霜 康司, 刀祢 雅彦 著 (駿台文庫: 5訂版) 978-4796111379 (3) 「知ってますか? 理系研究の"常識"」 掛谷英紀 著 (森北出版株式会社) 978-4627973619			
担当教員	五十嵐 睦夫			
到達目標				

- ☐理工系の現場で必要となる英語の初歩的なレベルに到達できる。
☐電磁気学演習Ⅰへの準備として2年次の物理における電磁気分野の復習ができる。
- ☐説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。
☐現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。
- ☐技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。
☐社会における技術者の役割と責任を説明できる。
☐情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。
☐高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。
☐環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。
☐環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。
☐国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。
☐過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。
☐知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。
☐知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。
☐技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。
☐技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。
- ☐全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。
☐技術者を指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。
☐科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。
☐科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。
- ☐それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。
☐様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。
☐異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。
☐それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。
☐日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。
☐他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。
☐他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。
☐日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。
☐円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。
☐円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。
☐他者の意見を聞き合意形成することができる。
☐合意形成のために会話を成立させることができる。
☐グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。
☐書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。
☐収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。
☐収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。
☐情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。
☐情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。
☐目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。
☐あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる
☐複数の情報を整理・構造化できる。
☐特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。
☐課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。
☐グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。
☐どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。
☐適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。
☐事実をもとに論理や考察を展開できる。
☐結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。
☐周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。
☐自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。
☐目標の実現に向けて計画ができる。
☐目標の実現に向けて自らを律して行動できる。
☐日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。
☐社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。
☐チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。
☐チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。
☐当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。
☐チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。
☐リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。
☐適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。
☐リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている
☐法令やルールを遵守した行動をとれる。
☐他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。
☐技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を上げることができる。
☐その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。
☐キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。
☐企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。
☐企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。
☐企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。
☐企業には社会的責任があることを認識している。
☐企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。
☐企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。
☐社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。
☐技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。
☐技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	技術者倫理を深く理解し、技術者としての職責に耐えることができる。	最低限の技術者倫理を理解しており、技術者としての職責を果たす素地を備えている。	最低限の技術者倫理も理解できず、技術者としての職責を果たすことができない。
評価項目2	セミナー形式での議論に積極的に参加することができる。	セミナー形式の議論に、促されれば参加することができる。	セミナー形式の議論に加わることはできない。
評価項目3	技術的な英語で書かれた文書の内容を正確に理解することができる。	技術的な英語で書かれた文書の内容をある程度理解することができる。	技術的な英語で書かれた文書の内容を理解することができない。

評価項目4	電子メディア工学の学習の基礎としての高校程度の電磁気学の基礎問題に対し、十分に詳細な答案を書くことができる。	電子メディア工学の学習の基礎としての高校程度の電磁気学の基礎問題がある程度解くことができる。	電子メディア工学の学習の基礎としての高校程度の電磁気学の基礎問題を解くことができない。	
評価項目5	英語で仕事ができる高専生としての目標に関し、ある程度の英単語は十分に再現することができる。	英語で仕事ができる高専生としての目標に関し、ある程度の英単語なら再現することができる。	英語で仕事ができる高専生としての目標に関し、ある程度の英単語も再現することができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	・技術者倫理に関係して習得することが定められている事項について、グループ学習をおこなう。 ・学習は以下の3段階を輪番でこなすことにより進める。総合的な学力を高めつつ対人能力の向上も目指す。 (1)発表原案作成 (2)討論による原稿作成 (3)発表 ・電磁気学の基本的例題を習得する。 ・普段より英単語の暗唱に努める。			
授業の進め方・方法	・技術者倫理関係の学習においては、全体を10グループ程度に分けて進める。 ・英単語学習に関しては授業時間冒頭に小テストをおこない、達成度を確認する。高専機構が掲げる「グローバルエンジニア教育」に準拠した取り組みの一環である。 ・小テストは2年次の物理における電磁気分野の復習に対してもおこなう。電子メディア工学を学修するための基礎力を高めるための内容であるので、重要な位置づけのものである。			
注意点	・自らの役割を深く意識し、相応の対応をすることが求められる。 ・相互評価も課題のひとつである。発表現場に居合わせて対応することも評価対象であるから、欠席をしないこと。 ・各種試験が低い達成度であった場合、再評価のために追加課題を課す。その場合には、下記の評価割合を適用する。ただし、追加評価による評価点の上限は60点とする。 課題（基本・追加）30% 小テスト10% 中間試験10% 定期試験10% その他40% ・再評価によっても不合格であった場合は、最終評価のために最終課題を課す。その場合には、下記の評価割合を適用する。ただし、最終評価による評価点の上限も60点とする。 課題（基本・追加・最終）40% 小テスト5% 中間試験5% 定期試験10% その他40%			
授業の属性・履修上の区分				
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	・授業の進め方に関する説明を理解し、グループ分け等を把握できる。
		2週	【主題1 議論】技術者倫理の基本と実践 【小テスト1】	・説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。 ・現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。 ・技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。 ・社会における技術者の役割と責任を説明できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		3週	【主題2 議論】情報倫理 【小テスト2】	・情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。 ・高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		4週	【主題1・2 発表】主題1および2のグループ発表	・各人の役回りを的確に意識しながら、グループ発表をこなすことができる。 ・他者の発表を真摯に聴講し、相互評価をおこなうことができる。
		5週	【主題3 議論】環境倫理 【小テスト3】	・環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。 ・環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		6週	【主題4 議論】国際貢献・地域貢献 【小テスト4】	・国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。 ・過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		7週	【主題3・4 発表】主題3および4のグループ発表	・各人の役回りを的確に意識しながら、グループ発表をこなすことができる。 ・他者の発表を真摯に聴講し、相互評価をおこなうことができる。

		8週	中間試験	・英単語トレーニング試験に解答できる。 ・評価シートへの記入および提出ができる。
	4thQ	9週	【主題 5 議論】知的財産 【小テスト 5】	・知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。 ・知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		10週	【主題 6 議論】法令順守 【小テスト 6】	・技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。 ・技術者を目指す者として、諸外国の文化や慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握できる。 ・工学基礎としての基本的英単語を暗誦できる。
		11週	【主題 5 ・ 6 発表】 主題 5 および 6 のグループ発表	・各人の役回りを的確に意識しながら、グループ発表をこなすことができる。 ・他者の発表を真摯に聴講し、相互評価をおこなうことができる。
		12週	【主題 7 議論】技術史の基本と実践 【小テスト 7】	・科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 ・科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。
		13週	【主題 8 議論】持続可能性 【小テスト 8】	・全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。 ・技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。
		14週	【主題 7 発表】 主題 7 のグループ発表 【報告書準備】	・各人の役回りを的確に意識しながら、グループ発表をこなすことができる。 ・他者の発表を真摯に聴講し、相互評価をおこなうことができる。 ・自らが深くかかわった主題についての報告書原稿を準備できる。
		15週	定期試験	・単語確認を中心としたテストに解答できる。 ・評価シートの記入および提出ができる。
		16週	【主題 8 発表】 主題 8 のグループ発表 【報告書完成】	・各人の役回りを的確に意識しながら、グループ発表をこなすことができる。 ・他者の発表を真摯に聴講し、相互評価をおこなうことができる。 ・自らが深くかかわった主題についての報告書を完成できる。

評価割合

	取り組み	ポートフォリオ	相互評価	電磁気課題	小テスト	中間試験	期末試験	合計
総合評価割合	10	20	10	20	20	10	10	100
科目成績	10	20	10	20	20	10	10	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語講読
科目基礎情報						
科目番号	3E001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：『高等学校現代文B改訂版』三省堂 副教材：『常用漢字フォルダ』浜島書店・『新訂総合国語便覧』第一学習社					
担当教員	難波 宏彰					
到達目標						
□文章表現の的確に読解することができる。 □文章表現の的確な読解を通して、自分の考えを深め、発展させることができる。 □言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身につけることができる。 □目的や課題に応じて適切に文章を作成することができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文章表現の的確な読解を通して、自分の考えを深め、発展させることができる。		文章表現の的確な読解を通して、自分の考えを深めることができる。	文章表現の的確な読解を通して、自分の考えを深めることができない。		
評価項目2	言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身につけることができる。		言葉の特徴やきまりなどについて理解を深めることができる。	言葉の特徴やきまりなどについて理解を深めることができない。		
評価項目3	常用漢字について、漢検2級レベル以上の運用能力を身につけることができる。		常用漢字について、漢検準2級レベルの運用能力を身につけることができる。	常用漢字について、漢検準2級レベルの運用能力を身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	評論・小説の的確な読解を通して認識力・思考力を伸ばすと共に、感受性を豊かにすることによって、現代の複雑多様な言語生活に適応できる能力を身につける。					
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。 毎時冒頭に漢字小テストを実施する。					
注意点	予習・復習に相応の時間を充てること。 授業時は国語辞典を必ず持参すること。					
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論1 鷲谷いづみ：人類による環境への影響	授業の概要と目標を理解する。 表現や語句の意味について、理解を深めることができる。		
		2週	評論1 鷲谷いづみ：人類による環境への影響	文章の構成や展開を確認しつつ、筆者の意図を捉えることができる。		
		3週	評論1 鷲谷いづみ：人類による環境への影響	人類の環境戦略の経緯をふまえて、筆者の主張や生態系への関わり方を考察することができる。		
		4週	評論2 池内 了：「なぜ」答えられない科学	表現や語句の意味について、理解を深めるとともに文章の構成を理解し筆者の意図を捉える。		
		5週	評論2 池内 了：「なぜ」答えられない科学	筆者の意図を捉え、「科学」と「人間」のありようについて考察することができる。		
		6週	評論3 中村 雄二郎：情報ネットワーク社会	表現や語句の意味について、理解を深めることができる。 また、文章の構成や展開を確認しつつ、筆者の意図を捉えることができる。		
		7週	評論3 中村 雄二郎：情報ネットワーク社会	筆者の主張をふまえ、「情報ネットワーク社会」について自分の考えを整理することができる。		
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	表現演習1 小論文作成	評論1・2・3の学習成果に基づき、テーマを任意に設定し、論述することができる。		
		10週	評論4 多和田 葉子：夢は何語で見る	表現や語句の意味について、理解を深めるとともに文章の構成を理解し筆者の意図を捉える。		
		11週	評論4 多和田 葉子：夢は何語で見る	筆者の主張をふまえ、「多言語社会」の在り方について自分の考えを整理することができる。		
		12週	小説 絲山 秋子：ベル・エポック	表現や語句の意味について、理解を深めることができる。		
		13週	小説 絲山 秋子：ベル・エポック	表現上の特徴に注目することで内容の理解を目指すことができる。		
		14週	小説 絲山 秋子：ベル・エポック	人物の心情の推移を把握しながら文章を読み取ることができる。		
		15週	前期定期試験			
		16週	前期総括	前期の授業内容を振り返り、得られた成果と未達成の課題について自ら確認することができる。		
後期	3rdQ	1週	評論5 大竹 文雄：落語の中の経済学	表現や語句の意味について、理解を深めることができる。		

		2週	評論 5 大竹 文雄：落語の中の経済学	文章の構成や展開を確認しつつ、筆者の意図を捉えることができる。
		3週	評論 5 大竹 文雄：落語の中の経済学	取引をテーマとする落語をふまえ、経済学とはなにかを理解することができる。
		4週	評論 6 岡 真理：「文化が違う」とは何を意味するのか	表現や語句の意味について、理解を深めることができる。
		5週	評論 6 岡 真理：「文化が違う」とは何を意味するのか	文章の構成や展開を確認しつつ、筆者の意図を捉えることができる。
		6週	評論 6 岡 真理：「文化が違う」とは何を意味するのか	「文化の違い」に関する筆者の論述を的確に読解することができる。
		7週	評論 6 岡 真理：「文化が違う」とは何を意味するのか	筆者が指摘する「文化の違い」をふまえ、「文化を理解」することについて自分の考えを整理することができる。
		8週	後期中間試験	
		4thQ	9週	表現演習 2 小論文作成
	10週		評論 7 丸山 真男：「である」ことと「する」こと	表現や語句の意味について、理解を深めることができる。
	11週		評論 7 丸山 真男：「である」ことと「する」こと	論理展開を捉えるための文章構成について理解することができる。
	12週		評論 7 丸山 真男：「である」ことと「する」こと	文章の構成や展開を確認しつつ、筆者の意図を捉えることができる。
	13週		評論 7 丸山 真男：「である」ことと「する」こと	筆者の考える「である」論理・「する」論理について、理解を深めることができる。
	14週		評論 7 丸山 真男：「である」ことと「する」こと	「である」論理・「する」論理という筆者の問題意識をふまえ、社会事象を捉え直す観点を獲得できる。
	15週		後期定期試験	
	16週		後期総括	1 年間の授業内容を振り返り、得られた成果と今後の課題について自ら確認することができる。

評価割合				
	試験	漢字小テスト	提出課題	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	倫理
科目基礎情報						
科目番号	3E002			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	教科書：『高等学校 倫理』 第一学習社 資料集：『テオーリア 最新倫理資料集』 第一学習社					
担当教員	岩井 尚龍,石関 正典					
到達目標						
☐ 人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。 ☐ (知識・技能) 人間存在にかかわる哲学、倫理、宗教、心理、現代の諸課題などのテーマについて学ぶことを通して、理解を深めることができる。 ☐ (思考・判断・表現) 人間存在にかかわる哲学、倫理、宗教、心理、現代の諸課題などのテーマについて、一人ひとりが主体的に考察し、自分の意見をまとめ、表現することができる。 ☐ (主体的に学習に取り組む態度) 自分から進んで先哲の書物や研究書などを読み、思索を深めたり、周囲の人たちと対話したりすることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	哲学、倫理、宗教、心理等についての学習を通して、学び方を身に付け理解を深めている。		哲学、倫理、宗教、心理等についての学習を通して、学び方を身に付け理解しようと努めている。		哲学、倫理、宗教、心理等についての学習を通しての学び方や理解が不十分である。	
評価項目2	先哲の思想や現代の思想に関心を持ち、資料をよく読み、自分の考えをまとめ、表現している。		先哲や現代の思想を理解しようと努力し、自分の考えを持とうとしていたり表現しようとしている。		先哲や現代の思想への理解が不十分で、自分の考えを持ったり表現しようとしていない。	
評価項目3	自分から進んで倫理的諸課題について思索を深めたり、対話したりしている。		倫理的諸課題について思索を深めたり、対話したりしようとしている。		倫理的諸課題について思索を深めたり、対話したりしようとする姿勢がみられない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・この授業のコンセプトあるいはフレームワークは、この科目が包括する内容（哲学、倫理学、宗教学、心理学、日本思想）のサーベイ・コースである。 ・人生、家族、社会、国家、世界等が直面する諸課題やそのなかでの人間としての在り方生き方について、考察を深めるための知のツールやスキルを得ることを目的とする。 ・過去及び現代社会における倫理的な諸課題を取り上げ、ともに考察していきたい。					
授業の進め方・方法	講義形式。その他、副教材としてプリントを適宜配布する。参考書は、その都度紹介する。 ※参考書 〔哲学倫理入門書として薦めたい本〕 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書） 岩田靖夫『いま哲学とは何か』（岩波新書） 岩田靖夫『よく生きる』（ちくま新書） 竹田青嗣『哲学ってなんだ』（岩波ジュニア新書） 高橋昌一郎『哲学ディベート』（NHKブックス） 小熊英二『社会を変えるには』（講談社現代新書） ラッセル『哲学入門』（ちくま学芸文庫） 橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』（講談社現代新書） 西研『ヘーゲル・大人のなり方』（NHKブックス） 〔古典〕 プラトン『ソクラテスの弁明』『饗宴』などソクラテス対話篇（岩波文庫、新潮文庫） デカルト『方法序説』（岩波文庫） ラッセル『幸福論』（岩波文庫） ベルクソン『笑い』（岩波文庫） ミル『自由論』（光文社古典新訳文庫）					
注意点	・ノートは必ず用意し、板書等要点を書き留めてもらいたい。またプリントをファイルしてもらいたい。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション 現代社会の倫理的課題について さまざまな人間観について	倫理を学ぶ意味や学び方を理解する 現代社会の倫理的課題について知る 人間についての代表的な捉え方を知る		
		2週	青年期の特質と心理について	青年期の特質と課題を理解する 適応、パーソナリティ、性格について理解する		
		3週	自然哲学について ソフィストについて	学問の起源について知る デモクラシーの確立と相対主義について理解する		
		4週	ソクラテスについて プラトンについて	対話と魂の配慮について学び、よく生きることについて理解する 理想主義について理解する		
		5週	アリストテレスについて ヘレニズム思想について	現実主義的存在論や道徳論を理解する コスモポリテースの思想の特徴を知る		
		6週	旧約聖書とユダヤ教について イエスとキリスト教思想について	一神教の世界観とユダヤ教の特徴を知る 律法の内面化とキリスト教思想の展開について理解する		
		7週	イスラームについて	イスラームについて知る		
		8週	中間試験			

後期	2ndQ	9週	古代インド宗教について ゴータマブッダと仏教思想について	インド思想の特徴を知る 四諦、無我から空や唯識思想への発展を理解する			
		10週	春秋戦国と諸子百家について 孔子の思想について	国家の繁栄に必要な条件とは何か知る 古代共同体文化と仁を理解する			
		11週	儒教の展開と朱子学、陽明学について 儒家批判の思想について	性善説、性悪説、朱子学、陽明学の概要を理解する 老荘思想について理解する			
		12週	日本文化の特徴について 日本仏教について	日本文化の固有性と重層性について知る 仏教の日本導入の特徴、日本化した特徴について理解する			
		13週	日本儒学について 国学について 民衆思想について	儒教の導入の特徴、日本化した特徴を知る 国学の誕生とその特徴について理解する 江戸期の民衆の思想について知る			
		14週	幕末の思想 明治維新と西洋近代思想の受容について 日本文学と近代的自我の確立について	西洋思想との邂逅と受容の特徴を知る 維新後の啓蒙期、自由民権思想や基督教、社会主義の受容、国家主義等について知る			
		15週	日本哲学の確立について 民衆文化理解について 現代日本の思想的課題について	西田、和辻、鈴木大拙の思想について知る 民俗学や民芸運動について理解する 近代批評や政治状況批判について考える			
		16週	定期試験				
	後期	3rdQ	1週	ルネサンスの思想について 宗教改革の思想について モラリストについて	自由意志論、君主論について理解する その革新性と保守性、影響を知る 混乱期の生き方と世界認識について知る		
			2週	近代科学の誕生について 経験主義について 理性主義について	新しい自然観を理解する 英国思想の特徴と問題点を理解する 大陸思想の特徴と問題点を理解する		
			3週	ドイツ理想主義について	カントの認識論と倫理思想を理解する ヘーゲル哲学の特徴と現実社会とのコミットメントについて理解する		
			4週	社会契約説について 功利主義について プラグマティズムについて	その歴史的意義と特徴とを理解する 自由経済と倫理的諸課題について知る 真理の有用性や道具主義について理解する		
			5週	社会主義について	その誕生の経緯や歴史的背景を理解する マルクスの思想の概要を理解する		
			6週	19世紀の実存主義について	キルケゴールの主体的真理や実存を知る ニーチェのニヒリズムとキリスト教道徳批判について理解する		
			7週	20世紀の実存主義について	限界状況、死への存在、アンガー・ジュマン等の実存の捉え方について理解する		
			8週	中間試験			
4thQ		9週	現代思想の源流について	心理学、生の哲学、現象学について学び、その現代思想への影響を知る			
		10週	ナチズム、全体主義批判について	フランクフルト学派の批判理論を知る 反全体主義思想によるナチズム批判について理解する			
		11週	現代の政治哲学について	正義論、リベタリアニズム、コミュニタリアニズム、リベラリズム等について考える			
		12週	大衆社会、現代社会批判について	大衆社会への批判について知る 現代の世界における経済的構造への倫理的アプローチを理解する			
		13週	言語学を起源とする思想・哲学について	構造主義について学び、その後の思想への影響について理解する 分析哲学、科学哲学について知る			
		14週	現代のヒューマニズムについて 現代社会の倫理的課題（1）	社会の諸課題に実践と参加で立ち向かった人々について知る 生命倫理とその諸課題について考える			
		15週	現代社会の倫理的課題（2）	環境倫理とその諸課題について考える 家族及び情報社会の諸課題について知る 多文化共生と国際平和について考える			
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	3E003			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書：高等学校新地理総合 (帝国書院) 地図帳：新詳高等地図(帝国書院)					
担当教員	石関 正典					
到達目標						
グローバル化が進化した今日、世界のどの国もその国だけで政治や経済活動を行うことはできない。また、私たちが暮らす日本は、世界にも例がないほど自然豊かな国であり、その恩恵は数えきれないが、一方で地震や火山、台風などの自然災害に見舞われることもある。地理の学習を通じて、地理的な見方や考え方、地図の読図などの技能を養うとともに、防災のための知識や、平和で民主的な国家・社会を切り拓き、持続可能な社会の実現に向け主体的に行動できる総合力を身につけることを目標とする。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1		地形の形成要因や気候の特徴を踏まえつつ、人間生活の展開を説明することができる。		地形の形成要因や気候の特徴を説明することができる。		地形の形成要因や気候の特徴を説明できない。
評価項目2		地図、グラフ、統計資料などを適切に活用し、地理的事象を説明できる。		地図、グラフ、統計資料などを適切に読み取ることができる。		地図、グラフ、統計資料を適切に読み取ることができない。
評価項目3		防災・減災や環境問題など地球的課題への対応には地理的な見方や考え方が必要であることを理解している。		地形・気候と自然災害の関連や、環境問題など地球的課題の現状を理解している。		地形・気候と自然災害の関連や、環境問題など地球的課題の現状を理解できていない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		☐ 世界の諸地域の特色を、地形、気候等の地理的環境と人々の生活様式との関わりの中で理解する。 ☐ 地図の活用方法を学び、さまざまな地図や資料を活用して、身近な地域やグローバル化する現代世界の特色を考察する。 ☐ 身近な地域の自然環境や産業、歴史などに関心を持ち、郷土に愛着や誇りを持って地域社会に貢献できる人材になる。 ☐ 近年多発する地震・火山の噴火などの自然災害や、ゲリラ豪雨・雪害などの気象災害について認識を深め、防災や減災のために私たちができることを考える。				
授業の進め方・方法		☐ 授業は指定の教科書・地図帳を用い、基本的に講義形式で行う。学生には積極的な発言や質問を期待する。 ☐ 群馬県など身近な地域の事例も積極的に取り上げる。 ☐ 白地図、地形図等のワークシートを使用し学習内容の定着を図るとともに、地図や資料を読み取る力、活用する力を養う。 ☐ ノートやレポートの作成を通じて、自分で学習内容をまとめる力や文章表現力を身につける。 ☐ 最終的な評価は試験と提出物（ノート、ワークシート、レポート）の合算で行う。				
注意点		☐ 白地図や地形図に着色したり、雨温図などを作図する場合があるので、色鉛筆、マーカー等を準備してください。 ☐ 中間試験前、期末試験前にノート提出を行うので、地理のノートを用意してください（学科・整理番号・名前を記載）。 。ルーズリーフを使用する人は紛失等を防ぐためファイルに綴じて提出してください）。 ☐ ノート提出や課題提出を怠らないようにすること。				
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	世界の地形と人々の生活（１） 大地形と人々の生活		内的営力・外的営力やプレートテクトニクスなど大地形形成のメカニズムを説明できる。	
		2週	世界の地形と人々の生活（２） 変動帯・安定地域と人々の生活		造山帯・安定地域の特徴や鉱産資源など人々の生活との関わりを説明できる。	
		3週	河川がつくる地形と人々の生活（１） 扇状地の地形と生活		扇状地の地形的特色や土地利用を説明できる。 地形図の読図や活用ができる。	
		4週	河川がつくる地形と人々の生活（２） 氾濫原の地形と生活		氾濫原の地形的特色や土地利用を説明できる。 地形図の読図や活用ができる。	
		5週	河川がつくる地形と人々の生活（３） 台地の地形と生活		台地、河岸段丘の地形的特色や土地利用を説明できる。 地形図の読図や活用ができる。	
		6週	海岸の地形と人々の生活（１） 沈水海岸		リアス海岸、三角江などの地形的特色や生活との関わりを説明できる。 地形図の読図や活用ができる。	
		7週	海岸の地形と人々の生活（２） 離水海岸		海岸平野、海岸段丘などの地形的特色や生活との関わりを説明できる。 地形図の読図や活用ができる。	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	世界の気候と人々の生活(１) 気候要素と大気大循環		世界の気温分布や降水の条件、大気大循環の仕組みと風の種類を説明できる。	
		10週	世界の気候と人々の生活(２) ケッペンの気候区分		ケッペンの気候区分の指標や記号を理解し活用できる。	
		11週	防災と地域づくり(１) 日本の地形		日本列島の地形的特色やプレートと地形の関係を説明できる。	

		12週	防災と地域づくり(2) 日本の気候	日本の気候の特色を気温や降水量の変化に着目して説明できる。 気象災害の種類とその対策を理解する。
		13週	防災と地域づくり(3) 地震・津波	地震の種類、地震に伴って発生する主な災害を説明できる。 防災・減災のための取り組みや私たちにできることを説明できる。
		14週	防災と地域づくり(4) 火山・噴火	火山の形成要因や噴火に伴うさまざまな災害を説明できる。 火山がつくる自然環境を活かした取り組みを説明できる。
		15週	定期試験	
		16週	学習のまとめ	これまでの学習内容を整理し、地球的課題に対応するためには地理的な見方や考え方が必要なことを理解する。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	3E004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分II改訂版（大日本図書） / 新微分積分II問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	伊城 慎之介						
到達目標							
関数の展開と2変数関数の微分について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ 無限数列や無限級数の収束、発散の概念が理解できる。 ☐ 初等関数のマクローリン展開やテイラー展開を具体的に求めることができる。 ☐ いろいろな関数の偏導関数を求めることができる。 ☐ 偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。 ☐ 接平面の方程式を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	無限数列や無限級数の収束、発散の概念を十分に理解して、初等関数のマクローリン展開やテイラー展開を具体的に求めることができる		無限数列や無限級数の収束、発散の概念が理解でき、初等関数のマクローリン展開やテイラー展開を具体的に求めることができる		無限数列や無限級数の収束、発散の概念が理解できない。初等関数のマクローリン展開やテイラー展開を具体的に求めることができない。		
評価項目2	いろいろな2変数関数について、偏導関数を求めることができる。		基本的な2変数関数について、偏導関数を求めることができる。		基本的な2変数関数について、偏導関数を求めることができない。		
評価項目3	偏導関数を用いて、複雑な2変数関数の極値を求めることができる。		偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。		偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・ 無限数列や無限級数の収束、発散の概念を学習する。 ・ 初等関数のマクローリン展開やテイラー展開を具体的に求める。 ・ 2変数関数のグラフ、連続性等の基本概念を学習する。 ・ 偏微分の概念、全微分の概念等を、幾何学的考察を取り入れて理解する。初等関数の（高次）偏導関数の計算法を習得する。 ・ 偏微分の応用として、極値問題、陰関数の微分法、包絡線等の理論を学び、具体的問題の解決能力を養う。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の展開 (1)		一次式による近似ができる。		
		2週	関数の展開 (2)		多項式による近似ができる。		
		3週	関数の展開 (3)		数列の極限を理解できる		
		4週	関数の展開 (4)		級数を理解できる		
		5週	関数の展開 (5)		マクローリン展開ができる。		
		6週	関数の展開 (6)		オイラーの公式を理解できる。		
		7週	偏微分法 (1)		2変数関数の定義域やグラフを理解している。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	偏微分法 (2)		いろいろな関数の偏導関数を求めることができる。		
		10週	偏微分法 (3)		接平面の方程式を求めることができる。		
		11週	偏微分法 (4)		合成関数の偏微分法を利用した計算ができる。		
		12週	偏微分の応用 (1)		基本的な関数について、2次までの偏導関数を計算できる。		
		13週	偏微分の応用 (2)		偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。		
		14週	偏微分の応用 (3)		条件付き極値の問題を解ける。		
		15週	偏微分の応用 (4)		包絡線を理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	3E005			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	新微積分Ⅱ改訂版（大日本図書） / 新微積分Ⅱ問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	伊城 慎之介						
到達目標							
重積分、微分方程式について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ 2重積分における累次積分の計算をすることができる。 ☐ 極座標に変換することによって2重積分を計算することができる。 ☐ 2重積分を用いて、基本的な立体の体積を求めることができる。 ☐ 基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。 ☐ 基本的な1階線形微分方程式を解くことができる。 ☐ 定数係数2階線形微分方程式を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な関数の2重積分における累次積分の計算をすることができる。			2重積分における累次積分の計算をすることができる。		2重積分における累次積分の計算をすることができない。	
評価項目2	2重積分を用いて、様々な立体の体積を求めることができる。			2重積分を用いて、基本的な立体の体積を求めることができる。		2重積分を用いて、基本的な立体の体積を求めることができない。	
評価項目3	様々な変数分離形の微分方程式を解くことができる。			基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。		基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができない。	
評価項目4	定数係数非斉次2階線形微分方程式を解くことができる。			定数係数斉次2階線形微分方程式を解くことができる。		定数係数斉次2階線形微分方程式を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・ 2重積分の定義を理解し、さまざまな累次積分を計算できるようにする。 ・ 重積分の計算に欠かせない座標変換の理論を学び、与えられた被積分関数と領域に適した座標変換を見出し、計算する能力をつける。 ・ 計算能力や、空間把握能力を習得し、空間図形の体積の求め方を学習する。 ・ 広義積分の概念を理解し、計算技能の習熟を図る。 ・ 重積分の応用として、曲面積や平面図形の重心を求める。 ・ 微分方程式の意味を学び、1階微分方程式につき、変数分離形、同次形、線形の場合等の解法について学ぶ。 ・ 2階線形微分方程式の解の一般的性質といくつかの典型的な場合の解法について学ぶ。さらに線形ではないが解くことができる例についても学ぶ。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	2重積分 (1)	2重積分の定義を理解している。			
		2週	2重積分 (2)	2重積分を累次積分に直して計算することができる。			
		3週	2重積分 (3)	いろいろな2重積分を計算することができる。			
		4週	変数の変換と重積分 (1)	座標変換をすることで2重積分を計算することができる。			
		5週	変数の変換と重積分 (2)	極座標に変換することによって2重積分を計算することができる。			
		6週	変数の変換と重積分 (3)	広義積分が理解できる。			
		7週	変数の変換と重積分 (4)	2重積分を応用していろいろな問題を解ける。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	1階微分方程式 (1)	微分方程式の意味を理解している。			
		10週	1階微分方程式 (2)	基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。			
		11週	1階微分方程式 (3)	基本的な1階線形微分方程式を解くことができる。			
		12週	2階微分方程式 (1)	線形微分方程式の性質を理解できる。			
		13週	2階微分方程式 (2)	定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。			
		14週	2階微分方程式 (3)	定数係数2階非斉次線形微分方程式を解くことができる。			
		15週	2階微分方程式 (4)	いろいろな微分方程式を解くことができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	3E006			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	奈須田 祐大					
到達目標						
行列式と行列の応用について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ 行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。 ☐ 行列式を用いて、連立一次方程式の解や行列の逆行列を計算できる。 ☐ 線形変換の定義を理解し、合成変換と逆変換を求めることができる。 ☐ 固有値と固有ベクトルを求めることができる。 ☐ 行列の対角化ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	行列式の定義および性質を良く理解し、行列式の値を求めることができる。行列式を用いて、様々な問題が解ける。		行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。行列式を用いて、連立一次方程式の解や行列の逆行列を計算できる。		行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができない。行列式を用いて、連立一次方程式の解や行列の逆行列を計算できない。	
評価項目2	線形変換の定義を良く理解し、合成変換と逆変換に関する問題を解くことができる。		線形変換の定義を理解し、合成変換と逆変換を求めることができる。		線形変換の定義を理解し、合成変換と逆変換を求めることができない。	
評価項目3	固有値と固有ベクトル、行列の対角化を用いる問題が解ける。		固有値と固有ベクトルを求めることができる。行列の対角化ができる。		固有値と固有ベクトルを求めることができない。行列の対角化ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	行列式と行列の応用について学習する ・ 行列式の定義を導入し、いくつかの重要な性質を学ぶ。 ・ 余因子、連立一次方程式の解法、行列式の図形的意味を学ぶ。 ・ 線形変換の性質、図形的意味を学ぶ。 ・ 固有値、固有ベクトル、行列の対角化を学ぶ。					
授業の進め方・方法						
注意点	教員の指示（宿題など）に素直に従い、単なる公式暗記に陥らず証明も意識をしてしっかり学ぶこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行列式の定義		行列式の定義を理解できる。	
		2週	行列式の定義		行列式の定義を理解し、簡単な行列式の値を求めることができる。	
		3週	行列式の定義		行列式の定義を理解し、簡単な行列式の値を求めることができる。	
		4週	行列式の性質		行列式の性質を理解できる。	
		5週	行列式の性質		行列式の性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	
		6週	行列の積の行列式		行列の積の行列式の性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	
		7週	行列の積の行列式		行列の積の行列式の性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	行列式の展開		行列式の展開を用いて、基本的な行列式の値を求めることができる。	
		10週	行列式の展開		行列式の展開を用いて、基本的な行列式の値を求めることができる。	
		11週	行列式と逆行列		行列式を用いて、逆行列を計算できる。	
		12週	連立1次方程式と行列式		行列式を用いて、連立一次方程式の解を計算できる。	
		13週	連立1次方程式と行列式		行列式を用いて、連立一次方程式の解を計算できる。	
		14週	行列式の図形的意味		行列式の図形的意味を理解することができる。	
		15週	行列式の図形的意味		行列式の図形的意味を理解することができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	線形変換の定義		線形変換の定義を理解している。	
		2週	線形変換の定義		線形変換の定義を理解している。	
		3週	線形変換の基本性質		線形変換の基本性質を理解している。	
		4週	線形変換の基本性質		線形変換の基本性質を理解している。	
		5週	合成変換と逆変換		合成変換と逆変換を求めることができる。	

		6週	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換を求めることができる。			
		7週	直交行列と直交変換	直交行列と直交変換を理解できる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルを理解できる。			
		10週	固有値固有ベクトルの計算	固有値と固有ベクトルを求めることができる。			
		11週	固有値固有ベクトルの計算	固有値と固有ベクトルを求めることができる。			
		12週	行列の対角化	行列の対角化ができる。			
		13週	対角化可能の条件	対角化可能の条件を理解できる。			
		14週	対称行列の直交行列による対角化	対称行列の直交行列による対角化ができる。			
		15週	対角化の応用	対角化の応用ができる。			
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		3E007		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		3	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分の現在の体力を知ることが出来る ☐ 色々なスポーツを通じて、自分の体力・能力を高めることが出来る ☐ アルティメット・フラッグフットボールで他人との連携を知ることが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて自分の体力の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力を知ることができる		自分の体力に関心がない	
評価項目2		リーダーとして、チーム・グループをまとめ、体力・技術の向上を図ることができる		体力・技術の向上を図ることができる		体力・技術の向上を図ろうとしない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		色々なスポーツを実践することにより運動に親しみ、生涯を通じて実践できるスポーツを見つけるとともに、体力の向上を図る。また、自分の体力を知り、身体についての理解を深め、健康の保持・増進に役立てる					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明		
		2週	スポーツテスト		50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走、上体起こし、握力、反復横跳び、体前屈		
		3週	スポーツテスト		50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走、上体起こし、握力、反復横跳び、体前屈		
		4週	スポーツテスト		50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走、上体起こし、握力、反復横跳び、体前屈		
		5週	アルティメット		フライングディスクを使ったスポーツを学ぶ		
		6週	アルティメット		フライングディスクを使ったスポーツを学ぶ		
		7週	アルティメット		フライングディスクを使ったスポーツを学ぶ		
		8週	球技大会の練習		球技大会の出場種目に別れて練習する		
	2ndQ	9週	球技大会の練習		球技大会の出場種目に別れて練習する		
		10週	球技大会の練習		球技大会の出場種目に別れて練習する		
		11週	ソフトボール		投球動作・捕球動作・打動作を学ぶ		
		12週	ソフトボール		投球動作・捕球動作・打動作を学ぶ		
		13週	ソフトボール		投球動作・捕球動作・打動作を学ぶ		
		14週	ソフトボール		投球動作・捕球動作・打動作を学ぶ		
		15週	ソフトボール		投球動作・捕球動作・打動作を学ぶ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		
		2週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		
		3週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		
		4週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		
		5週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		
		6週	フラッグフットボール		楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする		

		7週	フラグフットボール	楕円球を使ったスポーツを経験し、球形のボールとは違う投動作・捕球動作を学び、ゲームが出来るようにする
		8週	フットサル	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
	4thQ	9週	フットサル	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		10週	フットサル	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		11週	フットサル	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		12週	インディアカ	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		13週	インディアカ	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		14週	インディアカ	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		15週	インディアカ	ゲームを中心に楽しみながら体力を高める
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	40	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	40	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号	3E008			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	浅見道明他 (2023) 『Power On English Communication III』 数研出版. TEX加藤 (2017) 『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ) 』 朝日新聞出版.						
担当教員	小林 文子,小菅 智也						
到達目標							
1. 教科書/単語帳で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 英検2級レベルの英文を読み、内容が理解できる。 4. 日常生活レベルの英語をナチュラルスピードで聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	教科書/単語帳で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書/単語帳で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書/単語帳で学習した語彙・表現が理解できない。		
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することが出来る。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。		
評価項目 3	英検2級レベルの英文を読み、内容がよく理解できる。		英検2級レベルの英文を読み、内容がある程度理解できる。		英検2級レベルの英文の内容が理解できない。		
評価項目 4	日常生活レベルの英語をナチュラルスピードで聞いて内容をよく理解することができる。		日常生活レベルの英語をナチュラルスピードで聞いて内容をある程度理解することができる。		日常生活レベルの英語をナチュラルスピードで聞いて内容を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の英文読解や演習問題、リスニング演習を通じ、総合的な英語力の向上を目標とする。 具体的には、英検2級レベルの英語運用能力を持ち、日常会話レベルの英語のやり取りができる程度の能力の習得を目指す。						
授業の進め方・方法	教科書の英文読解を演習形式で行い、その都度重要な文法事項等についての解説を行う。 各ユニットの新出語彙・表現、重要文法事項等については適宜小テストを実施し、定着を図る。 単語帳を用い、毎週単語テストを実施し、語彙力の強化を図る。 加えて、教科書や配布プリントを用い、シャドーイング演習やリスニング演習も実施する予定である。						
注意点	英文読解は予習を前提として進めていく他、小テストの回数が多いので、普段の授業での学習に加え、計画的に自主学習を進めること。 紙辞書／電子辞書を毎回の授業に必ず持参すること（スマートフォン不可）。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業概要を理解できる。		
		2週	Lesson 1 Library of the Future		現在分詞の分詞構文の使い方が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Library of the Future		関係副詞where の使い方が理解できる。		
		4週	Lesson 2 History Maker Otani Shohei		現在完了進行形の使い方が理解できる。		
		5週	Lesson 2 History Maker Otani Shohei		be + to + 不定詞の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals		比較表現の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals		使役動詞の使い方が理解できる。 原形不定詞の使い方が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説		試験において理解が不十分であった点を確認・理解できる。		
		10週	Lesson 4 Natural Photographer in Alaska		関係代名詞の継続用法の使い方が理解できる。 関係代名詞what の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Natural Photographer in Alaska		分詞構文の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 5 A Science Award That Makes You Laugh, and They Think		第5分解の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 5 A Science Award That Makes You Laugh, and They Think		過去完了進行形の使い方が理解できる。		
		14週	Lesson 5 A Science Award That Makes You Laugh, and They Think		受動態の使い方が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。		
		16週	前期定期試験の返却と解説		試験において理解が不十分であった点を確認・理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Where Does Halloween Come from?		比較級を用いた表現の使い方が理解できる。		
		2週	Lesson 6 Where Does Halloween Come from?		追加を表すディスコースマーカーの使い方が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Will 3D Printing Technology Change the World?	形式目的語の使い方が理解できる。
		4週	Lesson 7 Will 3D Printing Technology Change the World?	客観的事実と筆者の意見を区別できるようになる。
		5週	Lesson 8 A Conductor of the Underground Railroad	so that の使い方が理解できる。
		6週	Lesson 8 A Conductor of the Underground Railroad	禁止を表す表現の使い方が理解できる。
		7週	Lesson 8 A Conductor of the Underground Railroad	時間順序を示すディスコースマーカーの使い方が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説	試験において理解が不十分であった点を確認・理解できる。
		10週	Lesson 9 English, Always Growing	soを用いた倒置
		11週	Lesson 9 English, Always Growing	列挙を示すディスコースマーカーの使い方が理解できる。
		12週	Lesson 10 Understanding the Culture of Dogs	仮定法過去の使い方が理解できる。
		13週	Lesson 10 Understanding the Culture of Dogs	to不定詞と動名詞の使い分けができる。
		14週	Lesson 10 Understanding the Culture of Dogs	追加を示すディスコースマーカーの使い方が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。
		16週	後期定期試験の返却と解説	試験において理解が不十分であった点を確認・理解できる。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号	3E009			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕（2017）『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 全パート横断型TOEIC® L&R テスト総合対策』金星堂、東京、						
担当教員	鈴木 千春,伊藤 文彦						
到達目標							
1. ストラテジーを学ぶことによりTOEICの得点を向上させることができる。 2. コミュニケーションスキルを向上させることができる。 3. 宿題を提出することにより英語の知識を向上させることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	各Unit の重要語彙・表現を8割以上理解している。		各Unit の重要語彙・表現を6割以上理解している。		各Unit の重要語彙・表現が6割未満しか理解できない。		
評価項目2	各Unit で扱う文法事項について、応用的な知識・例外についての知識まで身につけている。		各Unit で扱う文法事項の基礎が理解できている。		各Unit で扱う文法事項が理解できない。		
評価項目3	文書の内容と情報がよく理解できる		文書の内容と情報がある程度理解できる		文書の内容と情報が理解できない		
評価項目 4	英語音声から内容がよく理解できる		英語音声から内容がある程度理解できる		英語音声から内容が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・ TOEIC 対策を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 具体的には、教科書の問題演習を通じ、英語の語彙力・文法知識・読解力・聴解力を中心に向上を図り、TOEIC 450点取得を目指す。						
授業の進め方・方法	・ 授業は、テキストおよび配布の授業プリントを使用して進める。 ※授業プリントは課題点に入るので、空所をもれなく記入したうえで各Unit終了後に速やかに提出するものとする。 ・ 基本的に1 Unit につき2回の授業の進度で進めていく。 ・ 授業では、主に語彙の習得、文法・語法の理解、リスニングおよびリーディングの実践的演習に焦点を当てる。 ※授業の冒頭で行う語句確認テストも課題点に入るので、採点のうえ正答をもれなく記入し、速やかに提出するものとする。 ・ テキストに沿ってリスニングテスト・リーディングテストを実施し、TOEIC本番に向けた集中力の醸成を図る。						
注意点	・ 各ユニットともリスニングおよびリーディングの演習や確認テスト等を順次実施しつつ実力養成を図っていくので、予習・復習を怠らずに授業に臨むこと。特に、頻出語句の習得がTOEIC攻略のカギであり、繰り返しを通じて語彙習得に全力で励むこと。 ・ 紙の辞書あるいは電子辞書を毎回の授業に必ず持参すること。（スマートフォンの使用は不可とする。）						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・Unit1 Travel		可算名詞・不可算名詞の区別が理解できる。 旅行に関する語彙・表現が理解できる。		
		2週	Unit1 Travel		旅行に関する英語の音声を聞き、内容を理解できる。		
		3週	Unit2 Dining Out		形容詞の用法を理解できる。 食事や料理に関する語彙・表現が理解できる。		
		4週	Unit2 Dining Out		食事や料理に関する英語の音声を聞き、内容を理解できる。		
		5週	Unit3 Media		英語の時制の区別が理解できる。 メディアに関する語彙・表現が理解できる		
		6週	Unit3 Media		メディアに関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。		
		7週	前期中間試験		上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。		
		8週	答案返却 Unit4 Entertainment		前期中間試験の解答・解説。 エンターテインメントに関する語彙・表現が理解できる。 英語の時制の区別が理解できる。		
	2ndQ	9週	Unit4 Entertainment		エンターテインメントに関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。		
		10週	Unit5 Pruchasing		買い物に関する語彙・表現が理解できる。 英語の主語と動詞の一致が理解できる。		
		11週	Unit5 Pruchasing		買い物に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。		
		12週	Unit6 Clients		顧客との取引に関する語彙・表現が理解できる。 能動態・受動態の区別が理解できる。		
		13週	Unit6 Clients		顧客との取引に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。		

後期		14週	Unit7 Recruiting	求人・採用に関する語彙・表現が理解できる。 動名詞・不定詞の用法が理解できる。
		15週	前期定期試験	上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。
		16週	答案返却	前期定期試験の解答・解説。
	3rdQ	1週	Unit7 Recruiting	求人・採用に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		2週	Unit8 Personnel	人事に関する語彙・表現が理解できる。 英語の代名詞の格の区別を理解できる。
		3週	Unit8 Personnel	人事に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		4週	Unit9 Advertising	広告・宣伝に関する語彙・表現が理解できる。 英語の比較級・最上級が理解できる
		5週	Unit9 Advertising	広告・宣伝に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		6週	Unit10 Meetings	会議に関する語彙・表現が理解できる。 前置詞の使い方が理解できる。
		7週	Unit10 Meetings	会議に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。
	4thQ	9週	答案返却、Unit11 Telephone&Messages	後期中間試験の解答・解説。 予算・費用に関する語彙・表現が理解できる。 接続詞の使い方が理解できる。
		10週	Unit11 Finance	予算・費用に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		11週	Unit12 Offices	オフィスに関する語彙・表現が理解できる。 前置詞と接続詞の区別が理解できる。
		12週	Unit12 Offices	オフィスに関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		13週	Unit13 Daily Life	日常生活に関する語彙・表現が理解できる。 関係代名詞の使い方が理解できる。
		14週	Unit13 Daily Life	日常生活に関する英語の音声を聞き、内容が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目について、学習した内容の理解度を確認する。
		16週	答案返却	後期定期試験の解答・解説。
評価割合				
	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用物理 I	
科目基礎情報							
科目番号	3E010			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	〔基礎から学ぶ〕力学：乾雅祝, 星野公三, 畠中憲之：培風館：978-4563025076						
担当教員	高橋 徹						
到達目標							
☐ ベクトルの内積, 外積, 微積分の計算ができる. ☐ ベクトルとその直交座標, 極座標による表示を用いて, 慣性系だけでなく運動座標系においても, 運動方程式を微分方程式の形に書き下すことができる. ☐ 簡単な微分方程式で記述された問題の初期値問題を解くことができる. ☐ エネルギー, 運動量, 角運動量の保存則を活用することができる. ☐ 1体問題だけでなく, 質点系や剛体に関する典型的な問題を解くことができる.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		物体の運動方程式を立て、応用的な初期値問題を解くことができる		物体の運動方程式を立て、基本的な初期値問題を解くことができる		物体の運動方程式が立てられない	
評価項目2		各種保存則を用いる応用問題を解くことができる		各種保存則を用いる基本問題を解くことができる		各種保存則の理解に不備がある	
評価項目3		多体系や剛体に関する応用問題を解くことができる		多体系や剛体に関する基本問題を解くことができる		多体系や剛体の運動方程式を立てることができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	微積分を使わない高校物理で学んだ力学を微積分を用いて定式化し直し, すでに学んだ簡単な質点の運動だけではなく, 微積分や線形代数などを用いて初めて取り扱うことの出来る質点, 質点系および剛体の運動の初期値問題の解法などを通じて, 大学教養程度の基本的な力学を学ぶ.						
授業の進め方・方法	座学						
注意点	力学基礎の内容の総復習を勧める.						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	古典力学における時空 (1)		・デカルト座標での位置・変位ベクトルの計算ができる ・速度・加速度ベクトルの微分を用いた計算ができる		
		2週	古典力学における時空 (2)		・運動の3法則について説明できる ・運動方程式を微分方程式の形で書くことができる		
		3週	様々な運動 (1)		・自由落下・鉛直投げ上げに関する運動方程式を解くことができる		
		4週	様々な運動 (2)		・速度に比例する抵抗力が働く場合の落下運動に関する運動方程式を解くことができる		
		5週	様々な運動 (3)		・平面運動に関する運動方程式を解くことができる		
		6週	様々な運動 (4)		・静止摩擦・動摩擦力が含まれる運動方程式を解くことができる		
		7週	様々な運動 (5)		・単振動の運動方程式を解くことができる		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	仕事とエネルギー (1)		・仕事について理解し、計算ができる ・運動エネルギーについて理解し、計算することができる		
		10週	仕事とエネルギー (2)		・ポテンシャルエネルギーを理解し、計算することができる ・力学的エネルギー保存則を導き、説明・利用することができる		
		11週	力積と運動量		・力積と運動量の関係を理解し、計算することができる ・運動量保存則を導き、それを用いて衝突問題を解くことができる		
		12週	角運動量と力のモーメント (1)		・ベクトル積の計算ができる ・力のモーメントの計算ができる ・角運動量の計算ができる		
		13週	角運動量と力のモーメント (2)		・角運動量保存則を導出することができる ・角運動量保存則を用いる問題を解くことができる		
		14週	角運動量と力のモーメント (3)		・角運動量を用いて, 運動方程式をたてることができる ・角運動量を用いて, 質点の運動方程式を解くことができる		
		15週	前期定期試験				
		16週	答案返却				
後期	3rdQ	1週	質点系の運動 (1)		・重心座標と相対座標について理解し、計算することができる		

		2週	質点系の運動（２）	・ 重心運動と相対運動の運動方程式を立て、二体問題を解くことができる
		3週	質点系の運動（３）	・ 多体系の運動について基本法則を理解することができる
		4週	剛体の運動（１）	・ 剛体のつりあい条件を導くことができる ・ 剛体のつりあいの問題を解くことができる
		5週	剛体の運動（２）	・ 剛体の回転運動の運動方程式を立てることができる ・ 剛体の慣性モーメントを理解し、計算することができる
		6週	剛体の運動（３）	・ 剛体の並進運動と回転運動のエネルギーを計算することができる
		7週	剛体の運動（４）	・ 固定軸を持つ剛体の運動方程式を解くことができる ・ 剛体の平面運動の方程式を立て、解くことができる
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	座標変換と慣性力（１）	・ ガリレイ変換について理解することができる ・ 慣性力を導くことができる
		10週	座標変換と慣性力（２）	・ 回転座標系での遠心力を計算することができる
		11週	座標変換と慣性力（３）	・ 回転座標系でのコリオリ力を計算することができる
		12週	万有引力による運動（１）	・ ケプラーの３法則を理解することができる
		13週	万有引力による運動（２）	・ 万有引力の法則を理解することができる
		14週	万有引力による運動（３）	・ ケプラーの３法則から万有引力の法則を導くことができる ・ 万有引力の法則からケプラーの３法則を導くことができる
		15週	後期定期試験	
		16週	答案返却	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	20	40
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用物理演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	3E011			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	教科書：物理学演習問題集 力学編 原康夫・右近修治著 学術図書出版社 978-4-7806-0170-1 教科書：物理学基礎 第5版 原康夫著 学術図書出版社 978-4-7806-0950-9						
担当教員	五十嵐 睦夫						
到達目標							
☐ 簡単な微積・ベクトルの計算ができる。 ☐ 物体の運動を理解できる。 ☐ 簡単な振動問題が解ける。 ☐ 角運動量の保存則を理解できる。 ☐ 剛体の運動方程式を記述できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	運動方程式をよく理解でき、十分説明できる。		運動方程式を理解でき、説明できる。		運動方程式を理解できず、説明できない。		
評価項目2	1次元、2次元、3次元の運動をよく理解、十分説明できる。		1次元、2次元、3次元の運動を理解し、説明できる。		1次元、2次元、3次元の運動を理解できず、説明できない。		
評価項目3	質点系、剛体の運動をよく理解し、十分記述できる。		質点系、剛体の運動を理解し、記述できる。		質点系、剛体の運動を理解できず、記述できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	必要に応じて簡単な説明をする。その後、教科書にある問題等を各自で解いて行く。						
授業の進め方・方法	(a)微積分学を用いた力学を理解する。 (b)速度や加速度が、位置や速度の時間微分であることを理解する。 (c)以上により数理的に運動を記述する方法を身につける。 (d)質点の運動方程式を記述できる。 (e)力と加速度をきちんと定式化する。 (f)質点系、剛体の運動を理解する。 ・電子メディア工学基礎演習に引き続き、専門工学基礎としての英単語学習を継続する。高専機構が掲げる「グローバルエンジニア教育」に準拠した取り組みの一環である。						
注意点	・自分が解けなかった問題を復習し、解きなおしてみること。 ・ベクトル、偏微分、重積分の知識が必要となる。 ・何にも増して自己学習が必須である。 ・成績評価における基本評価の算出比率は以下の通りとする。大テストに対して真摯な対応をすることが単位取得の要である。基本評価のみで優秀な成績を収めた場合、発展的内容の探究をすることが奨励される。発展的内容への対応状況は、基本評価の評点への加点をすることで成績へと反映する。 基本課題20% 大テスト40% 前期中間試験20% 前期定期試験10% 後期中間試験5% 後期定期試験5% ・基本評価で不合格の場合は追加評価を行う。その際には追加課題も課し、下記の算出比率を適用する。ただし、追加評価による評点の上限は69点とする。 課題（基本・追加）30% 大テスト30% 前期中間試験5% 前期定期試験10% 後期中間試験20% 後期定期試験5% ・追加評価でも不合格の場合には最終評価を行う。その際にはさらに最終課題を課し、下記の算出比率を適用する。ただし、最終評価による評点の上限は60点とする。 課題（基本・追加・最終）40% 大テスト20% 前期中間試験5% 前期定期試験5% 後期中間試験10% 後期定期試験20%						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	運動の法則 1		位置、速度、加速度と微積分・運動の3法則・運動量と力積・運動量と保存則について理解する。		
		2週	運動の法則 2		運動エネルギー、保存力とポテンシャル、エネルギー法則について理解する。		
		3週	質点の運動 1		1次元の運動について理解する。		

		4週	質点の運動 2	1 次元の運動について理解する。	
		5週	質点の運動 3	1 次元の運動について理解する。	
		6週	質点の運動 4	平面内の運動について理解する。	
		7週	質点の運動5	平面内の運動について理解する。	
		8週	前期中間試験		
		2ndQ	9週	質点系の運動 1	基本的 2 体問題を理解する。質点系の運動量・角運動量・運動エネルギーについて理解する。
			10週	質点系の運動 2	質点系の運動に関する基本的問題を理解する。
			11週	剛体の運動1	剛体の基本的運動について理解する。
	12週		剛体の運動 2	慣性モーメントとその計算について理解する。剛体の運動エネルギー、運動量と角運動量について理解する。	
	13週		非慣性系における運動	慣性系、重心系と実験室系、運動座標系について理解する。	
	14週		中心力	中心力のある場合の質点の基本的な運動を理解する。	
	15週		前期定期試験		
	16週		答案返却	試験に関する説明が理解できる。	
	後期	3rdQ	1週		
			2週		
			3週		
4週					
5週					
6週					
7週					
8週					
4thQ		9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		60	10	70	
専門的能力		20	10	30	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報科学 I	
科目基礎情報							
科目番号		3E012		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		(自作教材)					
担当教員		松本 敦					
到達目標							
☐ 機械語およびアセンブリ言語によるプログラミングができる。 ☐ C言語によるプログラミングができる。 ☐ 計算機の動作原理を理解できる。 ☐ データ構造とアルゴリズムについて理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計算機のプログラムを作成できる。		計算機のプログラムを読んで、その動作内容を理解できる。		計算機のプログラムを見ても内容を理解できない。	
評価項目2		計算機動作の元になる要素、仕組みを正しく理解し、原理を説明することができる。		計算機動作に必要なとなる要素、仕組みの個別動作の説明ができる。		計算機動作を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		計算機の機械語について、各種命令の使い方を学習する。また、データ構造とアルゴリズムについて学習する。情報とは、最終的には記号（または数）で表現されるが、記号そのものよりも、複数の記号の間の関係によって表現されていると考えた方が良い。このように記号の関係までとらえた概念をデータ構造という。アルゴリズムとは、データを処理する手順を記述したものであり、データ構造と一体であると考えて良い。同じ処理を行なうにも、複数のアルゴリズムとそれに対応したデータ構造があるが、データ量等、与えられた条件によって選択すべきである。その際に、アルゴリズムの定量的な評価が必要である。時間計算量、領域計算量、理解の容易さ等、アルゴリズムの評価方法についても学習する。					
授業の進め方・方法		つぎのような事項について学習する。 ・計算機と機械語：計算機の基本構成，データの存在場所，2進数と16進数，機械語とは。 ・機械語入門：機械語とアセンブリ言語，命令セット概説。 ・エディタ・アセンブラ・デバッガの基本操作。 ・各種命令の使い方：転送命令とアドレッシングモード，算術演算命令と桁上げ，負数の表現，制御命令と状態フラグ，繰返しの技法，シフト命令と乗算・除算プログラム，命令セットの制限事項とその対策，論理演算命令とビットパターンの操作，スタック操作とサブルーチン，文字列処理。 なお，各種命令の使い方については，主にプログラミング実習の例題解説を通して学習する。 また，C言語を用いて，データ構造とアルゴリズムについて学習する。					
注意点		必要な内容は基礎的な内容を含めて授業中に扱うため，前提となる科目はありませんが，最低限のコンピュータ使用方法（ファイルのコピー，シャットダウン，ブラウザ使用方法等）は学んでおいてください。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業のねらい、2進数（1）		整数の表現方法、2進十進変換、十進2進変換について理解できる。		
		2週	2進数（2）		負数の表現方法、論理演算、文字符号について理解できる。		
		3週	計算機の構成と動作（1）		計算機の基本構成について理解できる。		
		4週	計算機の構成と動作（2）		命令の種類と構成について理解できる。		
		5週	アセンブラ実習		機械語による繰返しの技法について理解できる。		
		6週	C言語の基礎		関数と変数と定数、文と式と演算子について理解できる。		
		7週	繰返しと条件分岐		if文、for文、while文の利用方法について理解できる。		
		8週	中間試験		中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験の返却と解説，配列構造		配列の活用方法について理解できる。		
		10週	構造体		構造体の定義方法，各変数へのアクセス方法を理解できる。		
		11週	ポインタとリスト構造		変数や構造体に対するポインタの定義，およびそれを利用したリスト構造について理解できる。		
		12週	線形探索と木構造		線形探索と木構造について理解できる。		
		13週	2分探索と演習		2分木構造の探索について理解することができる。		
		14週	ソーティング		ソーティングの各種アルゴリズムについて理解できる。		
		15週	定期試験		定期試験		
		16週	定期試験の返却と解説，付加的内容に関する実習		スクリプト言語（Python等）の初歩的な内容と実習		
評価割合							
		レポート点		中間試験		定期試験	
総合評価割合		20		40		40	
配点		20		40		40	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	計算機基礎
科目基礎情報						
科目番号	3E013		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	4		
教科書/教材	春日健・舘泉雄治：「計算機システム」, コロナ社					
担当教員	富澤 良行					
到達目標						
☐ コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関連について概略が理解できる。 ☐ 計算機での情報表現、入力装置・出力装置の原理的な構造が理解できる。 ☐ 2進数の四則演算ができる。 ☐ 基本的な論理演算ができる。 ☐ 計算機での情報の流れおよび処理方法が理解できる。 ☐ ネットワークに関する基礎的な技術が理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	計算機システムにおける個々の場所でのでの情報表現が理解できる。		計算機システムにおける情報表現が理解できる。		計算機システムにおける情報表現が理解できない。	
評価項目2	任意の進数(n進数)の四則演算ができ、計算機内部での数値の表現(補数、減基数の補数、固定小数点数、不動小数点数)が理解できる。		任意の2進数、8進数、16進数の四則演算ができ、計算機内部での数値の表現(補数、減基数の補数、固定小数点数)が理解できる。		任意の2進数、8進数、16進数の四則演算ができない。また、計算機内部での数値の表現が理解できない。	
評価項目3	基本的な論理演算ができる、簡易化しMIL記号で描ける。		基本的な論理演算ができる。		基本的な論理演算ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	情報システムが多種多様に発展した現在、高度な専門知識を持った情報処理技術者が必要とされている。特に、計算機（コンピュータ）に関する基礎的な理解は重要であり、本講義は、コンピュータ科学基礎、コンピュータシステム、ネットワーク技術 等のコンピュータと一般社会との係わり合いやハードウェアなどの情報技術に関する幅広い基礎的な知識の理解を目的とする。					
授業の進め方・方法	インテルのホームページ（製品情報など）を参考資料にし、計算機の歴史、進歩、最新のトピックについても触れながら進める。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	[1]計算機概論 1) 計算機の歴史とその応用 2) ハードウェアとソフトウェアの役割	左記項目の内容について理解できる。		
		2週	[1]計算機概論 3) 計算機を用途、規模、種類別に分類したとき種類について解説 4) 実際のパーソナルコンピュータの内部に触れる。 5) 計算機の処理方式	左記項目の内容について理解できる。		
		3週	[1]計算機概論 6) 計算機システムの評価 7) ネットワークシステムの概要 8) CPUの高性能化・高集積化(概要)	左記項目の内容について理解できる。		
		4週	[2]情報の基礎理論 1) データの処理単位 2) 2進数	左記項目の内容について理解し、計算できる。		
		5週	[2]情報の基礎理論 3) 16進数 4) 基数変換 5) 2進数の加減算	左記項目の内容について理解し、計算できる。		
		6週	[2]情報の基礎理論 6) 負の表現 a) 符号ビット b) 補数 7) 固定小数点と浮動小数点 a) 固定小数点 b) 浮動小数点 c) IEEE形式	左記項目の内容について理解し、計算できる。		
		7週	[2]情報の基礎理論 9) 10進数と数値表現 a) BCDコード b) ソーン10進数 c) パック10進数 10) 文字データの表現 a) 文字コード b) EBCDIC, ASCII, ISO, JIS, SHIFT-JIS, Unicode 等の文字コード	左記項目の内容について理解し、計算できる。		

4thQ	8週	中間テスト	中間試験問題を理解し解くことができる。
	9週	[3]計算機のハードウェア [1]計算機概論で触れたハードウェアについて、データの流れを中心に掘り下げる。 1) プログラムの動作原理 2) 主記憶装置へのアクセス a) 主記憶装置とアドレス b) バス c) プログラミングカウンタの役割 3) 命令実行とレジスタ a) 命令語と命令形式 b) 機械語 c) マシンサイクル d) 様々なレジスタの役割	左記項目の内容について理解できる。
	10週	[3]計算機のハードウェア 4) アドレス指定方式 5) 処理装置の性能と高速化技術 a) クロック周波数とMIPS b) 逐次制御と先行制御 c) パイプライン方式 d) 更なる高速化 e) 並列処理技術 f) CISCとRISC、最新のCPU	左記項目の内容について理解できる。
	11週	[4]論理演算と論理回路 1) 論理演算 2) 基本回路(AND OR NOT)とMIL記号 3) 基本回路の組合せ(EOR NAND NOR) 4) ブール代数の基本演算と公式	左記項目の内容について理解できる。
	12週	[4]論理演算と論理回路 5) 論理関数と真理値表 6) ベイチ図による簡単化 7) 加算回路 a) 半加算器 b) 全加算器 8) 順序回路 a) R-Sフリップフロップ b) Tフリップフロップ c) J-Kフリップフロップ d) Dフリップフロップ e) カウンタ f) レジスタ	左記項目の内容について理解できる。
	13週	[5]半導体素子と集積回路 1) 集積回路 2) 半導体メモリ a) RAM b) ROM 3) キャッシュメモリと記憶装置の高速化 a) アクセス速度 b) ヒット率 c) 二次キャッシュ d) ディスクキャッシュ e) メモリーインターリーブ	左記項目の内容について理解できる。
	14週	[6]周辺装置 1) 補助記憶装置 2) 入力装置 3) 出力装置	左記項目の内容について理解できる。
	15週	[7]通信とネットワーク[6]周辺装置 1) 通信機器と通信回線 2) 通信サービス 3) ネットワーク 4) インターネットの仕組み	左記項目の内容について理解できる。
	16週	期末試験	期末試験問題を理解し解くことができる。

評価割合							
	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	20	0	0	0	100
基礎的能力	20	20	10	0	0	0	50
専門的能力	20	20	10	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気回路 I	
科目基礎情報							
科目番号		3E014		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	4		
教科書/教材		柴田 尚志： 電気回路 I , コロナ社					
担当教員		中山 和夫					
到達目標							
☐ 交流回路の計算ができる。 ☐ 共振回路や結合回路の計算ができる。 ☐ 電力の基本原理である三相交流の基本事項について説明し、三相交流回路の計算ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		交流回路の問題を解くことができる。		交流回路の問題を解くことができる。		交流回路の問題を解くことができない。	
評価項目2		回路を解く際に、フェーザ共振回路や結合回路の問題を解くことができる。		共振回路や結合回路の問題を解くことができる。		共振回路や結合回路の問題を解くことができない。	
評価項目3		三相交流について深く理解し、基本的問題を解くことができる。		三相交流について理解し、基本的問題を解くことができる。		三相交流についての理解ができず、基本的問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		2年生の「電気基礎Ⅱ」で学んだ交流回路計算を基礎として、記号法による回路解法を習得する。また、回路の諸定理やフェーザ図を用いて回路を解く方法についても学習する。さらに、相互誘導回路や三相交流回路についても学ぶ。					
授業の進め方・方法		「電気回路」の主題は、与えられた回路の問題を解くということである。回路を解くということは、基本的にはその回路の各部の電圧電流を求めることであるが、そのためには、その回路に対して回路方程式をたて、その方程式を解くという手順をとる。その際には、複素数を使った記号法的計算を用い、視覚的理解を助けるために、フェーザ図なども利用される。「電気回路Ⅰ」では、2年生の「電気基礎Ⅱ」で学んだこれらの計算法を確実なものとするため、まずはそれらの復習を行い、つぎに、回路方程式の立て方と解き方について説明する。さらに、相互誘導回路についても取り扱い、最後に電力伝送などに用いられている三相交流回路の計算について説明する。					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	数学、直流回路の復習 正弦波交流回路の計算, CR直流・交流回路 複素電圧・電流・インピーダンス(R,C)		瞬時値を用いて、R,Cを含む簡単な直流・交流回路の計算ができる。三角関数に関する基本的な演算ができる。電荷と電流の関係を理解できる。RとCを含む回路の電流計算（直流、交流）ができる。R, C素子における正弦波交流電圧と電流の関係を説明できる。		
		2週	正弦波交流回路の計算、CR交流回路の複素インピーダンス、RL交流回路の複素インピーダンス、複素電圧、複素電流、複素オームの法則		瞬時値を用いて、簡単な交流回路の計算ができる。複素インピーダンスを説明し、これにより電流の計算ができる。		
		3週	複素数, アドミタンス、複素アドミタンス		交流理論に使われる複素数の計算ができる アドミタンスを説明し、これにより電流を計算できる。		
		4週	正弦波交流回路の計算		正弦波交流の複素表示を説明し、これを交流回路の計算に用いることができる。 キルヒホッフの法則を説明し、交流回路の計算に用いることができる。		
		5週	電力		平均電力の基本的な計算ができる。力率を説明できる。 複素数による電力の計算が理解できる。		
		6週	正弦波交流回路の計算		合成インピーダンスや分圧・分流の考え方を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができる。		
		7週	共振回路		直列共振回路と並列共振回路の計算ができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	回路の諸定理		重ねの理やテブナンの定理等を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができる。		
		10週	回路解法		網目電流法や節点電位法を用いて交流回路の計算ができる。		
		11週	ブリッジ回路		交流回路のブリッジ回路の計算ができる 交流回路のブリッジ回路の平衡条件が理解できる		
		12週	周波数特性とフェーザ軌跡		フェーザを用いて、簡単な交流回路の計算ができる。		
		13週	相互誘導回路		相互誘導を説明し、相互誘導回路の計算ができる。 理想変成器を説明できる。		
		14週	三相交流回路		三相交流を説明し、三相交流回路の計算ができる。		

		15週	定期試験				
		16週	まとめ			これまで学習した内容のまとめと計算練習	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気回路演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	3E015			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	基礎からの交流理論：小郷 寛 原著、小亀 英己、石亀 篤司：電気学会						
担当教員	松本 敦						
到達目標							
☐ 前年度までの学習内容（電気基礎 I， II）が理解できる。 ☐ 正弦波交流回路網の計算ができる。 ☐ 回路網方程式を構成し、基礎的な回路の問題を解くことができる。 ☐ 基本的回路の周波数特性や、フェーザ軌跡等について理解ができる。 ☐ 相互誘導回路の問題や三相回路の問題等を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
直流，交流回路に関する理解	与えられた条件に対して，適切に回路の状態を表す式を自ら立てて，解くことができる。		基礎的な回路に関する問題について，法則等を当てはめて解を求めることができる。		与えられた問題の意味を十分に理解できず，基礎的な問題を解くことができない。		
複素表現を交えた回路方程式および各種定理の理解	各種複素表現と瞬時値の関係を十分に理解し，交流回路網から回路方程式を立てて，解くことができる。		複素表現をある程度使いこなすことができ，単純な回路網については解を求めることができる。		交流の複素表現の概念を理解しておらず，基礎的な問題に適用することができない。		
電磁誘導，三相交流等の理解	電磁誘導により起電力が生じる原理，および三相交流の各種変換について，自在に行うことができる。		定理，性質等を与えた状態において，電磁誘導，三相交流の基礎的な問題を解くことができる。		電磁誘導，三相交流に関する知識が体得できておらず，基礎的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	最初に 1，2 年生の「電気基礎」などで学習した部分の復習を行う。次に、並行して行われている「電気回路 I」の復習として、それぞれの項目について、例題を示して説明を加えるとともに演習問題を解かせることで、授業内容を実際の問題に適用し，解決を図れるようになる。						
授業の進め方・方法	座学、講義と演習の複合形式						
注意点	前年度までの内容（電気基礎 1，2，計測基礎等）をきちんと理解した上で，授業に臨んでください。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	電気基礎復習（直流）		電気回路に関する基礎的な知識の確認		
		2週	電気基礎復習（直流）		直流回路（直流回路の計算、電流の各種作用）		
		3週	電気基礎復習（交流）		交流電圧，電流，瞬時値，各種パラメータの関係		
		4週	電気基礎復習（交流）		単体素子に印加した交流電圧と生じる交流電流の関係		
		5週	電気基礎復習（交流）		単体素子に印加した交流電圧と生じる交流電流の関係		
		6週	交流回路網の計算		複素数の復習，交流波の複素表現		
		7週	交流回路網の計算		複数の素子からなる交流回路の解析，ブリッジ回路等		
	8週	中間試験					
	4thQ	9週	交流回路網の計算		交流回路における電力		
		10週	回路方程式		行列式の導出方法，枝電流法		
		11週	回路方程式		閉路電流法，接点電位法		
		12週	各種定理の理解		重ねの理，可逆定理，相補定理		
		13週	各種定理の理解		テブナン，ノートンの定理等		
		14週	相互誘導回路		相互インダクタンスのパラメータ，T型変換，結合係数		
		15週	定期試験				
16週		定期試験解説，3相交流の基礎		3相交流電源，3相負荷， Δ －Y変換			
評価割合							
	レポート（2回）		中間試験		定期試験		合計
総合評価割合	40		30		30		100
配点	40		30		30		100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電磁気学 I	
科目基礎情報							
科目番号	3E016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	電磁気学I 長岡洋介著 岩波書店						
担当教員	平井 宏						
到達目標							
☐ 電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。 ☐ 電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。 ☐ 電場の意味を正しく理解し、点電荷が作る、ベクトルを用いた電場の指揮を用いて簡単な電荷系が作る電場の計算ができること。 ☐ ガウスの法則を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。 ☐ ガウスの法則を電気力線を通して理解し、この法則を用いて直線状、円筒状、球状に分布する電荷が作る電場の計算ができること。 ☐ 導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。 ☐ 静電容量を節目見でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。 ☐ 静電容量の接続を説明し、その合成静電容量を計算できる。 ☐ 静電エネルギーを説明できる。 ☐ 静電エネルギーの意味を理解し、電位を用いて簡単な電荷系の静電エネルギーの計算ができること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		クーロンの法則を十分に理解し、その計算ができる。		クーロンの法則をある程度理解し、その計算ができる。		クーロンの法則が理解できず、計算ができない。	
評価項目2		ガウスの法則を十分に理解し、その計算ができる。		ガウスの法則をある程度理解し、その計算ができる。		ガウスの法則が理解できず、その計算ができない。	
評価項目3		導体の性質を十分に理解できる。		導体の性質をある程度理解できる。		導体の性質が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	静止した電荷が作る電場の性質を理解し、簡単な電荷系によって作られる電場の計算ができるようになることがこの授業の主題である。 静電場の性質は1) ガウスの法則と2) 渦なしの法則によって決定される。これらの法則はベクトルの微分または積分の形で定式化されるため、ベクトルを用いた微分・積分が必須となる。 導体があるときの静電場の様子、コンデンサーの静電容量について学ぶ。 この科目は国立研究所で電気系の精密計測を担当した教員がその経験を活かし、この科目について授業を行う。						
授業の進め方・方法	教室での座学形式の授業を行う。						
注意点	電磁気学演習 I と合わせて、問題を解くことにより十分に理解を深めてください。 場の考え方、線積分、面積分にも慣れてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	静電界		電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。(1)MCC記載分		
		2週	静電界		電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。(2)MCC記載分		
		3週	静電界		電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。(3)MCC記載分		
		4週	静電界		電場の意味を正しく理解し、点電荷が作る、ベクトルを用いた電場の指揮を用いて簡単な電荷系が作る電場の計算ができること。MCC外		
		5週	静電界		電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。(1)MCC記載分		
		6週	静電界		電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。(2)MCC記載分		
		7週	静電界		電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。(3)MCC記載分		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	静電界		電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。(4)MCC記載分		
		10週	静電界		ガウスの法則を説明でき、電界の計算などに用いることができる。(1)MCC記載分		
		11週	静電界		ガウスの法則を説明でき、電界の計算などに用いることができる。(2)MCC記載分		
		12週	静電界		ガウスの法則を説明でき、電界の計算などに用いることができる。(3)MCC記載分		
		13週	静電界		ガウスの法則を電気力線を通して理解し、この法則を用いて直線状、円筒状、球状に分布する電荷が作る電場の計算ができること。MCC記載外		
		14週	導体と誘電体		導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。(1)MCC記載分		
		15週	前期定期試験				

		16週	テスト返却	
後期	3rdQ	1週	導体と誘電体	導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。(2)MCC記載分
		2週	導体と誘電体	導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。(3)MCC記載分
		3週	導体と誘電体	導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。(4)MCC記載分
		4週	導体と誘電体	導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。(5)MCC記載分
		5週	静電容量	静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。(1)MCC記載分
		6週	静電容量	静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。(2)MCC記載分
		7週	静電容量	静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。(3)MCC記載分
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	静電容量	静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。(4)MCC記載分
		10週	静電容量	静電容量の接続を説明し、その合成静電容量を計算できる。MCC記載分
		11週	静電容量	静電エネルギーを説明できる。(1)MCC記載分
		12週	静電容量	静電エネルギーを説明できる。(2)MCC記載分
		13週	静電容量	静電エネルギーを説明できる。(3)MCC記載分
		14週	静電容量	静電エネルギーの意味を理解し、電位を用いて簡単な電荷系の静電エネルギーの計算ができること。MCC記載外
		15週	後期定期試験	
		16週	テスト返却	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電磁気学演習 I
科目基礎情報					
科目番号	3E017		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	教科書：物理学基礎 第5版 原康夫著 学術図書出版社 978-4-7806-0950-9				
担当教員	五十嵐 睦夫				
到達目標					
☐ スカラーとベクトルの違いを理解し、力や電場をベクトルとして扱うことができる。 ☐ クーロンの法則を理解し、4個程度の電荷がある場合の合成電場を計算することができる。 ☐ 静電場の意味を理解し、複数の点電荷がある場合について各電荷による電場を計算して合成することができる。 ☐ 積分形のガウスの法則を理解し、対称性がある条件下での電場をガウスの法則に基づいて求めることができる。 ☐ 静電ポテンシャルおよびポテンシャルの原点の意味を理解できる。 ☐ 電場が与えられたとき、静電ポテンシャルを計算することができる。 ☐ 静電ポテンシャルが与えられたとき、電場を計算することができる。 ☐ 静電エネルギーの意味を理解し、複数の電荷がある場合の系全体の静電エネルギーを計算できる。 ☐ 具体的なコンデンサの静電容量の計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準より少し上位の到達レベルの目安	標準の到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	クーロンの法則を理解し、4個程度の電荷がある場合の力の合成ができる。また、静電場の意味を理解し、複数の点電荷がある場合に、各電荷による電場を計算し、合成することができる。	クーロンの法則を理解し、2個の電荷がある場合の力の合成ができる。また、静電場の意味を理解し、2個の点電荷がある場合に、各電荷による電場を計算し、合成することができる。	クーロンの法則を理解し、2個の電荷がある場合の力の合成ができるようにするための努力をすることができる。また、静電場の意味を理解し、2個の点電荷がある場合に、各電荷による電場を計算し、合成することができるようにするための努力をすることができる。	2個の電荷がある場合の力の合成ができるようにするための努力をすることができない。また、2個の点電荷がある場合に、各電荷による電場を計算し、合成することができるようにするための努力をすることができない。	
評価項目2	積分形のガウスの法則を理解し、対称性がある条件下で、(i)点電荷、(ii)殻、(iii)電荷が分布している場合について、ガウスの法則から電場を求めることができる。	積分形のガウスの法則を理解し、対称性がある条件下で、(i)点電荷、(ii)殻について、ガウスの法則から電場を求めることができる。	積分形のガウスの法則を理解し、対称性がある条件下で、(i)点電荷、(ii)殻について、ガウスの法則から電場を求めることができるようにするための努力をすることができる。	対称性がある条件下で、ガウスの法則から電場を求めることができるようにするための努力をすることができない。	
評価項目3	静電ポテンシャルおよびポテンシャルの原点について理解し、与えられた電場から静電ポテンシャルを計算することができる。また、与えられた静電ポテンシャルから電場を計算することができる。	静電ポテンシャルおよびポテンシャルの原点について理解し、与えられた電場から静電ポテンシャルを計算することができる。	静電ポテンシャルおよびポテンシャルの原点について理解し、与えられた電場から静電ポテンシャルを計算することができるようにするための努力をすることができる。	与えられた電場から静電ポテンシャルを計算することができるようにするための努力をすることができない。また、与えられた静電ポテンシャルから電場を計算することができるようにするための努力をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電磁気学が対象とするものは力学などと違い、目に見えないことが多い。多くの人にとっては一見難解に感じられるが、まず問題を解くところから入るのも一つの方法である。また、今まで習ってきた力学との対応関係で理解すると、分かりやすくなることもある。この演習では、電磁気学の典型的な問題を解くことで電磁気学の諸現象についての理解を深めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	・電磁気学 I で学習した内容の理解を深めるため、ベクトル、クーロンの法則、静電場、ガウスの法則、静電ポテンシャル、静電エネルギー、静電容量などのテーマについて、それぞれ典型的な問題を解いてもらう。 ・自主的な学習を基本とし、理解度は大テストにて確認していく。 ・課題への取り組みを通して理解度の向上を図り、取り組み姿勢に重点を置いた評価をおこなう。				

注意点	・ベクトル, 偏微分, 重積分の知識が必要となる。 ・何にも増して自己学習が必須である。			
	・成績評点における基本評価の算出比率は以下の通りとする。大テストに対して真摯な対応をすることが重要である。			
	基本課題20% 大テスト40% 前期中間試験20% 前期定期試験10% 後期中間試験5% 後期定期試験5%			
	・基本評価で不合格の場合は追加評価を行う。その際には追加課題も課し、下記の算出比率を適用する。ただし、追加評価による評点の上限は69点とする。			
	課題（基本・追加）30% 大テスト30% 前期中間試験5% 前期定期試験10% 後期中間試験20% 後期定期試験5%			
・追加評価でも不合格の場合には最終評価を行う。その際にはさらに最終課題を課し、下記の算出比率を適用する。ただし、最終評価による評点の上限は60点とする。				
課題（基本・追加・最終）40% 大テスト20% 前期中間試験5% 前期定期試験5% 後期中間試験10% 後期定期試験20%				
授業の属性・履修上の区分				
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応
☐ 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週	ベクトル	・ベクトルの簡単な計算ができる。 ・ベクトルの内積や外積が計算できる。
		2週	クーロンの法則	・電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。 ・3個以上点電荷があるときの力の合成ができる。
		3週	電荷と静電場（1）	・点電荷が作る静電場について説明できる。 ・複数点電荷があるときの電場の合成ができる。
		4週	電荷と静電場（2）	・電荷分布が与えられたときの静電場が計算できる。
		5週	ガウスの法則（1）	・電気力線と電場の関係を説明できる。 ・ガウスの法則を用い、平板上の電荷による電場を計算できる。
		6週	ガウスの法則（2）	・ガウスの法則を用い、同心球殻上の電荷による電場を計算できる。 ・ガウスの法則を用い、円柱内に分布した電荷による電場を計算できる。
		7週	ガウスの法則（3）	・ガウスの法則を用い、球内に分布した電荷による電場を計算できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	静電ポテンシャル（1）	・電場が与えられたときの静電ポテンシャルを計算できる。 ・同心球殻上の電荷による静電ポテンシャルを計算できる。
		10週	静電ポテンシャル（2）	・円柱内に分布した電荷による静電ポテンシャルを計算できる。 ・静電ポテンシャルが与えられたときの電場を計算できる。

		11週	静電ポテンシャル（3）	・直線状の電荷による静電ポテンシャルを計算できる。 ・円輪、円盤上の電荷による静電ポテンシャル、電場を計算できる。
		12週	静電エネルギー（1）	・点電荷系の静電エネルギーを計算できる。 ・平行平板電極間の静電エネルギーを計算できる。
		13週	静電エネルギー（2）	・導体球の静電エネルギーを計算できる。
		14週	コンデンサの静電容量（1）	・コンデンサの静電容量を計算できる。 ・直並列接続されたコンデンサの合成容量を計算できる。
		15週	期末試験	
		16週	コンデンサの静電容量（2）	・コンデンサの静電エネルギーを計算できる。

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	60	10	70
専門的能力	20	10	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学実験
科目基礎情報						
科目番号	3E018		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	「新編電気工学講座 30 電気・電子工学実験(1)－基礎編－」, 山田十一・永井真茂・小林祥男・多田泰芳 著, コロナ社・「新編電気工学講座 31 電気・電子工学実験(2)－電気機器・高電圧編－」, 池本徹三・今西周蔵・岡田新之助・河原功・木村伊一 著, コロナ社・プリント・WEB教材					
担当教員	電子メディア工学科 科教員,平井 宏					
到達目標						
電磁基礎、強電（制御やエネルギー関係等；発電機、電動機、ロボット、各種のエネルギー変換機、制御機器など）および電子通信情報関係の各種実験を行うことで、以下の授業目標を達成する。 ☐ 工学の基礎的実験手法を実演できる。 ☐ 正しい報告書が作成できる。 ☐ 各実験項目に関する知識や工学実験の手法および報告書を作成することができる。 ☐ 工学に関する機器の使用法や解析、設計法を習得できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実験内容に関する理解	手順書と教員の指導に従って、実験を自主的に、的確に進めることができる。		適宜、教員の指導を仰ぐことで指示書に書いてある内容を進めることができる。		指示書の実験内容を進めることができない。	
レポートに関する項目	実施した実験に関する報告書を自分の言葉で的確にまとめることができる。		実施した実験に関して、最低限の記載方法を守ってまとめることができる。		実施した実験に関するレポートをまとめられない、もしくは提出できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	電気・電子・通信・情報工学実験実習は電気・電子等の工学の知識を確実なものにし、その理論の確証に役立ち、その技術を身につけたものにするという意味において、電気・電子工学を学ぶ者にとってその習得はたいへん重要なものである。そのうえ、各種実験を行うことで、正しい実験態度が養成され、実験の一般的知識を学び、工学の基礎的実験手法を幅広く身につけ、報告書作成能力を習得できる。直接的には次のようなことを学ぶ。 ・電気および機械的諸量の測定法 ・測定器具類や各種の機器および施設設備の取り扱い方や試験法 ・電気配線の実施要領 ・各種機器の構造と特性の理解 ・その他、実験実習に必要な事がら。 2～4名を単位とした班編成を行い、2週1テーマを原則として、実験課題ごとに担当教官が定められているので、実験を始める前に課題について担当教官から説明を受け、内容をよく理解した後、実験指導書（実験の教科書やプリント）にしたがって実験を実施する。実験後、担当教官の指示にしたがって、報告書を提出する。提出期限は厳守することとする。実験は電磁基礎実験、強電実験、および電子・通信・情報（工学）実験からなる。実験の前に課題や実験の諸注意などの説明を行う。また、実験の総まとめ、文献調査、報告書作成（構成や文章表現等）指導や整理なども実施し、実験実習の教育効果を向上させる					
授業の進め方・方法	実習形式 第1順目テーマ：地磁気の測定（鈴木）、AMラジオの製作と動作解析（富澤）、RLC回路の過渡応答（中山）、ボード図（平井） 第2順目テーマ：LabVIEW入門（松本）、磁性（五十嵐）、確率関連の基礎実験（大嶋）、高温超伝導（渡辺） 第3順目テーマ：PCB CAD（佐々木）、LabVIEW応用（松本）、整流回路（布施川）、センサとPIC（谷中）					
注意点	特になし					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1順目テーマ1（1週目）			
		2週	1順目テーマ1（2週目）			
		3週	1順目テーマ2（1週目）			
		4週	1順目テーマ2（2週目）			
		5週	1順目テーマ3（1週目）			
		6週	1順目テーマ3（2週目）			
		7週	1順目テーマ4（1週目）			
		8週	1順目テーマ4（2週目）			
	2ndQ	9週	レポートまとめ、確認テスト1			
		10週	1順目実施実験予備日			
		11週	2順目テーマ1（1週目）			
		12週	2順目テーマ1（2週目）			
		13週	2順目テーマ2（1週目）			
		14週	2順目テーマ2（2週目）			
		15週	2順目テーマ3（1週目）			
		16週				
後期	3rdQ	1週	2順目テーマ3（2週目）			
		2週	2順目テーマ4（1週目）			
		3週	2順目テーマ4（2週目）			

		4週	レポートまとめ，確認テスト2	
		5週	2順目実施実験予備日	
		6週	3順目テーマ1（1週目）	
		7週	3順目テーマ1（2週目）	
		8週	3順目テーマ2（1週目）	
	4thQ	9週	3順目テーマ2（2週目）	
		10週	3順目テーマ3（1週目）	
		11週	3順目テーマ3（2週目）	
		12週	3順目テーマ4（1週目）	
		13週	3順目テーマ4（2週目）	
		14週	レポートまとめ，確認テスト3	
		15週	3順目実施実験予備日	
		16週		

評価割合			
	レポート（12回）	取組点（確認テスト含む）	合計
総合評価割合	70	30	100
配点	70	30	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語演習	
科目基礎情報							
科目番号		4E001		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		教科書は指定せず、授業担当者の作成したプリントを教材とする。参考文献は授業時に適宜紹介する。					
担当教員		難波 宏彰					
到達目標							
☐ 的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。 ☐ 必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。 ☐ 建設的な相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、適切に応用できる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、ほぼ応用できる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用することができない。	
評価項目2		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、適確に論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができない。	
評価項目3		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価し、建設的に助言することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができない。	
評価項目4		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができる。		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		20名前後の少人数クラス編成により、到達目標の達成にむけて実践的に学習する。					
授業の進め方・方法		クラスを二つに分け、主として演習形式により、適宜解説的講義を交えて授業を展開する。					
注意点		本科目は学修単位科目であり、授業30時間に対する授業外学修時間は60時間です。授業外学修は、授業内容に関する調査・考察・文章作成が主たる活動になります。〈日本語の使い手としてレベルアップする〉ことを心がけてください。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	敬語		尊敬語・謙譲語・丁寧語の定義を理解し、適切な運用能力を身につける。		
		2週	メールと手紙		メールや手紙の書式・表現・マナーを学び、実践する。		
		3週	履歴書		一般的な履歴書の書き方を学び、自分の履歴書の雛型を作成する。		
		4週	エントリーシート		さまざまな業界・形式のエントリーシートを分析し、その対策を学ぶ。		
		5週	レポート1（志望理由書）		ブレインストーミングなどの手法を取り入れ、大学・企業の志望理由書を作成する。		
		6週	レポート2（学習履歴）		自己PRの方法と「学習履歴」のまとめ方を学び、実践する。		
		7週	レポート3（学習履歴）		お手本との比較をとおし、自分が書いた「学習履歴」の修正・清書を行う。		
		8週	小論文 作成準備		小論文作成にあたって必要な手続きを理解する。与えられた条件に従って論題を決定し、必要な情報を収集する。		
	4thQ	9週	小論文 明瞭な文を書くための演習		演習問題により、明瞭な文を書くための留意点を理解する。次回までに要旨・構成表を作成してくる。		
		10週	小論文 要旨・構成表		要旨・構成表について、教員のチェックを受け、適宜修整する。次回までに初稿を作成してくる。		
		11週	小論文 相互批評		学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		12週	小論文 相互批評		学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		13週	小論文 添削・推敲		教員より添削を受ける。相互批評および教員の添削をふまえ、初稿を推敲する。次回までに小論文を完成させてくる。		
		14週	小論文 自己評価		完成稿、及び小論文作成への取り組みについて、自己評価を行う。		
		15週	総括 授業内容の確認		本授業を振り返り、得られた成果と残された課題を確認する。		
		16週					
評価割合							
		課題	レポート	小論文	合計		
総合評価割合		10	40	50	100		

基礎的能力	10	40	50	100
專門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	比較社会史		
科目基礎情報								
科目番号		4E002		科目区分		一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		4		
開設期		前期		週時間数		2		
教科書/教材		木畑洋一『20世紀の歴史』（岩波新書）						
担当教員		宮川 剛						
到達目標								
☐ 20世紀の歴史を学ぶことにより、現代世界の課題を見出すことができる。 ☐ 20世紀の世界の諸地域の歴史を学ぶことにより、多様な視点から考察することができる。 ☐ 20世紀の歴史をグローバルヒストリーの観点から解釈することにより、他者との相互理解を目指す歴史認識を身につけることができる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		20世紀の歴史の基本的な事実関係を理解し、現代の問題を考察することに活かすことができる。		20世紀の歴史の基本的な事実関係を理解できる。		20世紀の歴史の基本的な事実関係を理解できていない。		
評価項目2		20世紀の歴史をグローバルヒストリーの観点から解釈することにより、物事を多様な角度から考察することができる。		20世紀の歴史をグローバルヒストリーの観点から解釈することができる。		20世紀の歴史をグローバルヒストリーの観点から解釈することができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		・講義や教科書の講読を通じて、20世紀の世界史の基本的な知識を身につける。 ・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込み、少人数での議論などを通じて、20世紀の世界史を多様な観点から考察し、学習内容の理解を深める。 ・授業内容についての小論文の作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自らの見解を論理的に表現する訓練を行う。						
授業の進め方・方法		講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読にもとづいたグループでの議論や小論文の作成なども実施する。						
注意点		1年次の「歴史」で学習した内容を前提に授業を進めます。						
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス		20世紀の歴史の意味、「長い20世紀」の意味するもの、などについて学ぶ。			
		2週	帝国主義の時代		帝国主義の時代における支配と被支配の構造、帝国意識の実態、日本による韓国併合のプロセス、などについて学ぶ。			
		3週	第一次世界大戦とその影響（1）		第一次世界大戦はいかに始まったか、ドイツの責任について研究者たちはいかに考えてきたか、などについて理解する。			
		4週	第一次世界大戦とその影響（2）		第一次世界大戦における総力戦の実態、21か条要求が引き起こした山東問題、などについて学ぶ。			
		5週	第一次世界大戦とその影響（3）		パリ講和会議とヴェルサイユ体制がいかに大戦後の植民地において民族運動を引き起こしたか、について学ぶ。			
		6週	世界恐慌と1930年代（1）		世界恐慌が世界に与えた影響について学ぶ。			
		7週	世界恐慌と1930年代（2）		満州事変が引き起こされた背景およびそれが1930年代の歴史に与えた影響について学ぶ。			
		8週	中間試験					
	2ndQ	9週	世界恐慌と1930年代（3）		ドイツにおけるナチス政権の成立の背景およびナチス政権の政策の実態について学ぶ。			
		10週	世界恐慌と1930年代（4）		1930年代の国際関係の緊張のなかで、有和政策と人民戦線戦術がいかに展開されたか、について学ぶ。			
		11週	世界恐慌と1930年代（5）		日中戦争の勃発、日本政府の対応、中国国民政府側の対応、戦争の実態などについて学ぶ。			
		12週	第二次世界大戦（1）		第二次世界大戦の勃発、ヨーロッパ戦線での戦闘の実態などについて学ぶ。			
		13週	第二次世界大戦（2）		日米開戦のプロセス、日本によるアジア占領の実態などについて学ぶ。			
		14週	第二次世界大戦（3）		戦争終結のプロセス、アメリカ軍による広島・長崎への原爆投下などについて学ぶ。			
		15週	定期試験					
		16週	第二次世界大戦（4）		ホロコーストの実態について。ドイツ軍はいかにこれに関与したのか、について学ぶ。			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	授業中の課題	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	80	0	0	0	0	0	20	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	4E003			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ルールを理解し、説明できる.			ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
評価項目2	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.			友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
評価項目3	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.			積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
評価項目4	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.			とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
評価項目5	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.			とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価します。 学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っているジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーパンなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	インディアカの基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		13週	インディアカのの基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		

後期		14週	インディアカの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		15週	インディアカの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		6週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		7週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	4thQ	9週	フットサルの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		10週	フットサルの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		11週	フットサルの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		12週	アルティメットの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		13週	アルティメットの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		14週	アルティメットの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	4E004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Our World Tomorrow: How technology will change our lives by Adam Murray and Anderson Passos ISBN: 9784523179610					
担当教員	ウィルソン ヴァージニア,熊谷 健					
到達目標						
1 Students can improve their communication skills using in-class activities. 2 Students can improve their English knowledge by completing homework and assignments. 3 Students can improve their test-taking skills using TOEIC-based tests.						
ルーブリック						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
achievement1	Students show excellent communication skills during in-class activities.		Students actively participate in in-class activities.		Students do not participate in in-class activities.	
achievement2	Students complete almost all of their assignments on time and to the best of their abilities.		Students complete some of their assignments on time.		Students fail to complete most of their assignments on time.	
achievement3	Students show excellent receptive skills on tests.		Students show good receptive skills on their tests.		Students show poor receptive skills on tests.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	Students will learn language and strategies to improve their test scores. Language items will be vocabulary and grammar structures.					
授業の進め方・方法	In each normal class, students will use the textbook and supplementary materials to learn about various topics and practice reading, writing, listening, and speaking skills as well as participating in general communication activities to practice the skills they have obtained.					
注意点	Tests will have TOEIC-level questions testing the materials and skills studied in class. This course includes a total of 120 hours of self-study activities at home before or after class. (Because 1 hour means 45 minutes in this context, you actually need a total of 90 hour self-study at home.) Please note that you must complete the take-home assignments to succefully pass this class.					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introductions, etc. Supplementary prints	Topics: Introducing yourself, asking questions Skills: Identifying word types, Understanding sentence structure		
		2週	Unit 1	Topic: Introduction to SDGs Skills: Vocabulary, Reading		
		3週	Unit 1 Unit 2	Topics: Introduction to SDGs, Good Health Skills: Listening, Discussing, Vocabulary		
		4週	Unit 2	Topics: Good Health Skills: Reading, Listening, Discussing		
		5週	Unit 3	Topic: Breaking the Poverty Cycle Skills: Vocabulary, Reading		
		6週	Unit 3 Unit 4	Topics: Breaking the Poverty Cycle, Clean Water Skills: Listening, Discussing, Vocabulary		
		7週	Speaking test	presentation		
		8週	Mid-term test	Use knowledge, skills, and strategies learned to perform on a comprehensive test.		
	2ndQ	9週	Unit 4	Topic: Clean Water Skills: Reading, Listening, Discussing		
		10週	Unit 5	Topic: Review Skills: TOEIC practice		
		11週	Unit 6	Topic: Zero Hunger Skills: Vocabulary, Reading		
		12週	Unit 6 Unit 7	Topics: Zero Hunger, Sustainable infrastructure Skills: Listening, Discussing, Vocabulary		
		13週	Unit 7	Topics: Sustainable Infrastructure Skills: Reading, Listening, Discussing		
		14週	Speaking test	presentation		

後期		15週	End-term test	Use knowledge, skills, and strategies learned to perform on a comprehensive test.
		16週	Test return	Review
	3rdQ	1週	Unit 8	Topic: Clean Energy Skills: Vocabulary, Reading
		2週	Unit 8 Unit 9	Topics: Clean Energy, Remote Work Skills: Listening, Discussing, Vocabulary
		3週	Unit 9	Topics: Remote Work Skills: Reading, Listening, Discussing
		4週	Unit 10	Topic: Review Skills: TOEIC practice
		5週	Unit 11	Topic: Quality Education for All Skills: Vocabulary, Reading
		6週	Unit 11 Unit 12	Topics: Quality Education for All, Reducing Inequalities Skills: Listening, Discussing, Vocabulary
		7週	Speaking test	presentation
		8週	Mid-term test	Use knowledge, skills, and strategies learned to perform on a comprehensive test.
	4thQ	9週	Unit 12	Topics: Reducing Inequalities Skills: Reading, Listening, Discussing
		10週	Unit 13	Topic: Keeping Peace Skills: Vocabulary, Reading
		11週	Unit 13 Unit 14	Topics: Keeping Peace, Partnerships Skills: Listening, Discussing, Vocabulary
		12週	Unit 14	Topics: Remote Work Skills: Reading, Listening, Discussing
		13週	Unit 15	Topic: Review Skills: TOEIC practice
		14週	Speaking test	presentation
		15週	End-term test	Use knowledge, skills, and strategies learned to perform on a comprehensive test.
		16週	Test return	Review
評価割合				
	定期試験	小テスト他	合計	
総合評価割合	80	20	100	
基礎的能力	80	20	100	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	実用英語演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	4 E036			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	English Grip:本多吉彦・Robert Kickling:金星堂:978-4-7647-3856-0						
担当教員	熊谷 健						
到達目標							
・ 高専でこれまで学習した内容の復習と、基本的な文法項目の定着を計り、大学レベル及び国際的に活躍する技術者に必要とされる英語力の基礎固めの完成を目指す。 ・ 会話表現や文法項目の学習、英文読解や、ライティング能力の向上につながる並べ替えなどを含む総合的な演習問題を行い、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の向上を目指す。 ・ TOEIC テストにも頻繁に出される語彙の習得をすることで、実質的なTOEIC の得点アップも目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解いたり、英文を適切に読み解くことができる。			基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解くことができる。		基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解くことができない。	
評価項目2	音読がスムーズにでき、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現でき、英語を聞いたり話したりする能力に応用できる。			シャドーイングを含めた音読がスムーズにでき、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現できる。		シャドーイングを含めた音読がスムーズにできず、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現できない。	
評価項目3	英語力に必要な教養(文化的、社会的、歴史的背景知識)を得て、英語の4技能に対応する総合力を獲得することができる。			英語力に必要な教養を得て、英語の4技能に対応する総合的な練習問題を解くことができる。		英語力に必要な教養を得ることができず、英語の4技能に対応する総合的な練習問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・ 本授業は学生個々人の学習活動に重点を置く。 ・ 英文法の復習と基礎固めをすると共に、TOEIC テスト頻出語彙も学習する。 ・ 一方的な解説にならないよう、個々人の理解度を確認しながら授業を進める。 ・ 英語講読教材に導入されている語彙やむ英語表現を学習するとともに発音練習やリスニングの学習活動を通して、英語の知識の定着を計る。						
授業の進め方・方法	1.まず始めに、毎回、「今日のポイント」として授業の学習重要ポイントを提示する。 2.文法や語彙、内容を意識しながら、リーディング教材をシャドーイングする。 3.語彙の内部構造(複合と派生)に注意しながら、英単語の綴り、発音、アクセント、意味を確認する。 4.読解問題を解きながら、リーディング教材の内容把握を行う。 5.文法・ライティング問題を解きながら、リーディング教材で扱われている文法事項の確認と定着をはかる。 6.発音・リスニング問題を解きながら、リーディング教材で学んだものの応用力を身に付ける。						
注意点	・ 本科目は必修の履修単位です。単位振替可能な科目で、振替手続きをしている学生のみ免除科目となります。 ・ 英語力をつけるには、積極的に学習することが不可欠です。予習の段階で丹念に辞書を引き、授業でその学習項目を確認し、分からない部分は積極的に質問して下さい。 ・ 発音やスピーキングの練習においても積極的に声を出して下さい。発音やアクセント、イントネーションも重要です。で、ノートに書くようにして下さい。 ・ 復習は計画的に行い、学習項目の理解と定着を先延ばししないようにして下さい。 ・ 英語学習全体を通して辞書の積極的活用は、体系的な知識形成に大いに役立つので、是非実行して下さい。これらの作業も準備したノートに残すようにして下さい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction		シラバスの説明:授業紹介、授業目標、教科書の使い方、評価方法など		
		2週	Unit 1 Fashion --- 名詞。ファッションに関する名詞を多く取り上げながら、名詞の働きを学ぶ		・ 名詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		3週	Unit 2 Companies --- 代名詞。人称代名詞の変化形とさまざまな代名詞を学ぶ		・ 代名詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		4週	Unit 3 Business Trips ---自動詞・他動詞・リンキング動詞。動詞の種類と基本文型との関連を学ぶ		・ 動詞の種類と基本文型を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		5週	Unit 4 Transportation and Commuting --- 助動詞。「法助動詞」と呼ばれるタイプの助動詞を学ぶ		・ 助動詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		6週	Unit 5 Marketing, Sales and Products --- 不定詞・動名詞。「準動詞」の使い方を学ぶ		・ 不定詞や動名詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		7週	学習項目のまとめと復習		学習項目のまとめと復習		
		8週	前期中間試験		習熟度の確認		
	2ndQ	9週	中間試験の解答、学習事項の再確認、今後の注意事項の確認		学習内容理解への傾向と対策の検討		
		10週	Unit 6 Offices and Supplies--- 場所・動きを表す前置詞。前置詞の使い方を学ぶ(1)		・ 場所や動きを表す前置詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		11週	Unit 7 Meetings and Presentations --- 時間を表す前置詞。前置詞の使い方を学ぶ(2)		・ 時間を表す前置詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		

		12週	Unit 8 Art --- 形容詞・副詞。形容詞の2用法と副詞の使い方を学ぶ	・形容詞や副詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		13週	Unit 9 Restaurants and Food--- 原級・比較級・最上級。比較表現と関連する表現を学ぶ	・原級・比較級・最上級の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		14週	Unit 10 Housing --- 接続詞(1):等位接続詞を学ぶ	・等位接続詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		15週	前期期末試験	習熟度の確認
		16週	期末試験の解答、学習事項の再確認、今後の注意事項の確認	学習項目のまとめと復習

評価割合			
	定期試験	課題など	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	実用英語演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	4 E037			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	English Grip:本多吉彦・Robert Kickling:金星堂:978-4-7647-3856-0						
担当教員	熊谷 健						
到達目標							
・高専でこれまで学習した内容の復習と、基本的な文法項目の定着を計り、大学レベル及び国際的に活躍する技術者に必要とされる英語力の基礎固めの完成を目指す。 ・会話表現や文法項目の学習、英文読解や、ライティング能力の向上につながる並べ替えなどを含む総合的な演習問題を行い、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の向上を目指す。 ・TOEIC テストにも頻繁に出される語彙の習得をすることで、実質的なTOEIC の得点アップも目標とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解いたり、英文を適切に読み解くことができる。		基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解くことができる。		基本的な英文法の理解に基づき、リーディング教材の各種問題を解くことができない。	
評価項目2		音読がスムーズにでき、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現でき、英語を聞いたり話したりする能力に応用できる。		シャドーイングを含めた音読がスムーズにでき、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現できる。		シャドーイングを含めた音読がスムーズにできず、英語のリズム、発音、アクセントを的確に表現できない。	
評価項目3		英語力に必要な教養(文化的、社会的、歴史的背景知識)を得て、英語の4技能に対応する総合力を獲得することができる。		英語力に必要な教養を得て、英語の4技能に対応する総合的な練習問題を解くことができる。		英語力に必要な教養を得ることができず、英語の4技能に対応する総合的な練習問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		・本授業は学生個々人の学習活動に重点を置く。 ・英文法の復習と基礎固めをすると共に、TOEIC テスト頻出語彙も学習する。 ・一方的な解説にならないよう、個々人の理解度を確認しながら授業を進める。 ・英語講読教材に導入されている語彙やむ英語表現を学習するとともに発音練習やリスニングの学習活動を通して、英語の知識の定着を計る。					
授業の進め方・方法		1.まず始めに、毎回、「今日のポイント」として授業の学習重要ポイントを提示する。 2.文法や語彙、内容を意識しながら、リーディング教材をシャドーイングする。 3.語彙の内部構造(複合と派生)に注意しながら、英単語の綴り、発音、アクセント、意味を確認する。 4.読解問題を解きながら、リーディング教材の内容把握を行う。 5.文法・ライティング問題を解きながら、リーディング教材で扱われている文法事項の確認と定着をはかる。 6.発音・リスニング問題を解きながら、リーディング教材で学んだものの応用力を身に付ける。					
注意点		・本科目は必修の履修単位です。単位振替可能な科目で、振替手続きをしている学生のみ免除科目となります。 ・英語力をつけるには、積極的に学習することが不可欠です。予習の段階で丹念に辞書を引き、授業でその学習項目を確認し、分からない部分は積極的に質問して下さい。 ・発音やスピーキングの練習においても積極的に声を出して下さい。発音やアクセント、イントネーションも重要です。ノートに書くようにして下さい。 ・復習は計画的に行い、学習項目の理解と定着を先延ばししないようにして下さい。 ・英語学習全体を通して辞書の積極的活用は、体系的な知識形成に大いに役立つので、是非実行して下さい。これらの作業も準備したノートに残すようにして下さい。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction		シラバスの説明:授業紹介、授業目標、教科書の使い方、評価方法など		
		2週	Unit 12 Business Profile --- 過去時制。さまざまな動詞の過去形を学ぶ		・過去時制の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		3週	Unit 13 Schedules --- 未来。さまざまな未来表現を学ぶ		・さまざまな未来表現を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		4週	Unit 14 Computers and the Internet --- 現在完了時制・過去完了時制。「完了形」を学ぶ		・現在完了時制・過去完了時制を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		5週	Unit 15 Industry and Manufacturing --- 能動態と受動態。受け身の文を学ぶ		・能動態と受動態を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		6週	Unit 16 Making Arrangements--- 接続詞(2)従属接続詞。従属節の働きを学ぶ		・従属接続詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		7週	Unit 17 Business Culture ---否定文。さまざまな否定表現を学ぶ		学習項目のまとめと復習		
		8週	中間試験		習熟度の確認		
	4thQ	9週	中間試験の解答、学習事項の再確認、今後の注意事項の確認		学習内容理解への傾向と対策の検討		
		10週	Unit 18 Recruitment --- 疑問文・疑問詞・付加疑問文。		・疑問文・疑問詞・付加疑問文を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		
		11週	Unit 19 Entertaining and Socializing --- 関係代名詞・関係副詞。関係詞の種類と使い方を学ぶ		・関係代名詞・関係副詞の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。		

		12週	Unit 20 Education --- 後置修飾。さまざまな後置修飾表現を学ぶ	・さまざまな後置修飾表現を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		13週	Unit 21 Banking --- 仮定法。仮定法過去形、仮定法過去完了形、その他の仮定法の表現を学ぶ	・さまざまな仮定法の表現を十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		14週	Unit 22 Health --- 話法。直接話法と間接話法の使い方を学ぶ	・直接話法と間接話法の働きを十分に理解した上で、英文構造が適切に理解できる。
		15週	後期期末試験	習熟度の確認
		16週	期末試験の解答、学習事項の再確認	学習項目のまとめと復習

評価割合			
	定期試験	課題など	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	解析学	
科目基礎情報							
科目番号	4E006			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	新応用数学（大日本図書） / 新応用数学問題集（大日本図書）						
担当教員	碓氷 久						
到達目標							
☐ 複素関数の概念を理解し、計算ができる。 ☐ 複素積分の概念を理解し、計算ができる。 ☐ ε - δ 論法を使って極限概念の厳密な議論ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	複素関数について理論の成り立ちが理解されていて計算問題が解ける。		複素関数の計算問題が解ける。		複素関数の計算問題が解けない。		
評価項目2	複素積分について理論の成り立ちが理解されていて計算問題が解ける。		複素積分の計算問題が解ける。		複素積分の計算問題が解けない。		
評価項目3	ε - δ 論法を使って数列や関数の極限の概念を理解する。		ε - δ 論法を使って具体的な例が証明できる。		ε - δ 論法を使って具体的な例が証明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	3年まで学習した数学を基礎として、複素関数と数学的厳密な極限概念を学習する。主として正則関数、複素積分、コーシーの積分定理、留数定理、 ε - δ 論法を使って極限概念を修得し、工学に適用できる数学的スキルを学ぶ。						
授業の進め方・方法	定理・公式の成り立ちを丁寧に解説し、問題例を詳しく説明する。さらに問題演習を行う。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	複素数と極形式		複素数とガウス平面が理解できる。		
		2週	複素関数		複素関数の意味が理解できる。		
		3週	正則関数		正則関数の定義が理解できる。		
		4週	複素積分		複素積分の計算ができる。		
		5週	コーシーの積分定理		コーシーの積分定理が理解できる。		
		6週	コーシーの積分定理		コーシーの積分定理を使うことができる。		
		7週	テラー展開とローラン展開		テラー展開とローラン展開の計算ができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	孤立特異点と留数		孤立特異点と留数の計算ができる。		
		10週	留数定理		留数定理の意味が理解でき、計算ができる。		
		11週	数列における ε - δ 論法の定義とその例		数列における ε - δ 論法の定義を理解しとその例が証明できる。		
		12週	関数における ε - δ 論法の定義とその例（1）		関数における ε - δ 論法の定義を理解しとその例が証明できる。		
		13週	関数における ε - δ 論法の定義とその例（2）		関数における ε - δ 論法の定義を理解しとその例が証明できる。		
		14週	関数列や関数項級数の一様収束		関数列や関数項級数に対して、一様収束についての例の証明ができる。		
		15週	全体の復習				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	20	30
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	線形代数基礎	
科目基礎情報							
科目番号		4E007		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		4	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		大嶋 一人					
到達目標							
ループリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用解析基礎
科目基礎情報				
科目番号	4E008	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子メディア工学科	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	1	
教科書/教材	教科書:「新応用数学(佐藤、高遠、西垣、濱口、前田、向山 著)大日本図書」、問題集:「新応用数学問題集(嶋野、高遠、西垣、橋本、濱口 著)大日本図書」			
担当教員	五十嵐 睦夫			
到達目標				
☐ 簡単な関数のラプラス変換が定義に基づいて計算できる。 ☐ ラプラス変換の基本性質を利用し、やや複雑な関数のラプラス変換が計算できる。 ☐ ラプラス変換の表を利用し、特定の関数の逆ラプラス変換を求めることができる。 ☐ ラプラス変換を利用し、簡単な線形微分方程式を解くことができる。 ☐ たたみこみを利用したラプラス変換の簡単な問題を解くことができる。 ☐ 基本的な周期関数のフーリエ級数を求めることができる。 ☐ フーリエの収束定理を利用した無限級数の和を計算する手法を理解できる。 ☐ 簡単な関数のフーリエ変換を求めることができる。 ☐ フーリエの積分定理を利用し、定積分を計算する手法が理解できる。 ☐ たたみこみを利用したフーリエ変換の簡単な問題を解くことができる。 ☐ フーリエ級数またはフーリエ変換を用いた熱伝導方程式の解法の概要が理解できる。 ☐ 後期開設の解析学での活用を想定し、下記の各項目の概要が理解できる。 復素数と極型式・絶対値と偏角・複素関数・正則関数・コーシー＝リーマンの関係式・逆関数				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的よりも少し上位な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	簡単な関数のラプラス変換および逆ラプラス変換が確実に計算できる。	簡単な関数のラプラス変換および逆ラプラス変換が計算できる。	簡単な関数のラプラス変換および逆ラプラス変換が計算ようにするための努力をすることができる。	簡単な関数のラプラス変換および逆ラプラス変換が計算できるようにするための努力をすることができない。
評価項目2	ラプラス変換を利用して、基本的な線形微分方程式を確実に解くことができる。	ラプラス変換を利用して、基本的な線形微分方程式を解くことができる。	ラプラス変換を利用して、基本的な線形微分方程式を解くことができるようにするための努力をすることができる。	ラプラス変換を利用して、基本的な線形微分方程式を解くことができるようにするための努力をすることができない。
評価項目3	基本的な周期関数のフーリエ級数が計算でき、フーリエの収束定理を確実に応用ができる。	基本的な周期関数のフーリエ級数が計算でき、フーリエの収束定理の簡単な応用ができる。	基本的な周期関数のフーリエ級数が計算でき、フーリエの収束定理の簡単な応用ができる。	基本的な周期関数のフーリエ級数の計算やフーリエの収束定理の簡単な応用をできるようにするための努力をすることができない。
評価項目4	基本的な関数のフーリエ変換が確実に計算でき、フーリエの積分定理を確実に応用ができる。	基本的な関数のフーリエ変換が計算でき、フーリエの積分定理の簡単な応用ができる。	基本的な関数のフーリエ変換が計算でき、フーリエの積分定理の簡単な応用ができる。	基本的な関数のフーリエ変換が計算やフーリエの積分定理の簡単な応用をできるようにするための努力をすることができない。
評価項目5	フーリエ級数、フーリエ変換を利用した熱伝導方程式の解法を確実に適用することができる。	フーリエ級数、フーリエ変換を利用した熱伝導方程式の解法が理解できる。	フーリエ級数、フーリエ変換を利用した熱伝導方程式の解法が理解できるようにするための努力をすることができる。	フーリエ級数、フーリエ変換を利用した熱伝導方程式の解法が理解できるようにするための努力をすることができない。
評価項目6	解析学で必要となる基礎事項を確実に理解できる。	解析学で必要となる基礎事項を理解できる。	解析学で必要となる基礎事項を理解するための努力をすることができる。	解析学で必要となる基礎事項を理解するための努力をすることができない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	・本科目は学修単位科目であり、予習および復習といった自学自習が基本となる。 ・課題を期限内に提出することが極めて重要である。 ・応用物理演習Ⅱと運動した授業態勢となる。別途連絡する予定に従い、的確に対応することが欠かせない。 ○ラプラス変換 指数関数、広義積分を復習し、ラプラス変換の定義及びそのいろいろな性質を学ぶ。これを微分方程式、伝達関数等に応用する。 ○フーリエ級数 三角関数の基礎知識とその積分や周期関数について復習し、フーリエ級数を定義する。次に関数の対称性との関連、無限級数の値を求めることなどへ発展させる。フーリエ級数の計算に習熟させることに主眼を置くが、フーリエ級数の意味を良く理解することを目指す。 ○フーリエ変換 フーリエ級数の(周期の)極限として、積分変換を学習する。反転公式から積分の値を求めることや、フーリエ変換の性質を学ぶ。 ○偏微分方程式の境界値問題 波動方程式・熱伝導方程式・ラプラス方程式の導出と、これらの方程式の解法として変数分離法やフーリエ級数・フーリエ変換の応用を学ぶ。 ○正則関数 後期開設の解析学を想定し、準備学習と位置付けて下記の各項目を学ぶ。 復素数と極型式・絶対値と偏角・複素関数・正則関数・コーシー＝リーマンの関係式・逆関数			
授業の進め方・方法	・最初にひとまず教科書の全範囲をひととおり終わらせる。その後は傍用問題集を最初から解くことにより学力の定着を図る。 ・アクティブラーニング形式で実施し、授業素材の定着を図る。 ・クラスメートとの学び合いを実践することを奨励する。			

注意点	・微積分の基礎をしっかりと復習して臨むべき科目である。 ・分らなくなったら、3年までに学んだ数学の教科書をもう一度読み返して対応するべきである。
	・成績評点における基本評価の算出比率は以下の通りとする。大テストに対して真摯な対応をすることが重要である。 基本課題20% 大テスト40% 前期中間試験20% 前期定期試験10% 後期中間試験5% 後期定期試験5% ・基本評価で不合格の場合は追加評価を行う。その際には追加課題も課し、下記の算出比率を適用する。ただし、追加評価による評点の上限は69点とする。 課題（基本・追加）30% 大テスト30% 前期中間試験5% 前期定期試験10% 後期中間試験20% 後期定期試験5% ・追加評価でも不合格の場合には最終評価を行う。その際にはさらに最終課題を課し、下記の算出比率を適用する。ただし、最終評価による評点の上限は60点とする。 課題（基本・追加・最終）40% 大テスト20% 前期中間試験5% 前期定期試験5% 後期中間試験10% 後期定期試験20%

授業の属性・履修上の区分

☒ アクティブラーニング	☒ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
--	--	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ラプラス変換の定義と例	
		2週	基本的性質	
		3週	基本的なラプラス変換（1）	
		4週	基本的なラプラス変換（2）	
		5週	基本的なラプラス変換（3）	
		6週	ラプラス変換とたたみこみ	
		7週	逆ラプラス変換（1）	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	逆ラプラス変換（2）	
		10週	常微分方程式への応用（1）	
		11週	常微分方程式への応用（2）	
		12週	周期関数のラプラス変換（1）	
		13週	周期関数のラプラス変換（2）	
		14週	デルタ関数と系の伝達関数	
		15週	期末試験	
		16週	答案返却 演習	
後期	3rdQ	1週	周期2πの関数のフーリエ級数（1）	
		2週	周期2πの関数のフーリエ級数（2）	
		3週	一般の周期関数のフーリエ級数	
		4週	フーリエ級数の収束（1）	
		5週	フーリエ級数の収束（2）	
		6週	複素形フーリエ級数（1）	
		7週	複素形フーリエ級数（2）	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	フーリエ変換とフーリエ積分定理（1）	
		10週	フーリエ変換とフーリエ積分定理（2）	
		11週	フーリエ変換の性質と公式	
		12週	いろいろな応用	
		13週	波動方程式 熱伝導方程式 ラプラス方程式	
		14週	フーリエ変換の偏微分方程式への応用	
		15週	期末試験	
		16週	答案返却 演習	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100

基礎的能力	40	10	50
專門的能力	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用物理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		4E009		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	4		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		前期教科書：「振動と波」：長岡 洋介：裳華房：ISBN4-7853-2045-1, 教科書：熱力学：三宅哲：裳華房: 978-4-7853-2035-5					
担当教員		五十嵐 睦夫,塚原 規志					
到達目標							
群馬高専独自	☐ 状態量を用いて熱力学量を記述することができる。 ☐ 熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。MCC ☐ 不可逆過程について具体例を挙げることができる。MCC ☐ 熱機関の熱効率に関する計算ができる。MCC						
群馬高専独自	☐ 熱力学第1法則に習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて熱力学の典型的な問題を解くことができる。						
群馬高専独自	☐ 熱力学第2法則に習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて熱力学の典型的な問題を解くことができる。						
群馬高専独自	☐ 多自由度系における質点の運動方程式が書ける。						
群馬高専独自	☐ 運動方程式を解き, 規準モードを求めることができる。						
群馬高専独自	☐ フーリエ解析を用いて, 連続体の振動を解析することができる。						
群馬高専独自	☐ それらの知識を, 実際の現象に応用することができる。						
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	熱力学第 1法則について習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 応用的な問題に関する熱力学量を求めることができる。		熱力学第 1法則について習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 基本的な問題に関する熱力学量を求めることができる。		熱力学第 1法則について習熟しておらず, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 基本的な問題に関する熱力学量を求めることができない。		
評価項目2	熱力学第2法則と熱力学関数について習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 応用問題を解くことができる。		熱力学第2法則と熱力学関数について習熟し, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 基本問題を解くことができる。		熱力学第2法則と熱力学関数について習熟しておらず, 多変数関数の微積分のテクニックを用いて, 基本問題を解くことができない。		
評価項目3	連成振動の運動方程式を解析し, 規準振動を導くことができる。またこれを利用して, 対応する物理現象に応用することができる。		連成振動の運動方程式を解析し, 規準振動を導くことができる。		連成振動の運動方程式を解析し, 規準振動を導くことができない。		
評価項目4	波動方程式を理解し, 波動方程式の境界値問題の一般解を導くことができる。またこれを利用して, 対応する物理現象に応用することができる。		波動方程式を理解し, 波動方程式の境界値問題の一般解を導くことができる。		波動方程式を理解し, 波動方程式の境界値問題の一般解を導くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	前期は微分方程式および行列のテクニックを用いた, 大学教養程度の線型の振動・波動現象に関する基本的な理論を学習する。 後期は多変数関数の微積分のテクニックを用いた, 大学教養程度の熱力学の 基本的な理論を学習する。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点	様々な学問の中でも、物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問である。復習を中心に、日頃から地道に学習に努める必要がある。また、一人では解決できそうにない疑問点を納得できないまま何日も放置してはならない。疑問点は一人で抱え込んだりせず、その都度で先生や物理の得意な級友に質問して教えてもらうことを強く勧める。そして、応用物理Ⅰの内容（運動方程式の立て方およびその解き方）の復習と高校物理の内容(波動および熱力学)の復習をしておくべきである。 成績評点は、前期と後期で独立して積算する。前期分と後期分の算術平均が学年成績となる。なお、「評価割合」の欄では小テスト20％となっているが、前期については以下の別規定[1][2]に基づく評価をおこなう。 ・別規定[1] 成績評点における基本評価の算出比率は以下の通りとする。基本大テストに対して真摯な対応をすることが重要である。 基本課題20% 基本大テスト40% 前期中間試験20% 前期定期試験20% ・別規定[2] 基本評価で前期成績が60点に至らない場合は追加評価を行う。その際には追加課題を課した上で追加大テストを行い、下記の算出比率を適用する。ただし、追加評価による前期分評点の上限は60点とする。 課題（基本および追加）40% 大テスト（基本および追加）30% 前期中間試験5% 前期定期試験5% なお、いずれの別規定も前期へのみ適用される。後期については「評価割合」の欄に記載のとおりとする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1自由度の振動(1)		単振動タイプの運動方程式を解析できる。		

後期		2週	1自由度の振動(2)	減衰振動と強制振動の運動方程式を解析できる。
		3週	2自由度系の連成振動(1)	2自由度系の連成振動について運動方程式を立てて、解くことができる。
		4週	2自由度系の連成振動(2)	2自由度系の振動モード、基準座標について説明ができる。
		5週	少数多体系の連成振動(1)	少数多体系の運動方程式を立てて、解くことができる。
		6週	少数多体系の連成振動(2)	少数多体系の振動モード、基準振動、分散関係、境界条件について説明できる。
		7週	中間試験	
		8週	一般の連成振動	一般の連成振動の運動方程式を立てることができる。
	2ndQ	9週	連続体の振動(1)	連成振動の連続極限を取り、連続体の波動方程式を導くことができる。
		10週	連続体の振動(2)	波動方程式の解析ができる。
		11週	連続体の振動(3)	波動方程式を初期条件、境界条件を入れて解くことができる。
		12週	連続体の振動(4)	フーリエ変換を用いた波動方程式の解析ができる。
		13週	連続体の振動(5)	波動方程式のダランベールの解について解析できる。
		14週	振動・波動現象の応用(4)	2, 3次元の波について問題を解くことができる。
		15週	まとめと応用	振動・波動の応用問題を解くことができる。
		16週	定期試験	
	3rdQ	1週	熱力学の基礎(1)	経験的溫度、絶対溫度について説明できる。理想気体の諸性質を理解できる。
		2週	熱力学の基礎(2)	気体の状態方程式、示量変数と示強変数について理解している。
		3週	熱力学第1法則(1)	熱力学第1法則について説明できる。可逆変化と準静的変化について説明できる。
		4週	熱力学第1法則(2)	熱力学第1法則を用いて、定圧熱容量・定積熱容量を計算できる。
		5週	熱力学第1法則(3)	熱サイクル・熱効率の概念を理解し、説明できる。
		6週	熱力学第1法則(4)	理想気体の様々な熱サイクルについて効率が計算できる。
		7週	熱力学第2法則(1)	熱力学第2法則を理解し、トムソンの原理とクラウジウスの原理について説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	熱力学第2法則(2)	カルノーの定理について説明できる。
		10週	熱力学第2法則(3)	クラウジウスの不等式について説明できる。エントロピーについて説明できる。
		11週	熱力学第2法則(4)	エントロピー増大則について説明できる。
		12週	熱力学第2法則(5)	エントロピーに関する問題を解くことができる。
		13週	熱力学関数(1)	基本的な熱力学関数とルジャンドル変換について理解している。
		14週	熱力学関数(2)	熱力学関数から導かれるマクスウェルの関係式について理解している。
		15週	後期定期試験	
		16週	答案返却、相転移現象	試験に関する説明が理解できる。相転移現象の例が理解できる。

評価割合			
	試験	小テスト等	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	50	20	70
専門的能力	30	0	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用物理演習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	4E010		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材					
担当教員	五十嵐 睦夫				
到達目標					
☐ 古典力学における基礎的な概念を《定量的に把握》できる。 ☐ 古典力学の基礎的概念に基づき、典型的な問題における《条件設定を正しく把握して適切に対応》できる。 ☐ 多くの力学問題を解いた経験を元に、物体の簡単な運動について《運動方程式を正しく記述》できる。 ☐ 初歩的な古典力学に現れる各種保存則に関し、具体的問題において《その成立条件を適切に適用》できる。 ☐ 比較的長い記述式答案を書く作業を通じ、《論述式答案の記述ができる》ようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準より少し上位の到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な問題設定の設問についても、設定条件の概要を分析できる。	問題の設定条件の概要を分析できる。	問題の設定条件の概要を分析できるようになるための努力をすることができる。	問題の設定条件の概要を分析できるようになるための努力をすることができない。	
評価項目2	座標変換などが必要な条件についても、質点にとどまらず剛体についても適切に運動方程式を立てることができる。	質点の簡単な運動についてなら、運動方程式を立てることができる。	質点の簡単な運動についてなら、運動方程式を立てることができる。	単一の力のみが働いている質点の運動についてさえ、運動方程式を立てることができるようになるための努力をすることができない。	
評価項目3	一見込み入った問題設定に際しても、エネルギー保存則と運動量保存則では成立条件が異なることを適切に斟酌して適用し、問題を解くことができる。	エネルギー保存則と運動量保存則では成立条件が異なることを理解している。	エネルギー保存則と運動量保存則では成立条件が異なることを理解できるようになるための努力をすることができる。	エネルギー保存則と運動量保存則では成立条件が異なることを理解できるようになるための努力をすることができない。	
評価項目4	第三者としての答案採点者の視点を的確に把握しており、自らの解答が採点者に判読してもらえるよう十分に配慮された答案を書くことができる。	第三者としての答案採点者の視点を把握し、自らの解答が採点者に判読してもらえるよう配慮された答案を書く準備ができています。	第三者としての答案採点者の視点を把握し、自らの解答が採点者に判読してもらえるよう配慮された答案を書く準備ができています。	第三者としての答案採点者の視点を把握することや、自らの解答が採点者に判読してもらえるよう配慮された答案を書くようにすること、そしてその準備ができるようになるための努力をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	- 過去の大学編入学試験で出題された力学関連の問題を中心とした演習を行い、古典力学の問題を解く力を養う。 - 演習科目であるので、授業時間には実際にみずからの手を動かして取り組む必要がある。 - 応用物理演習Ⅰに引き続き、専門工学基礎としての英単語学習を継続する。 ○速度と加速度の違いを説明できる。 ○同一直線上を等速運動する2物体について、相対速度を求めることができる。 ○等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。 ○平面内を移動する質点の運動を、位置ベクトルの変化として理解している。 ○座標を時間で微分し、速度や加速度を求めることができる。 ○自由落下に関する計算ができる。 ○鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。 ○水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。 ○物体に作用する力を図示することができる。 ○力の合成と分解をすることができる。 ○重力、抗力、張力、圧力について説明できる。 ○フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。 ○慣性の法則について説明できる。 ○作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。 ○互いに力を及ぼしあう物体の運動について、運動方程式を立てて解くことができる。 ○簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。 ○静止摩擦力がはたらいっている場合において、力のつりあいについて理解している。 ○最大摩擦力に関する計算ができる。 ○動摩擦力に関する計算ができる。 ○仕事と仕事率に関する計算ができる。 ○物体の運動エネルギーに関する計算ができる。 ○重力による位置エネルギーに関する計算ができる。 ○弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。 ○力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。 ○物体の質量と速度から運動量を求めることができる。 ○運動量の差が力積に等しいことを理解している。 ○運動量保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。 ○周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。 ○単振動における速度、加速度、力の関係を説明できる。 ○等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。 ○力のモーメントを求めることができる。 ○角運動量を求めることができる。角運動量保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。 ○剛体における力のつり合いに関する計算ができる。 ○重心の定義について理解し、重心に関する計算ができる。 ○一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。 ○剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。				

授業の進め方・方法	・応用解析基礎と連動した授業態勢となる。別途連絡する予定に従い、的確に対応することが欠かせない。 ・予習および復習といった自学自習が基本となる。 ・課題は期限通りに提出することが重要である。 ・配布された課題プリントに対し、自力で解けるようにするための努力をおこなう。 ・アクティブラーニング形式で実施し、授業素材の定着を図る。 ・クラスメートとの学びあいを実践する。 ・大テストには、英単語も出題する。高専機構が掲げる「グローバルエンジニア教育」に準拠した取り組みの一環である。																																					
注意点	専門能力を発揮する場を得るためには、基礎学力を備えることが必須です。大学編入学試験においてはそのような視点の下、大学1年次までに学習する内容の基本が出題されます。それは高等学校の学習指導要領の範囲を超えた出題であるということでもあります。かといってその範囲の能力が必要でないということの意味するわけではありません。それは高等専門学校の課程を修了した段階の学力が身につけているかどうかを確認する手段としては当然のことです。本科目の目的はあくまでも学生が専門能力を発揮することに資することにありますが、そのためにこそ、基礎学力を涵養することに重心を据えた運用をします。すなわち、本授業が学生に求めるのは、そのような内容に対する解答対応能力の開発です。 そのような内容は必然的に、高等学校の学習指導要領を超えた範囲のものとなります。しかし、学習指導要領の範囲の内容を前提としていることは上述のように明らかなです。その内容もままならないようでは本科目が照準とする内容の学習に根本的な障害があります。学習指導要領の範囲の内容は本授業の必然的な前提なのです。しかしながら、成績が不振な学生の場合、この前提が満たされていないことがほとんどです。学習の前提となる学習指導要領範囲の内容が定着していないため、学習指導要領を超える範囲の学習になると無意味な丸暗記に終始してしまっ本質理解からは程遠い状態に陥ってしまっています。それでは、本授業の本来の目的は達成されません。基礎力の定着は授業目標達成のための前提条件なのです。 他方、編入学試験で問われる内容は、各種の工学に取り組む際のまさに礎となる能力を測るものです。そのような素養が求められるからこそ、高等教育機関である大学が入学試験として課すのです。それへの対応能力を身に着けることは、本科目が照準とする専門対応能力の涵養と直接的につながります。 ・微積分の基礎をしっかりと復習して臨むべき科目である。 ・課題をこなすことが授業の中核を占める。 ・何にも増して自己学習が必須である。 ・分らなくなったら、3年までに学んだ数学と物理の教科書をもう一度読み返して対応するべきである。 ・成績評価における基本評価の算出比率は以下の通りとする。大テストに対して真摯な対応をすることが単位取得の要である。基本評価のみで優秀な成績を収めた場合、発展的内容の探究をすることが奨励される。発展的内容への対応状況は、基本評価の評点への加点をすることで成績へと反映する。 基本課題20% 大テスト40% 前期中間試験20% 前期定期試験10% 後期中間試験5% 後期定期試験5% ・基本評価で不合格の場合は追加評価を行う。その際には追加課題も課し、下記の算出比率を適用する。ただし、追加評価による評点の上限は69点とする。 課題（基本・追加）30% 大テスト30% 前期中間試験5% 前期定期試験10% 後期中間試験20% 後期定期試験5% ・追加評価でも不合格の場合には最終評価を行う。その際にはさらに最終課題を課し、下記の算出比率を適用する。ただし、最終評価による評点の上限は60点とする。 課題（基本・追加・最終）40% 大テスト20% 前期中間試験5% 前期定期試験5% 後期中間試験10% 後期定期試験20%																																					
授業の属性・履修上の区分																																						
☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業																																						
授業計画																																						
	<table><tr><th></th><th>週</th><th>授業内容</th><th>週ごとの到達目標</th></tr><tr><td rowspan="10">前期</td><td rowspan="8">1stQ</td><td>1週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>2週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>3週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>4週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>5週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>6週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>7週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>8週</td><td>中間試験</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td rowspan="2">2ndQ</td><td>9週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr><tr><td>10週</td><td>○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。</td><td>力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。</td></tr></table>		週	授業内容	週ごとの到達目標	前期	1stQ	1週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	2週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	3週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	4週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	5週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	6週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	7週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	8週	中間試験	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	2ndQ	9週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。	10週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
	週	授業内容	週ごとの到達目標																																			
前期	1stQ	1週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		2週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		3週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		4週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		5週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		6週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		7週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		8週	中間試験	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
	2ndQ	9週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		
		10週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。																																		

		11週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		12週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		13週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		14週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		15週	定期試験	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		16週	答案返却 演習	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
後期	3rdQ	1週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		2週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		3週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		4週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		5週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		6週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		7週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		8週	中間試験	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
	4thQ	9週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		10週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		11週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		12週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		13週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		14週	○過去の編入試で出題された力学関連の問題を実施する。	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		15週	定期試験	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
		16週	答案返却 演習	力学の諸概念の適用能力の定着努力ができる。
評価割合				
	試験	課題	合計	
総合評価割合	80	20	100	
基礎的能力	40	10	50	
専門的能力	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報科学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	4E011			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	・カーニハン, リッチー著, 石田晴久訳:「プログラミング言語C」, 共立出版、自作資料						
担当教員	富澤 良行						
到達目標							
☐ C言語における変数と基本データ型の概念を説明できる。 ☐ C言語における代入や演算子の概を理解し、式を記述できる。 ☐ C言語において御構造の概念を理解し、条件分岐や反復処理を記述できる。 ☐ C言語においてプロシージャ（または、関数、サブルーチンなど）の概念を理解し、これらを含むプログラムを記述できる。 ☐ 与えられた簡単な問題に対して、それを解決するためのソースプログラムを記述できる。 ☐ アルゴリズムの概念を説明できる。 ☐ 時間計算量や領域計算量などによってアルゴリズムを比較・評価できることが理解できる。 ☐ コンピュータ内部でデータを表現する方法（データ構造）にはバリエーションがあることが理解できる。 ☐ リスト構造、スタック、キューなどの基本的なデータ構造の概念と操作を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的なC言語の文法を理解・使用でき、人に説明できる。		基本的なC言語の文法を理解し、使用できる。		基本的なC言語の文法が理解できない。		
評価項目2	C言語のプログラムを読んで、人に説明できる。		C言語のプログラムを読める。		C言語のプログラムを読めない。		
評価項目3	問題に応じて適切かつエラーの可読性を考慮したプログラムを作成できる。		問題に応じて適切プログラムを作成できる。		問題に応じて適切プログラムを作成できない。		
評価項目4	C言語の基本的な文法を例題や演習問題のプログラム作成に利用できるとともに応用でき、ソートや数値計算の各種アルゴリズムについても応用することができる。		C言語の基本的な文法を例題や演習問題のプログラム作成に利用でき、ソートや数値計算の各種アルゴリズムについてもプログラミングができる。		C言語の基本的な文法を例題や演習問題のプログラム作成に利用できず、ソートや数値計算の各種アルゴリズムについてもプログラミングができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目は、情報科学Iに続くJAVAの基礎的な文法を習得した学生の次の段階としての科目であり、実践的な言語として電気・電子系技術者に必要とされるC言語のプログラミングに必要な基本技法を身に付けること、及びC言語を用いたデータ構造、アルゴリズムの基礎知識の習得を目標とする。 プログラム実現のためには、知識を習得することが第一ではあるが、同時にその知識を的確に技術応用できることも重要である。アルゴリズムを選択するために必要な知識を概念的に理解できることが合格レベルとなる。						
授業の進め方・方法	授業方法は講義と演習を50:50で行い、演習問題や課題を課す。適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。						
注意点	UNIX, WINDOWSのOSの基本的操作を理解していること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	[1]授業概要と環境設定 1) 計算機センター利用ガイド 2) メールプログラムの設定 3) Visual Studio チュートリアル 4) インタープリタとコンパイラ [2]C言語の基礎知識 1) プログラム作成 2) main()関数 3) プログラムの形 4) 予約語 5) セミコロン 6) エスケープシーケンス 7) 基本データ型 8) 基本データ型への修飾		・C言語の実行環境と基礎知識が理解できる。		
		2週	[3]基本的なデータの形式 1) データの形式と変数の長さ 2) アドレスとポインタ（概要） 3) 配列（概要） 4) 文字列（概要）		・C言語の基本的なデータの形式が理解できる。		
		3週	[4]printfとscanf 1) 標準入出力関数 2) printf()関数の使い方 3) scanf()関数の使い方		・標準入出力の概念が理解できる。 ・標準入出力関数の使い方が理解できる。		

		4週	[5]演算子 1) 算術演算子 2) 代入演算子 3) インクリメント/デクリメント演算子 4) 比較演算子 5) 論理演算子 [6]制御構造 1) if文 2) switch文 3) for文 4) do文 5) while文 6) breakとcontinue	・C言語の演算子の使い方と振る舞いが理解できる。 ・C言語の制御構造が理解できる。
		5週	[7]関数と記憶クラス 1) 関数の使い方 2) 関数とは 3) 関数の実行 4) プロトタイプ宣言 (概要) 5) 関数の戻り値 6) 標準ライブラリ 7) C言語の移植性 8) 変数 (記憶クラス) 9) 変数の有効範囲 10) 変数の記憶クラス 11) 内部変数と外部変数 12) 動的記憶クラス 13) 静的記憶クラス 14) レジスタ記憶クラス 15) 外部記憶クラス	・関数の仕組みについて理解できる。 ・変数の記憶クラスについて理解できる。
		6週	[8]関数の作成 1) 関数の制御構造 2) プロトタイプ宣言 3) 引数 4) 戻り値	・main関数以外の関数について理解でき、作成できるようになる。
		7週	[9]ポインタとアドレス 1) コンピュータのメモリ管理 2) アドレス演算子 3) 記憶装置 (メモリ) のアドレス 4) ポインタ 5) ポインタの大きさ 6) ポインタと間接演算 7) 関数でのポインタの利用 8) 文字と文字列 9) 文字列データの操作 10) ポインタについての陥りやすい間違い 11) ポインタを利用した関数	・ポインタとアドレスの関係について理解できプログラミングできる。 ・ポインターを用いた間接演算について理解できプログラミングできる。 ・ポインターを用いた文字列操作について理解できプログラミングできる。
		8週	中間試験を実施する。	・中間試験問題の解き方を理解できる。
	4thQ	9週	[10]配列 1) 配列の定義 2) 数値配列 3) 配列と文字列 4) 配列とポインタ [11]構造体と共用体 1) 構造体とは 2) 共用体とは 3) 構造体の宣言と定義 4) 構造体メンバの参照 5) 構造体の使用例 6) 構造体のポインタ 7) 構造体配列	・配列とポインタの関係について理解できる。 ・構造体、共用体について理解できる。 ・構造体、共用体配列について理解できる。
		10週	[12]ファイル操作 1) ファイルの概念 2) ファイル操作の流れ 3) ファイルの状態 4) ファイル操作標準関数 5) オープンとクローズ 6) シークンシャルアクセス 7) ランダムアクセス 8) 構造体データの入出力 [13]アルゴリズム 1) アルゴリズムとは 2) ユークリッド互除法を例にあげて 3) アルゴリズムの要件 4) アルゴリズムとデータ構造 (概要) 5) 計算量の表現	・C言語におけるファイルの概念を理解できる。 ・ファイル操作関数を用いてプログラミングできる。 ・アルゴリズムの概念について理解できる。
		11週	[14](C言語による)ソートアルゴリズム 1) ソートとは 2) 安定・不安定 3) 単純ソート 4) 選択ソート 5) バブルソート 6) シェーカーソート 7) 挿入ソート 8) シェルソート 9) クイックソート	・ソートアルゴリズムが理解でき、応用できる。
		12週	[15]サーチ 1) リニアサーチ 2) バイナリサーチ 3) 文字列検索：単純法 4) 文字列検索：BM法	・サーチアルゴリズムが理解でき、応用できる。

		13週	[16]データ構造 1) リスト構造 a) 追加 b) 検索 c) 削除 2) 記憶領域確保 3) 双方向リスト、循環リスト 4) 木構造 a) 木の基本 b) 2分探索木 c) 多分木 d) 2分探索木への追加 e) 2分探索木からの検索 f) 2分探索木からの削除 5) 平衡木、AVL木、多分木、B木	・データ構造について理解できる。 ・リスト構造について応用できる。			
		14週	[17]数値計算入門 1) 基礎的な数値計算 a) 統計処理 b) 行列の計算 c) 複素数計算 2) 非線形方程式 a) 2分法 b) ニュートン・ラフソン法	・基礎的な数値計算法について理解でき、応用できる。 ・非線形方程式の解法について理解でき、応用できる。			
		15週	[17]数値計算入門 3) 連立一次方程式（概要） a) ヤコビ法 b) ガウス・ザイデル法 4) 補間法・数値積分・常微分方程式の解法・最小二乗法（概要）	・連立一次方程式の解法について理解でき、応用できる。 ・補間法・数値積分・常微分方程式の解法・最小二乗法の概要について理解できる。			
		16週	期末試験を実施する。	・期末試験問題の解き方を理解できる。			

評価割合

	中間試験	期末	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	40	0	0	0	100
基礎的能力	20	10	20	0	0	0	50
専門的能力	10	20	20	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気回路Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	4E012			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	電気回路Ⅱ 遠藤勲、鈴木靖著 コロナ社						
担当教員	平井 宏						
到達目標							
☐ RL直列回路やRC直列回路等の単エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。 ☐ RLC直列回路等の複エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。 ☐ ラプラス変換を使って過渡現象を解析できる。 ☐ 簡単な二端子対回路について、そのZ、Y、F行列を計算できる。 ☐ 二端子対回路の接続について簡単な計算ができる。 ☐ 伝送線路についての電信方程式を理解できる。 ☐ 特性インピーダンスについて理解できる。 ☐ 非正弦周期波のフーリエ級数展開ができる。 ☐ 非正弦周期波を回路に加えた時の実効値、電力について計算できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	過渡現象を十分に理解でき、計算ができる。			過渡現象をある程度理解でき、計算ができる。		過渡現象が理解できない。	
評価項目2	2端子対回路を十分に理解でき、計算ができる。			二端子対回路をある程度理解でき、計算ができる。		2端子対回路を理解できない。	
評価項目3	フーリエ級数を十分に理解でき、計算ができる。			フーリエ級数をある程度理解でき、計算ができる。		フーリエ級数を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	過渡現象、二端子対回路、分布定数回路、非正弦周期波について、その基礎を理解し、応用問題についても解くことができるようになる。 この科目は国立研究所で電子計測の実験を担当していた教員が、その経験を生かし、過渡現象、分布定数回路等について講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	教室での座学形式の授業を行う。						
注意点	微分積分はしっかりマスターしてから、この授業に臨んでください。 交流回路については理解していることを前提に授業を進めます。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	過渡現象	RL直列回路やRC直列回路等の単エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。 (1)MCC記載分			
		2週	過渡現象	RL直列回路やRC直列回路等の単エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。 (2)MCC記載分			
		3週	過渡現象	RL直列回路やRC直列回路等の単エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。 (3)MCC記載分			
		4週	過渡現象	RLC直列回路等の複エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。(1)MCC記載分			
		5週	過渡現象	RLC直列回路等の複エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。(2)MCC記載分			
		6週	過渡現象	RLC直列回路等の複エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。(3)MCC記載分			
		7週	過渡現象	ラプラス変換を使って過渡現象を解析できる。MCC外			
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	二端子対回路網	簡単な二端子対回路について、そのZ、Y、F行列を計算できる。(1)MCC外			
		10週	二端子対回路網	簡単な二端子対回路について、そのZ、Y、F行列を計算できる。(2)MCC外			
		11週	二端子対回路網	簡単な二端子対回路について、そのZ、Y、F行列を計算できる。(3)MCC外			
		12週	二端子対回路網	二端子対回路の接続について簡単な計算ができる。 (1)MCC外			
		13週	二端子対回路網	二端子対回路の接続について簡単な計算ができる。 (2)MCC外			
		14週	二端子対回路網	入力インピーダンス、出力インピーダンス MCC外			
		15週	前期定期試験				
		16週	テスト返却				
後期	3rdQ	1週	分布定数回路	伝送線路についての電信方程式を理解できる。 (1)MCC外			

		2週	分布定数回路	伝送線路についての電信方程式を理解できる。 (2)MCC外
		3週	分布定数回路	伝送線路についての電信方程式を理解できる。 (3)MCC外
		4週	分布定数回路	特性インピーダンスについて理解できる。(1)MCC外
		5週	分布定数回路	特性インピーダンスについて理解できる。(2)MCC外
		6週	分布定数回路	特性インピーダンスについて理解できる。(3)MCC外
		7週	分布定数回路	特性インピーダンスについて理解できる。(4)MCC外
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波のフーリエ級数展開ができる。 (1)MCC外
		10週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波のフーリエ級数展開ができる。 (2)MCC外
		11週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波のフーリエ級数展開ができる。 (3)MCC外
		12週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波を回路に加えた時の実効値、電力について計算できる。(1)MCC外
		13週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波を回路に加えた時の実効値、電力について計算できる。(2)MCC外
		14週	非正弦周期波とフーリエ級数	非正弦周期波を回路に加えた時の実効値、電力について計算できる。(3)MCC外
		15週	後期定期試験	
		16週	テスト返却	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気回路演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	4E013			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	塚原 規志						
到達目標							
基本的な過渡現象の問題を解くことができる。ラプラス変換やフーリエ級数に関する問題を解くことができる。伝達関数を利用した回路応答が理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	いろいろな場合についての電気回路の過渡現象を持つ回路や、回路の伝達関数やボード線図について学ぶ。						
授業の進め方・方法	演習問題プリントを配布し問題を解き、小テストにて理解度の確認を行う。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	微分方程式1		電気回路解析で頻繁に用いられる微分方程式の解き方が説明できる		
		2週	過渡現象1		コンデンサーを含む回路の過渡現象を理解する		
		3週	過渡現象2		コイルを含む回路の過渡現象を理解する		
		4週	過渡現象3		RLC直列回路の過渡現象を理解する		
		5週	ラプラス変換		ラプラス変換の計算ができるようになる		
		6週	微分方程式2		ラプラス変換を用いた微分方程式の解き方が理解できる		
		7週	過渡現象4		ラプラス変換を用いて回路解析を説明できる		
	8週	後期中間試験		7週までに学んだことの理解の確認を行う			
	4thQ	9週	RLC共振回路		共振回路の基本的性質を理解できる		
		10週	伝達関数1		回路の伝達関数を理解する		
		11週	伝達関数2		伝達関数を利用し、典型的な2端子対回路の問題を解ける		
		12週	フーリエ変換		ラプラス変換の計算ができるようになる		
		13週	振幅特性と位相特性、回路の安定性		周波数伝達関数に関して、振幅特性と位相特性、回路の安定性を理解する		
		14週	フィルタ回路		抵抗やコンデンサなどからなるフィルタに関して、ボード線図からその特性を理解する		
		15週	後期定期試験		後期中間試験から後期定期試験までに学んだことが理解できる。		
16週		答案返却					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電磁気学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		4E014		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	4		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		教科書：電磁気学（Ⅰ）：長岡洋介：岩波書店 教科書：電磁気学（Ⅱ）：長岡洋介：岩波書店 参考書：例解 電磁気学演習：長岡・丹慶：岩波書店 参考書：物質の電磁気学：中山正敏：岩波書店 参考書：電気と磁気：和田・大上：岩波書店					
担当教員		青木 利澄,五十嵐 睦夫					
到達目標							
☐ 静電場の基本法則と電位に対するポアソン方程式との関係が理解できる。 ☐ 電気容量の意味を理解し、簡単な導体系（同心球導体など）の電気容量の計算ができる。 ☐ 静電エネルギーの意味を理解し、簡単な常電導体の静電エネルギーの計算ができる。 ☐ 磁界中を流れる電流に力が働くこと、およびその基礎となるローレンツ力を正しく理解できる。 ☐ ビオ・サバルの法則を理解し、これを用いて、その簡単な応用問題を解くことができる。 ☐ アンペールの法則を理解し、ソレノイドなどの簡単な電流系がつくる磁界の計算に応用できる。 ☐ ベクトルポテンシャルの意味を、電位と同じ立場から理解できる。 ☐ 電磁誘導の法則を物理現象として理解し、簡単な応用問題を解くことができる。 ☐ 磁気エネルギーの意味を理解し、簡単な電流回路系でその計算ができる。 ☐ マクスウェル方程式を微分形および積分形で書くことができ、式の物理的意味が説明できる。 ☐ ポインティングベクトルが電磁場に対するエネルギー保存則との関連で捉えることができる。 ☐ マクスウェル方程式から、一軸方向へ伝わる電場および磁束密度に対する波動方程式を導くことができる。 ☐ 平面波の電場および磁束密度と波の伝わる方向との関係が正しく認識できる。 ☐ 波数の意味を理解し、これと振動数および波の伝わる速さとの関係を把握できる。 ☐ 平面波がエネルギーを伝えることが、ポインティングベクトルを用いて、定量的に理解できる。 ☐ 分極ベクトルと誘電体の電束密度の関係から物質の誘電率が正しく理解できる。 ☐ 物質中の静電場の法則から電束密度と電界に対する境界条件を導くことができる。 ☐ 分極ベクトルと分極電荷密度の関係が理解できる。 ☐ 誘電体を挟んだコンデンサーの電気容量の計算が簡単ないくつかの例についてできる。 ☐ 誘電体に対する鏡像法の考え方が理解できる。 ☐ 磁化ベクトルと磁化電流の関係が理解できる。 ☐ 物質中の静磁場の法則から磁束密度と磁場に対する境界条件を導くことができる。 ☐ 磁化ベクトルと磁性体中の磁場の関係から物質の透磁率が正しく理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		込み入った配置を持つ電流系についても、ビオ・サバルの法則またはアンペールの法則を用いて磁場を計算することができる。		簡単な電流系がつくる磁場を、ビオ・サバルの法則またはアンペールの法則を用いて計算することができる。		簡単な電流系がつくる磁場を、ビオ・サバルの法則またはアンペールの法則を用いて計算することができない。	
評価項目2		複雑な状況設定の下であっても、ローレンツ力に基づいて、磁場中の荷電粒子の運動が理解できる。		ローレンツ力に基づいて、磁場中の荷電粒子の運動が理解できる。		ローレンツ力に基づいて、磁場中の荷電粒子の運動が理解できない。	
評価項目3		電磁誘導の法則を理解し、高度な応用ができる。		電磁誘導の法則を理解し、簡単な応用ができる。		電磁誘導の法則を理解し、簡単な応用ができない。	
評価項目4		マクスウェルの方程式に基づいて、電磁波の性質が高度に理解できる。		マクスウェルの方程式に基づいて、電磁波の基本的な性質が理解できる。		マクスウェルの方程式に基づいて、電磁波の基本的な性質が理解できない。	
評価項目5		導体や誘電体中の電場の性質、また磁性体中の磁場の性質が数式に基づいて理解され、高度なレベルでその応用ができる。		導体や誘電体中の電場の性質、また磁性体中の磁場の性質が数式に基づいて理解され、その簡単な応用ができる。		導体や誘電体中の電場の性質、また磁性体中の磁場の性質が数式に基づいて理解されず、その簡単な応用もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電流間に力が働くという事実から、その力を媒介する磁束密度が導入される。その力の実体である、ローレンツ力の下での荷電粒子の運動は重要である。空間に分布した電流がどのような磁場をつくるか。これを計算する手法としてビオ・サバルの法則及びアンペールの法則を述べ、その適用例を示す。ベクトルポテンシャルが導入される。ベクトルポテンシャルは電位と同様にポアソン方程式に従う。ベクトルポテンシャルによる磁場の計算法が説明される。電場や磁場という形で空間にはエネルギーが蓄えられている。これはコンデンサーやコイルが蓄えているエネルギーに他ならない。電磁誘導は電磁場の基本法則の一つである。この現象を通して、自己インダクタンス、相互インダクタンスの意味が理解できる。L,C,Rから構成される簡単な回路の過渡現象、共振現象を学ぶ。 変位電流の導入により電磁気学の法則はマクスウェル方程式により記述されることを説明する。マクスウェル方程式から波動方程式を導く。次に、平面波解を提示してその物理的意味を明らかにする。電磁場のエネルギーに関する考察から、ポインティングベクトルが導入され、その意味が示される。 静電場の中に誘電体をおくと分極が生ずる。分極ベクトルと分極電荷の関係をもとに電場と電束密度に違いを述べる。これより物質の誘電率の意味が明らかになる。物質中の静電場の法則は電束密度を用いて定式化され、誘電率の異なった媒質の境界で満たすべき境界条件が導かれる。誘電体中の電場の計算、誘電体を挟んだコンデンサーの電気容量の計算、誘電体に対する鏡像法などの応用例を学ぶ。 静磁場の中に磁性体をおくと磁化電流が流れ磁化が生ずる。磁化されることにより、磁束密度と磁場に本質的な違いが生ずる。これより物質の透磁率の意味が明らかになる。物質中の静磁場の法則は磁場を用いて定式化される。物質中の静磁場の法則から透磁率が異なる物質の境界で満たされるべき条件が導出され、これを利用して磁性体があるときの静磁場の計算例が説明される。						
授業の進め方・方法	通常の講義方式						
注意点	毎回授業でやった内容を、ノートを見ながら自分でもう一度考えて、別紙の上に自分なりに再構成してみることが大切です。知識を真に身につけるためには、問題演習が欠かせません。まずは、何も見ないで5分間考えましょう。次に教科書・ノートを参考にしながら5分間考えましょう。それでも分らなければ、解答とその解説を見てそれを理解することに努めましょう。別解を考えてみるとさらに力が付きます。 【事前に行う準備学習】 3年次の電磁気学Ⅰおよび電磁気学演習Ⅰを履修し、静電場に関する基礎知識を有していることが大切です。毎回の講義には、前回の授業内容をしっかり復習し、理解を確実にしてから臨むように心掛けてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ベクトル解析の基礎 ・ベクトルの基本演算 ・スカラー積 ベクトル積 ・ベクトルの微分（勾配、発散、回転）	
		2週	静電場の復習〔レポートあり〕 ・静電場の基本法則 （ガウスの法則、渦なし法則、電位と勾配、ポアソン方程式、ラプラス方程式） ・静電場のエネルギー	
		3週	電流と静磁場(1) ・磁石と電流 ・磁場中の電流に働く力	
		4週	電流と静磁場(2) ・ローレンツ力 中の荷電粒子の運動	・磁場 電流に作用する力やローレンツ力を説明できる。
		5週	電流と静磁場(3) ・ビオ・サバールの法則 ・ビオ・サバールの法則の応用（1）	電流が作る磁界をビオ・サバールの法則およびアンペールの法則を用いて説明でき、簡単な磁界の計算に用いることができる。
		6週	電流と静磁場(4) ・ビオ・サバールの法則の応用（2）	電流が作る磁界をビオ・サバールの法則およびアンペールの法則を用いて説明でき、簡単な磁界の計算に用いることができる。
		7週	電流と静磁場(5)〔レポートあり〕 ・磁気双極子がつくる磁場	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	電流と静磁場(6) ・アンペールの法則 ・アンペールの法則の応用(1)	
		10週	電流と静磁場(7) ・アンペールの法則の応用(2)	
		11週	電流と静磁場(8) ・ベクトルポテンシャル ・ベクトルポテンシャルの応用	
		12週	電磁誘導の法則(1) ・電磁誘導現象の定式化 ・電磁誘導の一般法則 ・電磁誘導の法則とローレンツ力	電磁誘導を説明でき、誘導起電力を計算できる。
		13週	電磁誘導の法則(2) ・磁場中のコイルの運動 ・変動する磁場中のコイルに働く力	電磁誘導を説明でき、誘導起電力を計算できる。
		14週	電磁誘導の法則(3)〔レポートあり〕 ・自己インダクタンス ・相互インダクタンス	自己誘導と相互誘導を説明でき、自己インダクタンス及び相互インダクタンスに関する計算ができる。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却 ・試験問題の解答と解説	
後期	3rdQ	1週	電磁誘導の法則(4) ・静電場のエネルギー	磁気エネルギーを説明できる。
		2週	電磁誘導の法則(5) ・静磁場のエネルギーと自己インダクタンス ・L-R回路と静磁場のエネルギー	磁気エネルギーを説明できる。自己誘導と相互誘導を説明でき、自己インダクタンス及び相互インダクタンスに関する計算ができる。
		3週	電磁誘導の法則(6) ・L-C回路と力学系 ・L-C-R回路と力学系	
		4週	マクスウェル方程式と電磁波(1) ・アンペールの法則の破綻 ・電荷保存則とアンペールの法則 ・変位電流とマクスウェル方程式	
		5週	マクスウェル方程式と電磁波(2) ・電磁場のエネルギー ・ポインティングベクトル	
		6週	マクスウェル方程式と電磁波(3) ・波動方程式の導出とその解の性質	
		7週	マクスウェル方程式と電磁波(4)〔レポートあり〕 ・平面波解と電磁波の伝播	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	物質中の電場(1) ・分極現象 ・分極ベクトルと分極電荷密度 ・分極ベクトルと電束密度 ・物質の誘電率	
		10週	物質中の電場(2) ・静電場の境界条件	
		11週	物質中の電場(3) ・誘電体があるときの静電場の計算例(1)	

		12週	物質中の電場(4) ・誘電体があるときの静電場の計算例(2)	
		13週	・磁化ベクトルと磁化電流密度 ・磁化ベクトルと磁場の強さ ・物質の透磁率	磁性体と磁化、及び、磁束密度を説明できる。
		14週	物質中の磁場(2) [レポートあり] ・静磁場の境界条件 ・磁性体があるときの静磁場の計算例	磁性体と磁化、及び、磁束密度を説明できる。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却 ・試験問題の解答と解説	

評価割合				
	中間試験	期末試験	レポート	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	20	20	10	50
専門的能力	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電磁気学演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	4E015			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	ファイリングノート 物理学演習II 電磁気学 鈴木賢二、高木精志共著 学術図書出版社						
担当教員	佐々木 信雄						
到達目標							
☐ 勾配・発散・回転の意味を理解し、その計算ができる。 ☐ ローレンツ力について理解し、基本的な問題が解ける。 ☐ ビオ・サバルの法則を用いて磁場の計算ができる。 ☐ アンペールの法則を用いて磁場の計算ができる。 ☐ 電磁誘導の法則の基本的な問題を解くことができる。 ☐ 自己インダクタンス、相互インダクタンスの計算ができる。 ☐ 磁性体中の磁場に関する基本問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	ビオ＝サバルの法則・アンペールの法則を用い、応用的な問題に対し磁場の計算ができる。		ビオ＝サバルの法則・アンペールの法則を用い、基本的な問題に対し磁場の計算ができる。		ビオ＝サバルの法則・アンペールの法則を用いて磁場の計算をすることができない。		
評価項目2	ローレンツ力の応用的な問題が解ける。		ローレンツ力の基本的な問題が解ける。		ローレンツ力の基本的な問題が解けない。		
評価項目3	電磁誘導の法則に関する応用的な問題が解ける。		電磁誘導の法則に関する基本的な問題が解ける。		電磁誘導の法則に関する基本的な問題が解けない。		
評価項目4	磁性体中の磁場に関する応用的な問題が解ける。		磁性体中の磁場に関する基本的な問題が解ける。		磁性体中の磁場に関する基本的な問題が解けない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	○電磁気学全般への理解を深めるため、演習問題を解く。 ○予習および復習といった自学自習が基本となる。 ○電磁気学の問題を解くために不可欠なベクトル、微分、積分について丁寧な解説を心がける。						
授業の進め方・方法	・基本事項についての簡単な説明と例題の解説を行う。 ・次週小テストを行い、理解しているか確認する。						
注意点	○ 電磁気学は電気・電子分野の基礎というだけでなく、編入学試験に必須の科目です。厳選された基礎的な良問を繰り返し解くことが重要です。 ○ 3年次の電磁気学Ⅰおよび電磁気学演習Ⅰを履修しているか、その内容に相当する知識を有すること。 【成績評価方法】 [後期]中間試験：30%, 期末試験：30%, 小テスト：40%						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	勾配・発散・回転		○勾配・発散・回転の意味を理解し、簡単な計算ができる。 ○スカラー場、ベクトル場の微分に関する重要公式を理解する。		
		2週	ビオ＝サバルの法則（1）		○ビオ＝サバルの法則を理解し、基本的な磁場の計算ができる。		
		3週	ビオ＝サバルの法則（2）		○ビオ＝サバルの法則を用いたやや応用的な磁場の計算ができる。		
		4週	ストークスの定理		○ストークスの定理を理解する。		
		5週	アンペールの法則（1）		○微分形・積分形のアンペールの法則を理解し、基本的な磁場の計算ができる。		
		6週	アンペールの法則（2）		○アンペールの法則を用いたやや応用的な磁場の計算ができる。		
		7週	アンペールの法則（3）		○アンペールの法則を用いた応用的な磁場の計算ができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	磁気双極子モーメント		○磁気双極子モーメントに関する基本的な問題が解ける。		
		10週	磁性体		○磁性体に関する基本的な問題が解ける。		
		11週	ローレンツ力		○ローレンツ力に関する基本的な問題が解ける。		
		12週	電磁誘導の法則		○電磁誘導の法則に関連する基本問題が解ける。		
		13週	自己誘導と相互誘導		○自己誘導と相互誘導について理解し、自己インダクタンス、相互インダクタンスを求められる。		
		14週	磁気エネルギーの計算		○コイルに蓄えられる磁場のエネルギーを理解し、基礎的な問題について計算できる。		

		15週	期末試験				
		16週	これまでのまとめ			○これまでのまとめ	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子回路 I	
科目基礎情報							
科目番号		4E016		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	4		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		本質を学ぶためのアナログ電子回路入門：阿部克也：共立出版：978-4320086302					
担当教員		佐々木 信雄					
到達目標							
☐ pn接合について説明でき、pn接合ダイオードの I - V 特性およびpnpトランジスタの動作を説明できる。また、MOSFETの動作原理をMOSFETの構造を描いて説明することができる。 ☐ 三つの接地形式（ベース、エミッタ、コレクタ）の静特性を説明できる。また、h パラメータを用いた等価回路 を各接地形式に対し描くことができる。また、エミッタ接地形式の電流帰還バイアス回路について説明し、バイ アス設計を行うことができる。 ☐ 小信号解析を用いて、各接地形式における低周波増幅率や入出力インピーダンスを求めることができる。また、高周波等価回路を用いて、各接地形式における増幅率や入出力インピーダンスの周波数特性を求めることができる。 ☐ 帰還について理解し、負帰還増幅回路の問題を解くことができる。また発振回路の動作について説明できる。 ☐ 差動増幅器の性質を説明できる。また、演算増幅器の基本動作を説明でき、いくつかの応用回路について問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三つの接地形式（ベース、エミッタ、コレクタ）の静特性を説明できる。また、h パラメータを用いた等価回路を各接地形式に対し描くことができる。また、電流帰還バイアス回路について説明し、各接地形式のバイアス設計を行うことができる。		エミッタ接地の静特性を説明できる。また、エミッタ接地の等価回路を描くことができる。また、エミッタ接地形式の電流帰還バイアス回路のバイアス設計を行うことができる。		エミッタ接地の静特性を説明できない。また、エミッタ接地の等価回路を描くことができない。また、エミッタ接地形式の電流帰還バイアス回路のバイアス設計を行うことができない。	
評価項目2		小信号解析を用いて、各接地形式における増幅率や入出力インピーダンスを求めることができる。また、各接地形式における増幅率や入出力インピーダンスの周波数特性を求めることができる。		小信号解析を用いて、エミッタ接地の増幅率や入出力インピーダンスを求めることができる。また、エミッタ接地における電圧増幅率の周波数特性を求めることができる。		小信号解析を用いて、エミッタ接地の増幅率や入出力インピーダンスを求めることができない。また、エミッタ接地における電圧増幅率の周波数特性を求めることができない。	
評価項目3		差動増幅器の性質を説明できる。また、演算増幅器の基本動作を説明でき、いくつかの応用回路について問題を解くことができる。		演算増幅器のいくつかの応用回路について問題を解くことができる。		演算増幅器の応用回路について問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		エレクトロニクスは、すべての産業にとって欠かすことのできない技術だが、その中核を成すのが電子回路である。現代では回路の集積化が進み、トランジスタやダイオードを使って回路を製作する機会は減少している。しかし、集積回路の中身も結局トランジスタである。本授業の目標は、トランジスタの基本的な機能である増幅を学び、それに関連するいくつかの基本的な回路を理解し、実際に自分で設計できるようになることである。					
授業の進め方・方法		本講義ではまず半導体素子の仕組みを説明した後、主にバイポーラトランジスタを用いた基本増幅回路について、静特性および周波数特性を学ぶ。最近の主流である電界効果トランジスタを用いた基本増幅回路についても基本的な動作について学習する。また、実用的な回路として差動増幅器を学習し、その応用である演算増幅回路の動作を理解し、いくつかの応用回路について学習する。					
注意点		電気回路 I および電気回路演習 I が必須となる。回路シミュレータが使えると、授業の理解の助けとなる。LTSPICE のダウンロード http://www.linear-tech.co.jp/ 【成績評価方法】 [前期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート：20% ＊ただし上記の評価方法で合格点に達しなかった者については、夏季休業中に補講を行い、小テストによって再評価を行う。 再評価による評点は合格最低点を超えないものとする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電子回路を学ぶための準備		・キルヒホッフの法則が説明できる ・テブナンの定理が説明できる ・電源の等価変換が説明できる		
		2週	半導体デバイスの基礎		・ダイオードの特徴を説明できる		
		3週	半導体デバイスの基礎		・バイポーラトランジスタの特徴と等価回路を説明できる ・FETの特徴と等価回路を説明できる		
		4週	バイアスと信号増幅		・トランジスタ増幅器のバイアス方法を説明できる		
		5週	トランジスタ基本増幅回路(エミッタ接地)		・エミッタ接地の電圧利得、電流利得、入出力インピーダンスが計算できる		
		6週	トランジスタ基本増幅回路(コレクタ接地)		・コレクタ接地の電圧利得、電流利得、入出力インピーダンスが計算できる		
		7週	トランジスタ基本増幅回路(ベース接地)		・ベース接地の電圧利得、電流利得、入出力インピーダンスが計算できる		
		8週	基本増幅回路のまとめ		・エミッタ接地、コレクタ接地、ベース接地の特徴と違い、用途についてそれぞれ説明できる		

	2ndQ	9週	トランジスタ増幅回路の周波数特性	・利得、周波数帯域、インピーダンス整合等の増幅回路の基礎事項を説明できる			
		10週	トランジスタ増幅回路の周波数特性	・高周波における接合容量の影響を説明できる。ミラー効果が説明できる			
		11週	トランジスタ増幅回路の周波数特性 差動増幅回路とオペアンプ	・低周波におけるDCブロック、バイパスコンデンサの影響を説明できる ・差動増幅回路とカレントミラー回路について説明できる			
		12週	差動増幅回路とオペアンプ	・演算増幅器の特性を説明できる			
		13週	差動増幅回路とオペアンプ	・反転増幅器や非反転増幅器等の回路を説明できる			
		14週	帰還増幅回路と発振回路	・帰還増幅回路について説明できる。4種類の帰還について説明できる。 ・正帰還、負帰還について説明できる。 ・基本的な発振回路について説明できる。			
		15週	定期試験				
		16週	答案返却	・試験に関する説明が理解できる。			
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	30	0	0	0	0	10	40
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	エネルギーシステム	
科目基礎情報							
科目番号	4E017			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：電気エネルギー工学（新装版）：八坂保能：森北出版：978-4-627-74292-5						
担当教員	中山 和夫						
到達目標							
☐ 火力発電の原理について理解し、火力発電の主要設備を説明できる。 ☐ 原子力発電の原理について理解し、原子力発電の主要設備を説明できる。 ☐ 水力発電の原理について理解し、水力発電の主要設備を説明できる。 ☐ その他の新エネルギーを用いた発電の概要を説明できる。 ☐ 電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて理解できる。 ☐ 電力システムの構成およびその構成要素について説明できる。 ☐ 交流および直流送配電方式について、それぞれの特徴について説明できる。 ☐ エネルギーシステムの最新動向について調べ、簡潔に発表することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	様々な発電の原理について理解し その発電の主要設備を十分に説明できる。		様々な発電の原理について理解し その発電の主要設備を説明できる。		様々な発電の原理について理解し その発電の主要設備を十分に説明できない。		
評価項目2	電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて十分に説明できる。		電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて説明できる。		電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて説明できない。		
評価項目3	電力システムの構成およびその構成要素について十分に説明できる。		電力システムの構成およびその構成要素について説明できる。		電力システムの構成およびその構成要素について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	様々なエネルギー源より電気エネルギーに変換する方法とその電気エネルギーを適切に輸送・利用する方法について説明できることを目標とする。また、電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて理解することについて求める。						
授業の進め方・方法	プロジェクターを利用する。						
注意点	本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は各回に行った授業に対して十分な復習を行い、最新動向を調べること。また、課題発表に対して準備をすることです。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電気エネルギーの発生と利用		電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて説明できる。		
		2週	水力発電		水力発電の原理について理解し、水力発電の主要設備を説明できる。		
		3週	火力発電		火力発電の原理について理解し、火力発電の主要設備を説明できる。		
		4週	原子力発電		原子力発電の原理について理解し、原子力発電の主要設備を説明できる。		
		5週	発電用電気機器		同期機の原理と構造を説明できる。 変圧器の原理、構造、特性を説明でき、その等価回路を説明できる。		
		6週	再生可能エネルギーによる発電1		再生可能エネルギーを用いた発電の概要を説明できる。		
		7週	再生可能エネルギーによる発電2		再生可能エネルギーを用いた発電の概要を説明できる。		
		8週	中間テスト				
	4thQ	9週	次世代発電方式		その他の新エネルギー等を用いた発電の概要を説明できる。		
		10週	エネルギー貯蔵		エネルギー貯蔵の必要性和その方式を理解する。		
		11週	電力輸送と変電		電力システムの構成およびその構成要素について説明できる。		
		12週	送電・配電		交流および直流送配電方式について、それぞれの特徴を説明できる。		
		13週	エネルギーの効率的供給と利用		エネルギーの効率的供給について理解する。		
		14週	課題発表 1				
		15週	期末試験				
		16週	課題発表 2				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	70	10	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子物性工学	
科目基礎情報							
科目番号	4E018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布教材						
担当教員	佐藤 真一郎,五十嵐 睦夫						
到達目標							
☐ 半導体とは何かをエネルギーバンドの観点から説明できる。 ☐ キャリアの輸送現象やpn接合を定性的に説明できる。 ☐ バイポーラトランジスタの仕組みと動作について、半導体物性工学の観点から説明できる。 ☐ MOSFET の仕組みと動作について、半導体物性工学の観点から説明できる。 ☐ 原子の成り立ちを電子の軌道の観点から説明できる。 ☐ 物質・分子の形成にかかわる結合力の種類と起源を説明できる。 ☐ 化学反応速度を分子の衝突の観点から説明できる。 ☐ 反応速度論の立場から化学反応の平衡状態を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	エネルギーバンド描像にもとづき、金属・半導体・絶縁体の違いを詳しく説明できる。		エネルギーバンド描像にもとづき、金属・半導体・絶縁体の違いを説明できる。		エネルギーバンド描像にもとづき、金属・半導体・絶縁体の違いを説明できない。		
評価項目2	キャリアの輸送現象およびpn接合とは何かを定性的に詳しく説明できる。		キャリアの輸送現象およびpn接合とは何かを定性的に説明できる。		キャリアの輸送現象およびpn接合とは何かを定性的に説明できない。		
評価項目3	バイポーラトランジスタおよびMOSFET の仕組みと動作について、半導体物性工学の観点から詳しく説明できる。		バイポーラトランジスタおよびMOSFET の仕組みと動作について、半導体物性工学の観点から説明できる。		バイポーラトランジスタおよびMOSFET の仕組みと動作について、半導体物性工学の観点から説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	半導体デバイスは世の中で様々な用途に使用されており、私たちの生活に不可欠な存在となっています。しかし、半導体デバイスが半導体という物質材料から構成され、その半導体がどのような物性を有するかは人々にあまり知られていません。半導体デバイスをブラックボックスでなく理解して使えるようになってもらうため、半導体の物性や、それに立脚した半導体デバイスの動作原理解説をできればと考えます。						
授業の進め方・方法	○電子メディア工学の立場に立ち、半導体物性工学を学ぶ。 ○まず、物質がどのような条件を満たしたとき半導体と呼ばれることになるかを整理し、絶縁体および金属との関係を把握する。次に、半導体デバイス動作に際した根幹現象であるキャリア輸送について学び、pn接合の働きをエネルギーバンドの観点から理解する。中間試験後は、それまでに得た半導体の動作への理解を元にして、バイポーラトランジスタおよびMOSFETの仕組みと動作を学ぶ。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	半導体とは（1）		半導体材料の例 結晶構造		
		2週	半導体とは（2）		エネルギーバンド 状態密度		
		3週	半導体とは（3）		真性半導体 真性キャリア濃度		
		4週	半導体とは（4）		外因性半導体 ドナーとアクセプタ レポート		
		5週	キャリアの輸送（1）		キャリアドリフト キャリア拡散 比抵抗		
		6週	キャリアの輸送（2）		キャリア濃度 キャリア生成・再結合 レポート		
		7週	キャリアの輸送（3）		連続の式 熱電子放出		
		8週	中間試験		「半導体」および「キャリアの輸送」に関する試験		
	2ndQ	9週	pn 接合（1）		熱平衡状態 空乏領域		
		10週	pn 接合（2）		電流－電圧特性		
		11週	バイポーラトランジスタ（1）		トランジスタ作用 電流利得		
		12週	バイポーラトランジスタ（2）		理想トランジスタ電流の静特性 動作モード		
		13週	MOSFET（1）		MOS とは FET とは MOS キャパシタ		

	14週	MOSFET (2)	オーミック接触	
	15週	期末試験	「pn 接合」および「バイポーラトランジスタ」および「MOSFET」に関する試験	
	16週	答案返却 MOSFET (3)	期末試験問題の解説 MOSFET の基本特性	
評価割合				
	中間試験	期末試験	レポート	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学実験
科目基礎情報						
科目番号	4E019			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4	
開設期	通年			週時間数	4	
教科書/教材	・「新編電気工学講座 30 電気・電子工学実験(1)－基礎編－」, 山田十一・永井真茂・小林祥男・多田泰芳 著, コロナ社・「新編電気工学講座 31 電気・電子工学実験(2)－電気機器・高電圧編－」, 池本徹三・今西周蔵・岡田新之助・河原功・木村伊一 著, コロナ社・プリント・WEB教材					
担当教員	電子メディア工学科 科教員,中山 和夫					
到達目標						
電磁基礎、強電（制御やエネルギー関係等；発電機、電動機、ロボット、各種のエネルギー変換機、制御機器など）および電子通信情報関係の各種実験を行うことで、以下の授業目標を達成する。 ☐ 工学の基礎的実験手法を実演できる。 ☐ 正しい報告書が作成できる。 ☐ 各実験項目に関する知識や工学実験の手法および報告書を作成することができる。 ☐ 工学に関する機器の使用法や解析、設計法を習得できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実験内容に関する理解		手順書と教員の指導に従って、実験を自主的に、的確に進めることができる。	適宜、教員の指導を仰ぐことで指示書に書いてある内容を進めることができる。		指示書の実験内容を進めることができない。	
レポートに関する項目		実施した実験に関する報告書を自分の言葉で的確にまとめることができる。	実施した実験に関して、最低限の記載方法を守ってまとめることができる。		実施した実験に関するレポートをまとめられない、もしくは提出できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	電気・電子・通信・情報工学実験実習は電気・電子等の工学の知識を確実なものにし、その理論の確証に役立ち、その技術を身につけたものにするという意味において、電気・電子工学を学ぶ者にとってその習得はたいへん重要なものである。そのうえ、各種実験を行うことで、正しい実験態度が養成され、実験の一般的知識を学び、工学の基礎的実験手法を幅広く身につけ、報告書作成能力を習得できる。直接的には次のようなことを学ぶ。 ・電気および機械的諸量の測定法 ・測定器具類や各種の機器および施設設備の取り扱い方や試験法 ・電気配線の実施要領 ・各種機器の構造と特性の理解 ・その他、実験実習に必要な事がら。 2～4名を単位とした班編成を行い、2週1テーマを原則として、実験課題ごとに担当教員が定められているので、実験を始める前に課題について担当教員から説明を受け、内容をよく理解した後、実験指導書（実験の教科書やプリント）にしたがって実験を実施する。実験後、担当教員の指示にしたがって、報告書を提出する。提出期限は厳守することとする。実験は電磁基礎実験、強電実験、および電子・通信・情報（工学）実験からなる。実験の前に課題や実験の諸注意などの説明を行う。また、実験の総まとめ、文献調査、報告書作成（構成や文章表現等）指導や整理なども実施し、実験実習の教育効果を向上させる。					
授業の進め方・方法	実習形式 第1順目テーマ：電圧安定化(布施川), 伝送線路(五十嵐), エネルギー制御(五十嵐), 基本増幅回路(佐々木) 第2順目テーマ：フィルタの実験I,II(平井), テスラコイル(市村), デジタル回路(布施川), SPICEシミュレーション(佐々木) 第3順目テーマ：4端子回路(平井), 暗号・データ圧縮(大嶋), オペアンプ・発振回路(佐々木), マイコンによる自動制御実験(松本)					
注意点	特になし					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1順目テーマ1（1週目）			
		2週	1順目テーマ1（2週目）			
		3週	1順目テーマ2（1週目）			
		4週	1順目テーマ2（2週目）			
		5週	1順目テーマ3（1週目）			
		6週	1順目テーマ3（2週目）			
		7週	1順目テーマ4（1週目）			
		8週	1順目テーマ4（2週目）			
	2ndQ	9週	2順目テーマ1（1週目）			
		10週	2順目テーマ1（2週目）			
		11週	2順目テーマ2（1週目）			
		12週	2順目テーマ2（2週目）			
		13週	2順目テーマ3（1週目）			
		14週	2順目テーマ3（2週目）			
		15週	2順目テーマ4（1週目）			
		16週				
後期	3rdQ	1週	2順目テーマ4（2週目）			
		2週	2順目実施実験予備日			

		3週	3順目テーマ1 (1週目)	
		4週	3順目テーマ1 (2週目)	
		5週	3順目テーマ2 (1週目)	
		6週	3順目テーマ2 (2週目)	
		7週	3順目テーマ3 (1週目)	
		8週	3順目テーマ3 (2週目)	
	4thQ	9週	3順目テーマ4 (1週目)	
		10週	3順目テーマ4 (2週目)	
		11週	3順目実施実験予備日	
		12週	レポートまとめ	
		13週	来年度実験用準備 1	
		14週	来年度実験用準備 2	
		15週	来年度実験用準備 3	
		16週		

評価割合			
	レポート (12回)	取組点 (確認テスト含む)	合計
総合評価割合	70	30	100
配点	70	30	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	機械工学総論	
科目基礎情報							
科目番号		4E020		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		4	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		なし (適宜配付資料を提示)					
担当教員		五十嵐 睦夫,山内 啓					
到達目標							
□ 電子メディア工学の成果が製品化されるにあたり、構造材や操作部材といった部分には機械工学的視点にもとづいた金属工学に関する知見が生かされていることが理解できる。 □ 電子情報工学はソフトウェアのように形のないものを対象とする比率が高いが、その成果が社会で運用されるにあたって形のある実体としての構造材や操作部材といった機械工学的対象が関わり、機械工学的視点からみた金属工学の知見が不可避免的に活用されていることを理解できる。 □ 物質工学の成果はやがて形を持った製品の部材として使われることになるが、その際には多かれ少なかれ機械工学的視点による金属工学の知見が生かされていることを理解できる。 □ 環境都市工学の成果、特に土木工学や構造力学に基づいた成果が製品化されるにあたり、構造材の製造には金属材料工学にもとづいた知見が使用されていることを理解できる。 □ 金属工学の基本的概念の存在を知ることができる。 □ 広い意味での金属工学に関係した内容に関し、専門科目の隙間にあって未修得な事項を補足的に把握できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		機械工学の対象である金属工学の基本的内容のうち、特に合金の図と転位について概要をよく理解できる。		機械工学の対象である金属工学の基本的内容のうち、特に合金の図と転位について概要を理解できる。		機械工学の対象である金属工学の基本的内容のうち、特に合金の図と転位について概要を理解できない。	
評価項目2		機械工学の対象である金属工学の基礎として、結晶における熱や波動に関する基礎的事項をよく理解できる。		機械工学の対象である金属工学の基礎として、結晶における熱や波動に関する基礎的事項を理解できる。		機械工学の対象である金属工学の基礎として、結晶における熱や波動に関する基礎的事項を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		・ 機械工学的視点も考慮しつつ広範囲にわたる金属工学から、重要事項を選択して教授する。 ・ 金属材料の性質を把握する際に基礎となる相図と合金の関係および欠陥や転位と材料強度の関係に関する学習をおこなう。 ・ 金属工学の物理的背景を把握することを目的とし、結晶に付随した熱および波動に関する学習をおこなう。 ・ 広い意味での機械工学に関連した内容として、放射線が物質に与える影響を学習する。 ・ 広い意味での機械工学に関連した内容として、放射線による材料開発などについて学習する。					
授業の進め方・方法		教科書指定は特にありません。授業時に参考資料を提示します。					
注意点		板書を用いた授業のほか、パワーポイントを用いる授業もあります。 また、授業内容と関連の深い実験を併用します。 実験室その他の理由により日程は変更になることがあります。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	金属工学の基本知識：結晶構造		基本的な結晶構造を理解する		
		2週	状態図 1		状態図の基礎的知識を理解する		
		3週	状態図 2		状態図を読むことができる		
		4週	欠陥と転位1		欠陥を理解する		
		5週	欠陥と転位2		転位による材料の変形を理解する		
		6週	金属の熱処理を体験 (実験)				
		7週	鉄鋼材料と非鉄金属材料 (アルミ、銅)		鉄鋼材料や非鉄金属材料の実例を知る		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	テスト返却 と 逆格子とブリルアンゾーン1		代表的な逆格子の例を知ることができる		
		10週	逆格子とブリルアンゾーン2		逆格子に関する数学的演算をおこなうことができる		
		11週	逆格子とブリルアンゾーン3		逆格子の概念の必要性を理解できる		
		12週	格子振動1		格子振動とはなにかを理解できる		
		13週	格子振動2		格子振動の分散関係とブリルアンゾーンの関係を説明することができる		
		14週	格子振動に関する実験		格子振動と物質の性質との関連性を理解できる		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却				
評価割合							
		試験		レポート		合計	
総合評価割合		40		60		100	
理解度		40		60		100	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物質科学概論	
科目基礎情報							
科目番号		4E021		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		4	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		辻 和秀					
到達目標							
原子について初歩的な量子論を用いて原子軌道や電子配置、周期律が理解できる 分子の形や性質を混成軌道を用いて理解できる エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギーを用いて化学反応とエネルギーの関係や反応の方向について理解できる 有機化合物の特徴や炭化水素の性質や構造について理解できる 有機化合物の代表的な反応について理解できる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		原子について初歩的な量子論を用いて原子軌道や電子配置、周期律が十分理解できる		原子について初歩的な量子論を用いて原子軌道や電子配置、周期律が理解できる		原子について初歩的な量子論を用いて原子軌道や電子配置、周期律が理解できない	
評価項目2		分子の形や性質を混成軌道を用いて十分理解できる		分子の形や性質を混成軌道を用いて理解できる		分子の形や性質を混成軌道を用いて理解できない	
評価項目3		エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギーを用いて化学反応とエネルギーの関係や反応の方向について十分理解できる		エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギーを用いて化学反応とエネルギーの関係や反応の方向について理解できる		エンタルピー、エントロピー、ギブスエネルギーを用いて化学反応とエネルギーの関係や反応の方向について理解できない	
評価項目4		有機化合物の特徴や炭化水素の性質や構造について十分理解できる		有機化合物の特徴や炭化水素の性質や構造について理解できる		有機化合物の特徴や炭化水素の性質や構造について理解できない	
評価項目5		有機化合物の代表的な反応について十分理解できる		有機化合物の代表的な反応について理解できる		有機化合物の代表的な反応について理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		物質を対象とした科学である「化学」の基礎的な知識の習得を目指している。 授業で扱う内容やレベルは、多くの大学の理工系学部初学年で開講されている基礎科目「化学」および高校化学の内容の一部である。前半は原子や分子の性質や結合が量子論によって理解できることを学ぶとともに、化学反応と熱力学の関係についても学ぶ。後半は有機化合物の性質や構造、代表的な反応について学ぶ					
授業の進め方・方法		講義形式の授業である					
注意点		本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は、授業を受講するにあたり必要な学修内容の復習および本授業内容に関する復習、および課題です。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	量子論①		シュレディンガー方程式・波動関数・水素原子の電子軌道		
		2週	量子論②		多電子原子の電子配置と周期性		
		3週	量子論③		混成軌道と分子の形・二重結合とは		
		4週	量子論④		電気陰性度による結合の理解・分子軌道法による結合の理解		
		5週	化学反応とエネルギー①		位置エネルギー・エンタルピー		
		6週	化学反応とエネルギー②		統計力学入門・エントロピー・ギブスエネルギー		
		7週	化学反応とエネルギー③		化学平衡とギブスエネルギー		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	核化学①		核反応の特徴、放射性同位体壊変の速度論		
		10週	核化学②		核反応とエネルギー		
		11週	有機化学①		化学の歴史と有機合成		
		12週	有機化学②		炭化水素		
		13週	有機化学③		官能基・異性体		
		14週	有機化学④		電気陰性度と有機化学反応		
		15週	期末試験				
		16週	答案返却				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	生命科学総論
科目基礎情報						
科目番号	4E022			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書なし, 参考書: 生命科学の基礎 (野島博著, 東京化学同人) ほか					
担当教員	石川 英司					
到達目標						
1) 生体を構成する成分について理解できる。 2) 細胞とエネルギー代謝の仕組みの概要を理解できる。 3) 遺伝子とその働きについて理解するとともに, バイオテクノロジーと社会とのかかわりについても理解できる。 4) 生命の環境に対する応答と調節の仕組みの概要を理解できる。 5) 地球の成り立ちと各圏の構成・活動, 生物圏との関わりについて理解するとともに, 環境問題について考えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生体を構成する成分とその構成単位, 結合などについて理解している。		生体を構成する成分とその構成単位について理解している。		生体を構成する成分とその構成単位について理解していない。	
評価項目2	酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成についてATPの産生と関連づけて理解している。		酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成について基本的なメカニズムを理解している。		酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成について基本的なメカニズムが理解できていない。	
評価項目3	遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成について理解するとともに, それを応用したバイオテクノロジーについても実例で理解している。		遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成について理解するとともに, それを応用したバイオテクノロジーについても基本的な部分を理解している。		遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成, 及びその応用技術について, 説明できない。	
評価項目4	恒常性に関係した細胞内情報伝達, ホルモンや神経による制御, 免疫について理解している。		恒常性に関係した細胞内情報伝達とホルモンなどとの関係について理解している。		恒常性に関係した細胞内情報伝達とホルモンなどとの関係について説明できない。	
評価項目5	地球の成り立ちと生命との関わりについて理解するとともに, 環境問題を把握し, 対策についても考えることができる。		地球の成り立ちと生命との関わりについて理解するとともに, 環境問題について理解している。		地球の成り立ちと生命との関わりについて理解するとともに, 環境問題について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解する。生命のしくみや成り立ちを分子のレベルをはじめ, 細胞, 個体その他のレベルで学習する。バイオテクノロジーの基礎と応用, 社会的影響について学習する。本科目の担当教員は, 製薬業の研究部門で微生物創薬及び発酵生産に23年間に渡って関与した経験を有する。その経験をもとに, 近現代の生命科学の成果を広く全工学分野の基礎として定着させるとともに, 健康・バイオ・環境といった最近のトピックスも提供する。					
授業の進め方・方法	視聴覚室またはそれに準じた大教室で, 他学科と合同で授業を行う。原則として毎回配布するプリントと板書を軸に, 必要に応じプロジェクト等を活用して進める。					
注意点	生命の歴史とその巧妙な仕組みを理解するとともに, それを応用した技術について日常の暮らしや社会との関連の中で理解して, 何かを感じてほしい。授業に出席して, レポート等は忘れずに提出すること。授業に関連した質問なら, 話の途中でも歓迎する。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	生命科学序説 地球の成り立ちから生命の誕生まで	最近の生命科学に関する話題から, 食・健康・環境とバイオ, バイオと他の科学技術について関心を持つ。太陽系の中の地球の成り立ち、生命の誕生と進化について, その概略を理解できる。		
		2週	地圏・水圏・大気圏の構成・活動と生物圏	地圏・水圏・大気圏の構成・活動と生物圏の関わりについて理解できる。		
		3週	生体を構成する分子(1)	水とその特性, 生体を構成する主な元素について理解できる。タンパク質の構造とその構成成分のアミノ酸について理解できる。		
		4週	生体を構成する分子(2)	糖質, 脂質についてその構成成分や結合, 性質について理解できる。		
		5週	生体を構成する分子(3)	遺伝子の本体としてのDNAとその構造について理解できる。		
		6週	エネルギーを獲得するしくみ (1)	酵素とその働き, 代謝 (異化と同化) と生体のエネルギー通貨ATPについて理解できる。解糖系やミトコンドリアで進行する諸経路について, 概略を理解できる。		
		7週	エネルギーを獲得するしくみ (2)	好気的な呼吸について全体を理解し, 生物がエネルギーを得る仕組みを理解できる。光合成についても理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	遺伝子とその働き (1)	遺伝子の複製の仕組みについて概略が理解できるとともに, DNAの情報をもとにしたタンパク質合成のしくみ (セントラルドグマ) について理解できる。		

		10週	遺伝子とその働き (2)	ゲノムについて理解するとともに、遺伝子の発現と調節、分子レベルで見た変異や進化について理解できる。
		11週	暮らしの中のバイオ(1)	遺伝子組換えとはどのような技術か、その基礎と医薬品等への応用について理解できる。
		12週	暮らしの中のバイオ(2)	遺伝子組換え作物、遺伝子組換え動物と再生医療について理解できる。ゲノム編集の概略を理解できる。
		13週	生物の恒常性と細胞内シグナル伝達	生物の恒常性と細胞内シグナル伝達について、ホルモンや神経とのかかわりから理解できる。
		14週	生体防御のしくみ（免疫）	自然免疫、獲得免疫の仕組みについて理解できる。免疫と病気、免疫と医療（感染症とワクチンなど）について理解できる。
		15週	定期試験	
		16週	生物の多様性から持続可能性な社会へ	生物の多様性とその保全、持続可能な社会の実現に向けた活用の可能性について理解できる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	10	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	5	0	0	50
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	5	0	5	0	0	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	複合創造実験
科目基礎情報						
科目番号	4E024			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材						
担当教員	平社 信人,佐々木 信雄,市村 智康					
到達目標						
☐情報活用の社会的ニーズについて理解し、独自のシーズを提案できる。 ☐目的達成のためのプロジェクト管理法について説明できる。 ☐適切なマイルストーンを設定し、決められた期間内で達成可能な計画を作成できる。 ☐基本的なIoT機器について理解し、操作することができる。 ☐情報技術を利用することで、異分野のエンジニアと協力しあい共通の目的を達成できる。 ☐相手の意見について理解したうえで、自分の意見を相手に伝えることができる。 ☐自分の伝えたいことを、専門分野の異なる相手にも分かりやすく、文章、図、口頭などの様々な方法で説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	適切なマイルストーンを設定し、決められた期間内で達成可能な計画を作成できる。		マイルストーンを設定し、計画を作成できる。		無理なマイルストーンを設定し、達成不可能な計画を作成する。	
評価項目2	実施計画書および進捗状況による修正にもとづき、異分野の学生との議論や協力を通して、IoTに関する共通の目的を達成できる。		実施計画書にもとづき、異分野の学生と協力し、共通の目的を達成できる。		実施計画書を無視し、異分野の学生と協力できず、目的を達成できない。	
評価項目3	プレゼンテーションにより、自分の考えを正確に伝えることができる。他の考えに対して自分の意見を明確に述べることができる。		プレゼンテーションにより、自分の考えを伝えることができる。他の考えに対して自分の意見を述べることができる。		プレゼンテーションにより、自分の考えを伝えることができず、他の考えに対して自分の意見を述べることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本授業は、IoT等の情報技術を活用でき、また異なる専門分野とも協働できるエンジニアに必要な基礎知識の修得を目的とする。また、基本的な実施形態は、グループ単位で課題や問題を解決するプロジェクト学習である。ただし、そのグループは、所属学科に偏りのない編成とする。また、この科目は企業で宇宙機器の開発業務に従事した教員が1名含まれ、その経験を活かし授業を行うものである。					
授業の進め方・方法	まず情報活用の社会的ニーズおよび企業でのプロジェクトの進め方等について教員から講義を行う。その知識をもとに各グループは、情報活用の実際について独自に調査を行い、新たな情報活用のシーズを提案する。それら提案内容について全受講生で議論した後、各グループは、教員の指導を経て、その提案に沿ったプロジェクトを立ち上げる。さらに、プロジェクトの実施計画を立案し、各グループ内での明確な役割分担を決める。この際、プロジェクトの実施計画書を提出する。つぎに、これらプロジェクトを実現させるために、バーチャル工房の装置を使用し各プロジェクトで提案するシーズを具体化する物を製作する。プロジェクト活動期間内に中間報告と成果報告のプレゼンテーションを行う。これら報告では、各プロジェクトについて、全受講生で議論することに加え、プロジェクトの進め方および成果物について、教員が評価を行う。なお、成果報告において、各グループは成果報告書を提出する。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	前半：ガイダンス 後半：情報活用と社会的ニーズについての講義	工学という枠にとらわれず、情報技術の活用の実際と、その社会的な要求について理解できる。		
		2週	前半：プロジェクトの進め方（プロジェクト管理）についての講義 後半：実施計画書のドラフトの作成	組織におけるプロジェクト管理について、基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。マイルストーンを定め、実施計画書を作成できる。		
		3週	プロジェクトの提案	プレゼンテーションにより、自分の考えを伝えることができる。他の考えに対して自分の意見を述べることができる。		
		4週	プロジェクト活動（1）	実施計画書において、役割分担や工程などの詳細を決め、プロジェクト活動の準備ができる。		
		5週	IoT機器の理解 1：3DプリンタとCNC工作機 IoT機器の理解 2：シングルボードコンピュータと基板加工機	代表的なIoT機器について理解し、基本的な使い方ができる。		
		6週	プロジェクト活動（2）	実施計画書にもとづき、異分野の学生と協力し、IoTに関する共通の目的を達成できる。		
		7週	プロジェクト活動（3）	実施計画書にもとづき、異分野の学生と協力し、IoTに関する共通の目的を達成できる。		
		8週	準備日			
	2ndQ	9週	プロジェクト活動（4）	実施計画書にもとづき、異分野の学生と協力し、IoTに関する共通の目的を達成できる。		
		10週	中間報告	プレゼンテーションにより、自分の考えを伝えることができる。他の考えに対して自分の意見を述べることができる。		
		11週	プロジェクト活動（5）	実施計画書にもとづき、異分野の学生と協力し、IoTに関する共通の目的を達成できる。		

		12週	プロジェクト活動（６）	実施計画書にもとづき，異分野の学生と協力し，IoTに関する共通の目的を達成できる．
		13週	プロジェクト活動（７）	実施計画書にもとづき，異分野の学生と協力し，IoTに関する共通の目的を達成できる．
		14週	プロジェクト活動（８）	実施計画書にもとづき，異分野の学生と協力し，IoTに関する共通の目的を達成できる．
		15週	成果報告	プレゼンテーションにより，自分の考えを伝えることができる．他の考えに対して自分の意見を述べることができる．
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	60	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	確率統計	
科目基礎情報							
科目番号	4E025			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	新確率統計 新井一道他著 大日本図書 新確率統計問題集 新井一道他著 大日本図書						
担当教員	平井 宏						
到達目標							
☐ 積の法則と和の法則の違いを理解している。 ☐ 順列・組み合わせの基本的な計算ができる。 ☐ いろいろな確率を求めることができる。余事象の確率、確率の加法定理、背反事象の確率を理解している。 ☐ 条件付き確率を求めることができる。確率の乗法定理、独立事象の確率を理解している。 ☐ 1次元および2次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差・相関係数・回帰曲線を求めることができる。 ☐ 確率変数の期待値や分散の計算ができ、確率変数の独立性を理解している。 ☐ 確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を理解している。 ☐ 標本の基本的な統計処理ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的な確率の計算や条件付き確率の計算が的確にできる。		基本的な確率の計算や条件付き確率の計算ができる。		基本的な確率の計算や条件付き確率の計算ができない。		
評価項目2	確率変数の期待値や分散の計算が的確にでき、確率変数の独立性を的確に理解している。		確率変数の期待値や分散の計算ができ、確率変数の独立性を理解している。		確率変数の期待値や分散の計算ができず、確率変数の独立性を理解していない。		
評価項目3	確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を的確に理解している。		確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を理解している。		確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	確率の考え方の基礎および統計の考え方の基礎を学ぶ。						
授業の進め方・方法	教科書で扱われている中の基本的事項について教授する。						
注意点	問題集のうち授業で扱うレベルの問題は確実にとけるよう十分復習することが必要です。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1～4年の復習		積の法則と和の法則の違いを理解している。MCC記載分		
		2週	1～4年の復習		順列・組み合わせの基本的な計算ができる。(1)MCC記載分		
		3週	1～4年の復習		順列・組み合わせの基本的な計算ができる。(2)MCC記載分		
		4週	確率統計		いろいろな確率を求めることができる。余事象の確率、確率の加法定理、背反事象の確率を理解している。(1)MCC記載分		
		5週	確率統計		いろいろな確率を求めることができる。余事象の確率、確率の加法定理、背反事象の確率を理解している。(2)MCC記載分		
		6週	確率統計		条件付き確率を求めることができる。確率の乗法定理、独立事象の確率を理解している。(1)MCC記載分		
		7週	確率統計		条件付き確率を求めることができる。確率の乗法定理、独立事象の確率を理解している。(2)MCC記載分		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	確率統計		1次元および2次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差・相関係数・回帰曲線を求めることができる。(1)MCC記載分		
		10週	確率統計		1次元および2次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差・相関係数・回帰曲線を求めることができる。(2)MCC記載分		
		11週	確率変数		確率変数の期待値や分散の計算ができ、確率変数の独立性を理解している。MCC外		
		12週	確率密度関数		確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を理解している。(1)MCC外		
		13週	確率密度関数		確率密度関数、正規分布、標本平均の性質を理解している。(2)MCC外		
		14週	標本調査		標本の基本的な統計処理ができる。MCC外		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却				
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	社会政策	
科目基礎情報							
科目番号		5E001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		半田 諒志,宮川 剛					
到達目標							
①社会政策が成立した背景を説明することができる。 ②社会政策の全体像と各制度を説明することができる。 ③社会政策の現代的論点を説明することができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		社会政策が成立した背景を詳細に説明できる。		社会政策が成立した背景をおおまかに説明できる。		社会政策が成立した背景を説明できない。	
評価項目2		社会政策の全体像と各制度を詳細に説明できる。		社会政策の全体像と各制度をおおまかに説明できる。		社会政策の全体像と各制度を説明できない。	
評価項目3		社会政策の現代的論点を詳細に説明できる。		社会政策の現代的論点をおおまかに説明できる。		社会政策の現代的論点を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		自分たちがかわらざるを得ない社会政策について学ぶことで、制度の知識をつけるだけでなく、その背景となる歴史的・政治経済的・理念的な前提や今後の論点について理解することを目的とする。それにより、受講者自身に関わるテーマについて理解すると同時に、属性の異なる他者が直面する状況への理解を深め、想像力を豊かにし、今後の学びの前提となる理解を得ることを目指す。					
授業の進め方・方法		進行形式は、配布するレジュメと板書を用いた講義による。講義では、社会政策に関する多様なテーマ（労働・健康・障害・貧困と不平等・人口と家族・ジェンダー）につき概論的な検討を行う。内容理解のために、適宜グループワークやディスカッションを実施する。					
注意点		・制度や政策を自明視せずに、なぜこんなものが成り立っているのだろうかと考えるようにしてください。 ・自身がこれまで学んできた専門知識と切り離さずに、講義を聞いてくれると嬉しいです。 ・質問や発言は大歓迎です。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	イントロダクション	講義全体の概要（進め方）を説明する。社会政策の概要（取り扱う領域や方法、歴史）を理解する。			
		2週	福祉国家の誕生	福祉国家の基本的な問題である「貧困と格差」についての政策について理解する。			
		3週	社会政策の機能と財政	社会政策が果たす複数の機能と社会政策の財政面を理解する。			
		4週	社会政策の基本手法	現在の社会保障制度を概観する。			
		5週	保険の仕組みと社会保険（１）	社会政策は保険の仕組みを採用することによって発展してきた。保険の仕組みとは何か、基礎的なところを理解する。			
		6週	保険の仕組みと社会保険（２）	社会保険の特徴と種類を学ぶ。あわせて社会保険の実態と課題をデータから理解する。			
		7週	福祉国家の歴史と現在	福祉国家の歴史を学び、福祉国家を成立させてきた基礎が揺らぎつつあることを理解する。			
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	生活保護と支援	生活保護制度の成立と機能、問題点について理解する。			
		10週	年金（１）	公的年金制度の概要と機能を学ぶ。			
		11週	年金（２）	公的年金制度の持続可能な運営における論点を取り上げ、年金の課題と改革の現状を理解する。			
		12週	医療保険	医療保険、医療サービスの提供体制を学ぶ。			
		13週	雇用政策（１）	社会政策が福祉政策と雇用政策の双方から成立することを確認しつつ、雇用政策の中の雇用保険の概要と論点を学ぶ。			
		14週	雇用政策（２）	雇用政策の実施体制、運用体制を学びつつ、雇用保険と労働者災害補償保険について理解する。			
		15週	定期試験				
		16週	福祉国家の課題と今後の論点：ワークフェア・就労支援	生活困窮の状態にある者や生きづらさを抱えた若者等の社会的包摂政策について、その必要性や問題点を理解する。			
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	授業への積極性 ・課題（ワーク シート、リアク ションペーパー ）	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	法学	
科目基礎情報							
科目番号	5E002			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用しませんが、毎回、教材としてレジュメを配布します。なお、ポケット六法令和6年度版（有斐閣）を必ず購入してください。参考書については開講時に紹介します。						
担当教員	多田 庶弘,宮川 剛						
到達目標							
☐ 法律に関する専門的知識・解釈の習得・理解ではなく、市民生活において必要とされる法律の基礎知識・制度についてイメージをつかむことができる。 ☐ 法的思考力（リーガル・マインド）を学ぶことで、問題解決のセンスを身につけることができる。 ☐ 法律についての基礎的な用語の意味を理解できる。 ☐ 日常生活における諸事象と法律の関わりを理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	法律の基礎知識、制度趣旨について理解できる。			法律の基礎知識について理解できる。		法律の基礎知識についての理解が不十分である。	
評価項目2	事例の問題点を指摘でき、解決するための法令（方法）を理解できる。			事例の問題点を理解できる。		事例の問題について理解が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	法律制度全般について概観します。難解とされる法律用語および法制度・体系の説明、「六法」とは何をさすのか、なぜ規定は抽象的表現となっているのか、法律の規制には限界があるのかといった入門・総論からはじめていき、憲法・民法・刑法・企業法・消費者保護法等について、具体的事例（新聞記事）をとりあげて解説していきます。						
授業の進め方・方法	講義形式で行います。						
注意点	法律は「ムズかしい、とっつきにくい」といわれます。しかし、「社会あるところに法あり」という法(ほう)謔(げん)が示すように、法律が社会規範（社会のルール）として紛争の予防・解決手段である以上、正確な表現と厳密な解釈が必要なのは当然といえるでしょう。たとえば、コカ・コーラのボタンを押してペプシ・コーラやドクター・ペッパーが出てきたらどうでしょう。それならまだしも、ビールや日本酒が出てきたら...つまり、同じような事例（ボタン）については、同じような結論（飲みもの）が導き出されなければなりません。それには、自動販売機が精密でなければならず、法律制度がこれにあたります。 ところで、みなさんにとって、法律はまったくハタケの違う分野と思っているのではないのでしょうか？しかし、法律知識の有無にかかわらず、毎日どこかで、法律問題（振込詐欺・交通事故etc.）は発生している現実があります。みなさんや私にも、法律問題がふりかかるおそれがあるということです。このことを理解して受講してもらいたいと思います。また、将来、進路変更をして法学部やロー・スクールにでも進学しないかぎり、法律を（ある程度）体系的に勉強する機会は、おそらくこの授業が最後ではないのでしょうか？それゆえ、みなさんには知的好奇心をもった受講を期待します。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間を授業前後に必要とします。予習ではシラバスにしたがい、復習では配布資料を読み直しまとめてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ブレップ法学		法律の意義、法体系、法律用語について理解することができる。		
		2週	日本国憲法Ⅰ（最高法規性）		最高法規性、憲法改正手続、改憲論について理解できる。		
		3週	日本国憲法Ⅱ（人権）		人権の歴史・種類、公共の福祉について理解できる。		
		4週	日本国憲法Ⅲ（国家統治①）		国会と内閣の機能について理解できる。		
		5週	日本国憲法Ⅳ（国家統治②）		裁判所の機能について理解できる。		
		6週	刑法Ⅰ（犯罪の認定）		罪刑法定主義、犯罪の認定について理解できる。		
		7週	刑法Ⅱ（死刑制度、刑法論）		死刑制度の実態（DVD利用）と論議、刑法論について理解できる。		
		8週	中間試験		前半の理解度を確認する。		
	4thQ	9週	民法Ⅰ（主体）		成年・未成年、制限行為能力者について理解する。		
		10週	民法Ⅱ（契約）		契約の成立、種類、債務不履行について理解する。		
		11週	民法Ⅲ（責任）		損害賠償責任の態様について理解する。		
		12週	消費者保護法		特定商取引法と消費者契約法について理解する。		
		13週	会社法Ⅰ（歴史・種類）		会社の誕生、種類、設立数について理解する。		
		14週	会社法Ⅱ（機関）		株式会社の機関について理解する。		
		15週	定期試験		後半の理解度を確認する。		
		16週	統括		法の意義と機能、諸問題と解決策について理解する。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	5E003			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	正保 佳史,佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ルールを理解し、説明できる.			ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
評価項目2	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.			友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
評価項目3	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.			積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
評価項目4	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.			とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
評価項目5	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.			とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価します。 学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、プレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っているジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーパンなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	インディアカの基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		13週	インディアカのの基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		

後期		14週	インディアカのの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。			
		15週	インディアカのの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。			
		16週					
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。			
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。			
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。			
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。			
		5週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。			
		6週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。			
		7週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。			
		8週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。			
	4thQ	9週	フットサルの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。			
		10週	フットサルの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。			
		11週	フットサルの基本的技術の習得とゲーム	%E			
		12週	アルティメットの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。			
		13週	アルティメットの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。			
		14週	アルティメットの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。			
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	5E004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	和田あずさ他（2004）『Global Gate Intermediate -Video-based Four Skills Training-』					
担当教員	小菅 智也					
到達目標						
・4年次までの既習事項を含め、基本的な文法事項を再確認して、学生生活、テクノロジーと生活など様々な状況に当てはめて運用することができる。 ・身近な話題からテクノロジーに関するものまで多様なテーマを扱う英文で用いられている構文・表現を学ぶことで、読解力（リーディング力）を深めることができる。 ・日常生活からテクノロジーまで多様なテーマを扱う音声聞き、音読し、会話の練習問題を解くを通して、リスニング力とスピーキング力を培うことができる。 ・学んだ内容を参考にして、ある程度まとまりのあるライティングができる。 ・テキストの重要語彙が理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な英文法を、様々な状況に当てはまることができる。		基本的な英文法を、様々な状況にある程度当てはまることができる。		基本的な英文法を、様々な状況に当てはまることができない。	
評価項目2	様々な構文・表現がよく理解できる。		様々な構文・表現がある程度理解できる。		様々な構文・表現が理解できない。	
評価項目3	場面や内容について、リスニングとスピーキングができる。		場面や内容について、ある程度リスニングとスピーキングができる。		場面や内容について、リスニングとスピーキングができない。	
評価項目4	読んだ内容に基づき、ライティングができる。		読んだ内容に基づき、ライティングがある程度できる。		読んだ内容に基づき、ライティングができない。	
評価項目5	テキストの重要語彙がよく理解できる。		テキストの重要語彙がある程度理解できる。		テキストの重要語彙がある程度理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の各ユニットで取り上げられている題材について、アウトプットを中心とした学習活動をおこない、総合的な英語力の向上を目標とする。					
授業の進め方・方法	毎回の授業は主に以下の流れで進めていく予定である。 1. 前回の課題の解説 2. 動画の視聴、内容の確認 3. 各Unitの文法事項を用いた条件英作文 4. 各Unitのテーマに関する自由英作文 5. 作文した内容の口頭発表 上記に加え、適宜英文読解の時間を設けるほか、都度小テストを実施する予定である。					
注意点	本科目は学修単位科目であるため、自学自習を計画的に進めること。 毎回の授業に辞書を持参すること（スマートフォン不可）。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Unit 1	授業概要を理解する。 映画製作に関する動画を見て内容が理解できる。		
		2週	Unit1	to不定詞を用いた英作文ができる。		
		3週	Unit2	芸術に関する動画を見て内容が理解できる。		
		4週	Unit2	後置修飾を用いた表現を使い英作文ができる。		
		5週	Unit3	学校に関する動画を見て内容が理解できる。		
		6週	Unit3	接続詞を用いて英作文ができる。		
		7週	Unit4	スポーツに関する動画を見て内容が理解できる。		
		8週	前期中間試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。		
	2ndQ	9週	答案返却	観光案内について話すことができる、宿泊施設の紹介文を書くことができる。		
		10週	Unit4	現在完了形を用いて英作文ができる。		
		11週	Unit5	医療に関する動画を見て内容が理解できる。		
		12週	Unit5	動名詞を用いて英作文ができる。		
		13週	Unit6	ボランティア活動に関する動画を見て内容が理解できる。		
		14週	Unit6	第5文型を用いて英作文ができる。		
		15週	前期定期試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。		
		16週	答案返却 振り返り	これまでの学習項目が概観できる。		
後期	3rdQ	1週	Unit7	病気に関する動画を見て内容が理解できる。		
		2週	Unit7	助動詞を用いて英作文ができる。		
		3週	Unit8	感情に関する動画を見て内容が理解できる。		

		4週	Unit8	過去形・過去進行形・過去完了形を用いて英作文ができる。
		5週	Unit9	計画の枠組みを話し合う表現が英文が理解できる。
		6週	Unit 9	計画の詳細情報を説明する・尋ねる表現が理解できる。
		7週	Unit10	買い物に関する動画を見て内容が理解できる。
		8週	後期中間試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。
	4thQ	9週	答案返却	問題を特定する表現が理解できる。
		10週	Unit10	比較級・最上級を用いて英作文ができる。
		11週	Unit11	劇に関する動画を見て内容が理解できる。
		12週	Unit11	関係代名詞を用いて英作文ができる。
		13週	Unit12	義肢に関する動画を見て内容が理解できる。
		14週	Unit12	態を意識して英作文ができる。
		15週	後期定期試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。
		16週	答案返却 振り返り	これまでの学習項目が概観できる。

評価割合			
	定期試験	課題など	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	中国語 I	
科目基礎情報							
科目番号	5E005			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	『新・高校版 中国語 はじめの一步』 尹 景春、竹島 毅著 白水社 978-4-560-06929-5 C3887						
担当教員	桑名 潔江,横山 孝一,板谷 洋一郎						
到達目標							
☐ 中国語の発音、文法を習得することができる。 ☐ 初級程度の語彙、構文を使って基礎的な中国語コミュニケーションができる。 ☐ 学んだ語彙、文法事項による基礎会話を身に付けことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	中国語の発音、単語やフレーズの意味を理解し、読むことができる、聴き取ることができる、そして使える。			ある程度、中国語の発音、単語やフレーズの意味を理解し、読むことができる、聴き取ることができる、そして使える。		中国語の発音、単語やフレーズの意味を理解し、読むことができない、聴き取ることができない、さらには使うことができない。	
評価項目2	文法や構文を理解し、使える。			文法や構文を理解し、使える。		文法や構文を理解できない、使えない。	
評価項目3	中国語で簡単な挨拶と日常会話ができる。			中国語で簡単な挨拶と日常会話ができる。		中国語で簡単な挨拶ができない、日常会話ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・発音、基本文法についてテキスト中心に解説。 ・会話の基本表現を学ぶ。 ・学生同士で中国語の日常会話を練習する。 ・テキストに関連した中国の生活・習慣・文化について解説。						
授業の進め方・方法	テキストを中心に講義を行います。各課の前半で重要となる単語や会話文、文法ポイントを学び、例文、例題を学習し知識の習得ができるよう進めます。後半でCDを活用したリスニングとリーディングを行います。繰り返し練習することで聴く力や正しい発音を学びます。学生同士での会話練習を行うことで知識の定着や会話を身に付けます。						
注意点	本科目は学修単位なので、授業時間に加え自学自習の時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は授業ごとに指示します。予習をしていただくが大前提です。必ず予習してから授業に臨むこと。毎回の授業で宿題をチェックします。授業内容を深めるため、CDで必ず復習すること。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は毎回の授業における予習と復習です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	中国語についての説明と発音1（声調、単母音、複母音、鼻母音）の学習		中国語に対する基本理解と声調、母音の把握		
		2週	発音2（子音①、子音②、軽声、アル化）、挨拶言葉と教室用語の学習		子音を理解する、挨拶語や教室用語が理解し会話ができる		
		3週	名前の尋ね方と言い方、単語、会話文を学習する		初対面のあいさつができる		
		4週	自己紹介、発音3（変調①）の学習とリスニング、リーディング、会話練習を行う		自己紹介ができる。変調①を理解する。		
		5週	基本文型と疑問文の学習、単語、会話文を学習する。		基本文型と疑問文を理解する		
		6週	短文、発音4（変調②）の学習とリスニング、リーディング、会話練習を行う		学生同士での質問と答えの会話できる。変調②を理解する		
		7週	所有と量詞①、単語、会話文の学習		所有と量詞①を理解する		
		8週	前期中間試験		復習をする		
	2ndQ	9週	短文、数字、曜日の学習とリスニング、リーディング、会話練習を行う		所有、量詞、数字、曜日を言える使える		
		10週	存在と時刻に関する表現、単語、会話文の学習		存在と時刻に関する表現を理解する		
		11週	短文、補充時間詞の学習とリスニング、リーディング、会話練習を行う		存在と時刻に関する表現を使える		
		12週	過去の経験、形容詞述語文、単語、会話文の学習		過去の経験と形容詞述語文を理解する		
		13週	短文、発音トレーニング（声調の組み合わせ①）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		過去の経験と形容詞述語文を使える声調の組み合わせ①を理解する		
		14週	動作の完了表現、単語、会話文の学習		動作の完了表現を理解する		
		15週	前期定期試験		総復習をする		
		16週	答案返却		答え合わせ及び総復習をする		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	中国語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	5E006			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	『新・高校版 中国語 はじめの一步』尹 景春、竹島 毅著 白水社 978-4-560-06929-5 C3887						
担当教員	桑名 潔江,横山 孝一,板谷 洋一郎						
到達目標							
☐ 中国語の発音、文法を習得することができる。 ☐ 初級程度の語彙、構文を使って基礎的な中国語コミュニケーションができる。 ☐ 学んだ語彙、文法事項による基礎会話を身に付けことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	中国語の発音、単語やフレーズの意味をよく理解し、読める聴き取れる使える。			中国語の発音、単語やフレーズの意味を理解し、概ね読める聴き取れる使える。		中国語の発音、単語やフレーズの意味を理解し、読める聴き取れる使えない。	
評価項目2	文法や構文をよく理解し、使える。			文法や構文を理解し、使える。		文法や構文を概ね理解し、使えない。	
評価項目3	中国語で簡単な挨拶と日常会話ができる。			中国語で簡単な挨拶と基本的な日常会話ができる。		中国語で簡単な挨拶ができ、日常会話ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・発音、基本文法についてテキスト中心に解説。 ・会話の基本表現を学ぶ。 ・学生同士で中国語の日常会話を練習する。 ・テキストに関連した中国の生活・習慣・文化について解説。						
授業の進め方・方法	テキストを中心に講義を行います。各課の前半で重要となる単語や会話文、文法ポイントを学び、例文、例題を学習し知識の習得ができるよう進めます。後半でCDを活用したリスニングとリーディングを行います。繰り返し練習することで聴く力や正しい発音を学びます。学生同士での会話練習を行うことで知識の定着や会話力を身に付けます。						
注意点	本科目は学修単位なので、授業時間に加え自学自習の時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は授業ごとに指示します。予習をしておくことが大前提です。必ずやってから授業に臨むこと。毎回の授業で宿題をチェックします。授業内容を深めるため、CDで必ず復習すること。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は毎回の授業における予習と復習です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	短文、発音トレーニング（声調の組み合わせ②）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		動作の完了表現を使える 声調の組み合わせ②を理解する		
		2週	助動詞、連動文、単語、会話文の学習		助動詞、連動文を理解する		
		3週	短文、発音トレーニング（声調の組み合わせ③）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		助動詞、連動文を使える 声調の組み合わせ③を理解する		
		4週	場所を表す代詞、副詞、二重目的語をとる動詞、単語、会話文の学習		場所を表す代詞、副詞、二重目的語をとる動詞を理解する		
		5週	短文、発音トレーニング（声調の組み合わせ④）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		場所を表す代詞、副詞、二重目的語をとる動詞を使える 声調の組み合わせ④を理解する"		
		6週	選択疑問文、動詞の重ね型、単語、会話文の学習		選択疑問文、動詞の重ね型を理解する		
		7週	後期中間試験		復習をする		
		8週	短文、発音トレーニング（無気音と有気音）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		選択疑問文、動詞の重ね型を使える 無気音と有気音を理解する		
	4thQ	9週	量詞の使い方②、形容詞、前置詞、副詞、単語、会話文の学習		量詞の使い方②、形容詞、前置詞、副詞を理解する		
		10週	短文、発音トレーニング（舌面音と反り舌音）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		量詞②、形容詞、前置詞、副詞を使える 舌面音と反り舌音を理解する		
		11週	変化を表す表現、副詞、助動詞、単語、会話文の学習		変化を表す表現、副詞、助動詞を理解する		
		12週	短文、発音トレーニング（舌尖音「l-」と反り舌音「r-」）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う		変化を表す表現、副詞、助動詞を使える 舌尖音「l-」と反り舌音「r-」を理解する		

		13週	様態補語、「是～的」文、疑問詞、単語、会話文の学習	様態補語、「是～的」文、疑問詞を理解する
		14週	短文、発音トレーニング（鼻母音「-n」と「-ng」）の学習とリスニングとリーディング、会話練習を行う	様態補語、「是～的」文、疑問詞を使える鼻母音「-n」と「-ng」を理解する
		15週	後期定期試験	総復習をする
		16週	答案返却	答え合わせ及び総復習をする

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子回路Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	5E008			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	内山明彦:「パルス回路」(電子情報通信学会大学シリーズ), コロナ社 内山明彦:「パルス回路」(電子情報通信学会大学シリーズ), コロナ社						
担当教員	富澤 良行						
到達目標							
【目的】 本授業の目的は、ICを用いた設計のための基礎となる、トランジスタやコンデンサ及び抵抗を用いたパルス回路の基礎として波形操作や発振回路の基礎を修得し、これらの知識を活用するスキルを身に付けることである。							
【到達目標】 ☐ パルス回路で取り扱う各種の波形について理解できる。 ☐ パルス波の基本的な取り扱いができる。 ☐ トランジスタ、ダイオードなどの素子がパルス波形に対してどのように応答するか理解できる。 ☐ RLCの受動素子回路の伝達特性について理解できる。 ☐ ダイオードを含む受動素子回路の伝達特性について理解できる。 ☐ パルス波形増幅のための広帯域増幅器について基本的な考え方が理解できる。 ☐ マルチバイブレータについて基本的な考え方が理解できる。 ☐ A-D、D-A変換回路についての基本的な考え方が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	積分(CR・LR)、微分(CR・LR)、LCR回路のパルス応答について、計算により求めることができる。		積分(CR・LR)、微分(CR・LR)のパルス応答について、計算により求めることができる。LCR回路のパルス応答について説明できる。		積分(CR・LR)、微分(CR・LR)、LCR回路のパルス応答について、説明することができる。		
評価項目2	マルチバイブレータ回路の基本的な回路設計ができる。		マルチバイブレータ回路の各部分の波形が説明でき、発振周波数を求めることができる。		マルチバイブレータ回路の各部分の波形と発振周波数の原理が説明できる。		
評価項目3	波形整形回路に対する様々な入力波形に対する出力特性を求めることができる。		波形整形回路に対する矩形波入力波形に対する出力特性を求めることができる。		クランプ回路における入出力特性を求めることができる。		
評価項目4	A/D、D/A回路の原理的な回路図を描き設計できる。		A/D、D/A回路の原理的な回路図を描ける。		A/D、D/A回路の原理的な回路の動作を説明できる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電子回路は、広い意味での電気回路の一分野である。狭い意味での電気回路が抵抗、コンデンサ、およびインダクタンス等の線形で受動的な部品で構成されているのに対して、電子回路はダイオードやトランジスタ等の非線形または能動的な部品で構成されている。 電子回路の中でも、電子回路Ⅱでは、パルス回路やデジタル回路のように、動作が線形でないものや正弦波でないいわゆるパルス回路を扱う回路について、その回路構成と機能および動作原理を学習する。具体的には、次のような項目について学習する。 ・線形波形変換回路：RLC素子の高周波特性と等価回路、パルス波形の定義と周波数スペクトル、微分回路、積分回路、指数関数波形、多段接続回路の出力波形、パルス波形の観測と測定誤差。 ・非線形波形整形回路：ダイオード波形整形回路（クリップ、リミッタ、スライサ、クランプ）、トランジスタのスイッチング特性とその改善（スピードアップコンデンサ、オーバドライブ回路）。 ・マルチバイブレータ：トランジスタによるマルチバイブレータ、TTLおよびオペアンプによるマルチバイブレータ。 ・A-D・D-A変換						
授業の進め方・方法	授業の進度に合わせて適宜プリントなどを配布する。一人一人が到達目標を達成できることを念頭に、パルス回路の基本的な考え方を理解できるように説明する。本授業では、頻繁に宿題を課し学生の理解を促す。						
注意点	・一週間に2コマの授業を行う ・電気回路及び電子回路Ⅰの内容を理解しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	[1]パルス波形と定義および特徴 1) 各種の波形 2) パルスに対する応答 a) RCローパス回路のステップ応答 (微分方程式) b) RCローパス回路のステップ応答 (ラプラス変換)		・パルス波形の定義を理解し、パルスの立ち上がり及び立下り、RC回路のパルス応答の考え方を理解できる。		
		2週	[1]パルス波形と定義および特徴 2) パルスに対する応答 c) 立ち上り、立下り時間 d) 指数関数波形応答 e) ランプ波形応答 f) RCハイパス回路の応答 g) RLローパス回路の応答		・ローパス回路にステップ波形を通した場合の立ち上がり、立ち下がり時間について計算できる。 ・各種波形に対するローパス回路の応答について理解できる。		

2ndQ	3週	[1]パルス波形と定義および特徴 2) パルスに対する応答 h) 積分・微分回路 i) 高域補償回路 j) RLC回路のステップ応答 3) パルス波形の周波数解析 a) フーリエ級数展開 b) フーリエ変換	・一次のLPF, HPFがそれぞれ近似的な積分、微分回路になることが理解できる。 ・高域補償回路の仕組みが理解できる。 ・RLC回路の三条件におけるステップ応答波形について理解できる。 ・パルス波形の周波数解析方法が理解でき、計算ができる。
	4週	[2]パルス回路素子 ダイオード・トランジスタ・FETのパルスに対する応答を取り扱う。 1) PN接合ダイオードの特性 2) ダイオードのスイッチ特性 a) 順方向回復特性 b) 逆方向の回復特性	・PN接合ダイオードにステップ波形を加えた場合の応答について理解できる（順方向、逆方向）。
	5週	[2]パルス回路素子 2) ダイオードのスイッチ特性 c) ショットキバリアダイオード 3) トランジスタのスイッチ特性 a) バイポーラトランジスタの静特性と動作点 b) バイポーラトランジスタのパルス応答	・ショットキバリアダイオードの構造・特徴・スイッチ特性について理解できる。 ・バイポーラトランジスタにステップ波形を加えた場合のトランジスタの挙動について理解できる。
	6週	[2]パルス回路素子 3) トランジスタのスイッチ特性 b) バイポーラトランジスタのパルス応答 4) FETのスイッチ特性 a) FETの分類 b) MOS-FETの種類と特徴 c) エンハンスメント形MOS-FETの静特性 d) エンハンスメント形MOS-FETのパルス応答	・バイポーラトランジスタにステップ波形を加えた場合の立ち上がり時間等の具体的な数値が計算できる。 ・FETにステップ波形を加えた場合のトランジスタの挙動について理解できる。
	7週	[2]パルス回路素子 4) FETのスイッチ特性 d) エンハンスメント形MOS-FETのパルス応答 5) 電子回路シミュレータの紹介	・FETにステップ波形を加えた場合の立ち上がり時間等の具体的な数値が計算できる。 ・電子シミュレータの原理・簡単な導入について理解できる。
	8週	中間試験を実施する。	・中間試験問題の解き方を理解できる。
	9週	[3]マルチバイブレータ 1) マルチバイブレータの分類 2) 双安定マルチバイブレータ a) 双安定マルチバイブレータの特徴 b) 双安定マルチバイブレータの設計 c) 安定状態の転移 d) 時間分解能と加速コンデンサ	・バイブレータの分類について理解できる。 ・相安定マルチバイブレータの原理が理解できる。 ・相安定マルチバイブレータ回路が設計できる。
	10週	[3]マルチバイブレータ 1) マルチバイブレータの分類 2) 双安定マルチバイブレータ e) トリガ方法 f) 直結型双安定マルチバイブレータ 3) 単安定マルチバイブレータ a) 単安定マルチバイブレータの特徴 b) コレクタ・ベース結合型	・単安定マルチバイブレータの原理が理解できる。 ・単安定マルチバイブレータ回路が設計できる。
	11週	[3]マルチバイブレータ 3) 単安定マルチバイブレータ c) エミッタ結合型 4) 無安定マルチバイブレータ a) 無安定マルチバイブレータの特徴と基本回路	・無安定マルチバイブレータの原理が理解できる。 ・無安定マルチバイブレータ回路が設計できる。
	12週	[4]波形操作 1) 波形操作の種類(概要) 2) 振幅軸上の波形操作 a) リミッタ・クリップ・スライサ(概要) b) ダイオードクリップ c) ダイオードリミッタおよびスライサ d) クランプ回路 e) 電圧比較回路	・波形操作の概要について理解できる。 ・振幅軸上の波形操作について理解でき、回路図が描ける。
	13週	[4]波形操作 3) 時間軸上での波形操作 a) 選択・推移・比較(概要) b) 伝達ゲート回路 c) 標本化回路 d) サンプリングスコープ e) 標本化原理 f) 時間比較回路 g) 時間分別回路	・時間軸上の波形操作について理解できる。 ・標本化定理が理解できる。 ・サンプリングスコープの原理が理解できる。
	14週	[5]A/D変換とD/A変換 1) 概要 2) D/A変換回路 a) 並列形 b) はしご形	・D/A変換回路の種類、その原理について理解できる。
	15週	[5]A/D変換とD/A変換 3) A/D変換回路 a) 計数形 b) 積分型 c) 電圧比較形 d) 同時比較形	・A/D変換回路の種類、その原理について理解できる。
	16週	期末試験を実施する。	・期末試験問題の解き方を理解できる。

評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100

基礎的能力	0	20	0	0	0	0	20
專門的能力	80	0	0	0	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	通信・伝送工学	
科目基礎情報							
科目番号	5E009			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	通信方式：守倉正博：オーム社：978-4274214738						
担当教員	佐々木 信雄						
到達目標							
☐ フーリエ級数とフーリエ変換を理解し、基本的な問題を解くことができる。 ☐ 振幅変調とは何か説明でき、変復調方法を回路図やブロック図を用いて説明できる。 ☐ 周波数変調とは何か説明でき、変復調方法を回路図やブロック図を用いて説明できる。 ☐ 各種パルス変調方式 (PAM,PWM,PPM,PCM)を説明できる。 ☐ 各種デジタル変調方式(OOK,FSK,PSK)を説明でき、各種方式によるビット誤り率の違いについて説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	振幅変調および周波数変調とは何か説明でき、変復調方法を回路図やブロック図を用いて説明できる。			振幅変調および周波数変調とは何か説明できる。		振幅変調および周波数変調とは何か説明できない。	
評価項目2	各種パルス変調方式 (PAM,PWM,PPM,PCM)を説明できる。			各種パルス変調方式 (PAM,PWM,PPM,PCM)を説明できる。		各種パルス変調方式 (PAM,PWM,PPM,PCM)を説明できない。	
評価項目3	各種デジタル変調方式 (OOK,FSK,PSK)を説明でき、各種方式によるビット誤り率の違いについて説明できる。			各種デジタル変調方式 (OOK,FSK,PSK)を説明できる。		各種デジタル変調方式 (OOK,FSK,PSK)を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	通信は英語でcommunicationです。携帯やネットの普及で、人と人とのコミュニケーション手段は大きく変わってきています。しかしながら、その背景となる通信技術についてはほとんど知られていません。この授業では、この分野の基本知識を最新技術との関連も含めて学んでいきたいと思います。						
授業の進め方・方法	通信工学分野での普遍的な基本事項を学習します。具体的には、信号理論と呼ばれるもののなかから、変調・復調および符号化・復号化を中心に学習します。授業ではアナログ変調 (AM,FM) , パルス変調・デジタル変調 (PCM,ASK,FSK,PSK)の順に説明していきます。						
注意点	フーリエ級数とフーリエ変換は無くてはならない道具として使いますので、4年の応用解析基礎をマスターしておくことは必須です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	序論	・通信システム構成が説明できる。 ・電波の各周波数と各々の用途について説明できる。			
		2週	フーリエ級数	・フーリエ級数展開が説明でき、実際に計算ができる。 ・信号空間について説明できる。			
		3週	フーリエ変換	・フーリエ変換とその性質について説明できる。 ・フーリエ変換を実際に計算できる。			
		4週	スペクトルと信号処理	・線形システムについて説明できる。 ・電力スペクトル密度について説明できる。			
		5週	振幅変調	・振幅変調・復調について説明できる。 ・搬送波と側波帯の電力・信号対雑音電力比について説明できる。			
		6週	振幅変調の改良	・DSB-SCについて説明できる。 ・SSBについて説明できる。 ・直交振幅変調について説明できる。			
		7週	角度変調	・角度変調について説明できる。 ・FMの占有帯域幅について説明できる。 ・FM変調回路・復調回路について説明できる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	標本化	・標本化と標本化定理について説明できる。			
		10週	量子化	・線形量子化について説明できる。 ・コンプレッサ・エクスパンダについて説明できる			
		11週	符号化	・伝送路符号について説明できる。 ・PAM,PWM,PPMを説明できる。			
		12週	パルス符号変調	・パルス符号変調(PCM)について説明できる。			
		13週	デジタル変調方式	・線形変調方式(OOK,ASK,PSK)について説明できる。 ・周波数変調方式(FSK)について説明できる。 ・直交変調(QAM)について説明できる。 ・信号空間ダイアグラムについて説明できる。 ・グレイコードについて説明できる。			

		14週	デジタル復調方式	・非同期検波、遅延検波、同期検波について説明できる. ・通倍法、コスタスループ、PLLについて説明できる. ・白色雑音と帯域通過雑音について説明できる. ・誤り率について説明できる.
		15週	定期試験	
		16週	まとめ	これまでの学習のまとめ

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	10	20
専門的能力	60	0	0	0	0	10	70
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子材料基礎 I	
科目基礎情報							
科目番号		5E010		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		電子メディア工学科		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		工科系のための現代物理学/原康夫・岡崎誠共著 (裳華房, ISBN 4-7853-2225-X)					
担当教員		塚原 規志					
到達目標							
☐ 量子論的な考え方を理解できる。 ☐ 電子の運動がどのように記述されるか、理解できる。 ☐ 不確定性原理を理解できる。 ☐ シュレディンガー方程式を記述できる。 ☐ 多電子を持つ原子の基礎的性質を理解できる。 ☐ 固体、特に金属・半導体の電子状態を理解できる。 ☐ 電子材料の物理的性質がどのような発現するか概略を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		不確定性原理、およびシュレディンガー方程式を十分理解し、説明できる。		不確定性原理、およびシュレディンガー方程式を理解し、説明できる。		不確定性原理、およびシュレディンガー方程式を理解していない。	
評価項目2		水素原子内電子のシュレディンガー方程式と解をよく理解し、十分説明できる。		水素原子内電子のシュレディンガー方程式と解を理解し、説明できる。		水素原子内電子のシュレディンガー方程式と解を理解できず説明できない。	
評価項目3		固体（金属、半導体、絶縁体）の電子状態をよく理解できる		固体（金属、半導体、絶縁体）の電子状態を理解できる		固体（金属、半導体、絶縁体）の電子状態が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本科目は学修単位科目であり、授業時間中は言うに及ばず授業時間外においても学生の自学自習が必須である。単位取得のためには、課題を期日にはしっかり確実に提出し、予習および復習も怠らないようにしなければならない。また本講義は、「工科系のための現代物理学, 原康夫・岡崎誠著（裳華房）」に沿って進めるが、教科書指定はしないため、各自必要と感じた場合購入するか図書館にて借りるなどの対応をすること。					
授業の進め方・方法		以下のように授業・学習を進める。 (a)量子力学特有の概念を把握できるように学習する。 (b)原子内電子の振る舞いを理解できるよう学習する。 (c)結晶内電子（多電子系）の取り扱い方について概略を把握する。 (d)金属・半導体などについて、その物性を定性的に理解する。 【成績内訳】 中間試験 4 0 %・期末試験 4 0 %・レポート（小テストを含む） 2 0 %					
注意点		量子力学は初学者には難しい概念を含むが、理工系技術の基盤をなす必須の概念である。力学および電磁気学、そして波動の理解を総動員して概念の把握に努めてほしい。本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は、電子の二重性、井戸型ポテンシャル、原子中の電子配置、エネルギーバンド形成のメカニズム、金属と絶縁体、半導体の分類で、具体的な内容は授業中に指示をします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション, 量子力学の誕生		電子材料内部に於ける電子の運動と量子力学の学習内容を理解できる ----- プランクの量子仮説とアインシュタインの光量子論を理解できる		
		2週	前期量子論		物質波と古典的粒子との関係について理解できる		
		3週	量子力学の基礎		波動関数の物理的意味を理解し、井戸型ポテンシャル中の電子の振る舞いを説明できる		
		4週	調和振動子		調和振動の量子力学的な取り扱い、および振動量子を理解できる。		
		5週	トンネル効果		ポテンシャル障壁での粒子の反射、透過、および量子トンネル効果を理解できる		
		6週	水素原子		水素原子中の電子の波動関数およびエネルギーを導ける		
		7週	原子、電子の磁気モーメント		原子中電子の軌道磁気モーメントと電子自身のスピン磁気モーメントを理解できる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	原子中の電子配置		一般の原子内電子について、電子配置について理解できる		
		10週	分子		原子の結合メカニズムを理解し、分子の性質を説明できる		
		11週	結晶における結合		様々な結晶の構造や結合メカニズム、物性との関係を理解できる		
		12週	固体のバンド構造		固体中の電子に対し、エネルギーバンドの形成メカニズムを理解できる		

		13週	金属と絶縁体	金属・絶縁体の分類をエネルギーバンドから分類し、金属の電気伝導を電子の運動として説明できる
		14週	半導体の電気伝導および半導体接合	真性・不純物半導体の電気伝導をエネルギーバンドから理解でき、ダイオードなどの半導体接合を理解できる
		15週	期末試験	
		16週	半導体デバイス	バイポーラトランジスタや電界効果トランジスタなど、様々な半導体デバイスの動作原理を理解できる

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	30	50
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	自動制御
科目基礎情報						
科目番号	5E011			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	自動制御理論：樋口龍雄：森北出版株式会社（古典制御）					
担当教員	松本 敦					
到達目標						
☐ 主として古典制御理論を学習し、理解することができる。 ☐ 伝達関数、ブロック線図、信号伝達線図、過渡応答、周波数応答の内容に関して、基礎的な制御系の基本構造の解析、および挙動を理解することができる。 ☐ 安定判別、制御系の評価、根軌跡法、制御系の計画について、基礎的な制御系の種々の特性について求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
伝達関数、ブロック線図に関する理解	伝達関数とブロック線図の関係を完全に理解し、相互変換等を自在に行うことができる。		伝達関数の意味、ブロック線図の単純化等の基礎的な問題を解くことができる。		伝達関数、ブロック線図の意味を理解しておらず、問題への適用ができない。	
安定性判別方法に関する理解	各種安定判別法とシステム伝達関数の関係を十分に理解した上で、自在に問題に適用することができる。		基礎的な問題への安定判別法の適用を行うことができる。		条件が与えられても、安定判別を実行することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	最近自動制御の応用範囲がますます広がり、その基本的知識がエンジニアにとって欠くべからざるものになってきた。しかし、自動制御工学は電気工学だけでなく、機械工学、情報工学、物質工学（化学工学）、土木工学などを包含し、これを習得することは極めて困難である。本授業により、理解することが難しい教科の一つであるとされている自動制御を容易に、深く学習し、習得できる。さらに、エンジニアのセンスの養成が可能である。 （１）理論体系などの把握 （２）基本的事項の徹底的理解 （３）制御工学の見方に馴れること（４）例題や演習を数多くやるので、具体的事例の把握等に優れるようになること（５）分野によらない統一の見方や手法の取得（６）レポート課題に取り組むことにより、自分で考え、問題を解決できるようになる。 授業においては、主として古典制御理論と現代制御理論とを学習し、修得する。その内容（の詳細）は、「自動制御の概念」、「自動制御を学習するための数学的準備」、「伝達関数」、「ブロック線」、「信号伝達線図」、「過渡応答」、「周波数応答」、「安定判別（法）」、「制御系の評価」、「根軌跡法」、「制御系の計画」などであり、線形制御が扱う内容の中心である。					
授業の進め方・方法	特になし(座学)					
注意点	授業を理解するに当たり、4年生までに学習した数学の知識（行列計算，部分分数分解，ラプラス変換等）が必要になります。授業中にも説明しますが，事前に理解を十分に深めていただくようお願いします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション		授業進行方法の説明，自動制御の背景，制御系の分類	
		2週	フィードバック制御系		フィードバック系の構成要素，ブロック線図の単純化	
		3週	基礎数学		複素数，畳み込み積分	
		4週	基礎数学		ラプラス変換，ラプラス逆変換と諸問題	
		5週	伝達関数		周波数伝達関数	
		6週	伝達関数		伝達関数，周波数応答の表示法（ナイキスト線図，ボード線図）	
		7週	基本伝達関数の特性		伝達関数の定義，比例要素，積分要素，微分要素	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	基本伝達関数の特性		1次遅れ要素，1次進み要素	
		10週	基本伝達関数の特性		2次要素，無駄時間要素	
		11週	安定性		安定条件，判別法（ラウス，フルビッツ）	
		12週	安定性		判別法（ナイキスト），安定度	
		13週	速応性と定常偏差		時間特性，即応性，定常偏差（各種入力）	
		14週	速応性と定常偏差，フィードバック制御系の設計		定常偏差（外乱），設計仕様	
		15週	定期試験			
		16週	試験解説，フィードバック制御系の設計		周波数応答法，根軌跡法	
評価割合						
	レポート（2回）		中間試験	定期試験	合計	
総合評価割合	20		40	40	100	
配点	20		40	40	100	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	デザイン実験	
科目基礎情報							
科目番号	5E012			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	電子部品ごとの制御を学べる! Arduino 電子工作実践講座 改訂第2版,福田 和宏,ソーテック社,978-4800712684,電子部品ごとの制御を学べる! Raspberry Pi 電子工作 実践講座 改訂第2版,福田 和宏,ソーテック社,978-4800712424						
担当教員	電子メディア工学科 科教員,布施川 秀紀						
到達目標							
☐ 能力や性能の数値的な目標を達成できている。 ☐ 設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について理解し、文章で表現できる。 ☐ 最適な解決策に基づき具体的なものを設計、実現できる。 ☐ 設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について口頭で表現できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	能力や性能の数値的な目標を十分に達成できている。		能力や性能の数値的な目標をある程度達成できている。		能力や性能の数値的な目標を達成できていない。		
評価項目2	設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について十分に理解し、文章で表現できる。		設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項についてある程度理解し、文章で表現できる。		設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について理解できていない。		
評価項目3	最適な解決策に基づき具体的なものを設計、実現できる。		最適な解決策に基づき具体的なものを設計、ある程度実現できる。		最適な解決策に基づき具体的なものを設計、実現できない。		
評価項目3	設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について口頭でわかりやすく表現できる。		設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について口頭であるていど表現できる。		設定したテーマの考え方、作り上げた物、その基礎となる工学基本事項について口頭で表現できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各自が設定したテーマに沿って、性能や能力の数値的な目標を含んだ装置等の仕様を設定する。この装置には、電気回路もしくは電子回路とマイコン等を持たなくてはならない。学生はこの仕様を達成するために複数の解決策を提示しなければならない。次に、提示した複数の解決策について検討し、最適な解決策を決定する。その解決策を具体化するために、材料を集め、予備実験、製作、動作確認、特性試験、組み立て、総合的な動作確認を行う。最後にデモンストレーションとプレゼンテーションを行い、報告書を提出する。						
授業の進め方・方法	実験室、各教員の研究室、工作室等を使用し、各グループごとに装置等を製作する。装置等は、できるだけモジュール化し、それぞれ担当を決め、モジュールを繋いだ時に正しく動作するか確かめながら、製作を進める。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	班分け、仕様設定		作ろうとする装置等の概要を決定し、大まかな仕様を検討する。		
		2週	詳細な仕様設定		装置等の詳細な仕様を決定し、必要となる部品を選択する。		
		3週	部品購入		装置等の製作に必要な部品を購入する。		
		4週	試作1		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		5週	試作2		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		6週	試作3		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		7週	試作4		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		8週	試作5		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
	2ndQ	9週	試作6		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		10週	試作7		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		11週	試作8		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		12週	試作9		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		13週	試作10		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		
		14週	試作11		装置等の各部分を試作し、動作試験や特性測定を行う。		

後期		15週	試作12	装置等の各部分を試作し，動作試験や特性測定を行う。			
		16週	中間発表会	作ろうとする装置等の概要や仕様をプレゼンテーションする。			
	3rdQ	1週	装置等の制作1	装置等を製作する。			
		2週	装置等の制作2	装置等を製作する。			
		3週	装置等の制作3	装置等を製作する。			
		4週	装置等の制作4	装置等を製作する。			
		5週	装置等の制作5	装置等を製作する。			
		6週	装置等の制作6	装置等を製作する。			
		7週	装置等の制作7	装置等を製作する。			
		8週	装置等の制作8	装置等を製作する。			
	4thQ	9週	装置等の制作9	装置等を製作する。			
		10週	装置等の制作10	装置等を製作する。			
		11週	装置等の動作確認1	装置等の動作確認をする。			
		12週	装置等の動作確認2	装置等の動作確認をする。			
		13週	装置等の動作確認3	装置等の動作確認をする。			
		14週	発表会準備	作成した装置等の内容をプレゼンテーションする準備をする。			
		15週	発表会	作成した装置等の内容をプレゼンテーションする。			
		16週					
評価割合							
	目標達成	レポート	デモンストレーション	プレゼンテーション	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	30	20	30	0	0	100
分野横断的能力	20	30	20	30	0	0	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	卒業研究
科目基礎情報						
科目番号	5E013			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 9	
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5	
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:6	
教科書/教材						
担当教員	電子メディア工学科 科教員,五十嵐 睦夫					
到達目標						
☐ 研究テーマの背景について詳細な知識を学習することができる。 ☐ 研究テーマに関する情報収集を行い、内容を理解することができる。 ☐ 研究テーマを実現するための、処理能力を身につけることができる。 ☐ 研究内容について明確なプレゼンテーションができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする高度な能力を身につけることができる。		技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を身につけることができる。		技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を身につけることができない。
評価項目2		高度なコミュニケーション能力・高度なプレゼンテーション能力を身につけることができる。		コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけることができる。		コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけることができない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	研究とは何か（いかにして研究テーマと出会うか、どのようにして研究を進めるか、その成果をどのようにして世の中に紹介するかなど）を知らしめ、また、それを通じて専門の知識や技術の奥行き、幅を広げさせる。 前期の始めに各担当教員より卒業研究のテーマ、概要について説明が行われる。その後、学生の希望等により、研究室、および、研究テーマを決定する。各研究室への配属後は、各担当教員の指導により研究テーマに関する学習、実験、研究等を行う。また、研究発表会を行い、研究成果を卒業論文として提出する。					
授業の進め方・方法	☐ 各担当教員による。 ☐ 一般教科系教員の研究室（数学、物理、化学等）に所属することも可能です。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各研究室における実施1・2			
		2週	各研究室における実施3・4			
		3週	各研究室における実施5・6			
		4週	各研究室における実施7・8			
		5週	各研究室における実施9・10			
		6週	各研究室における実施11・12			
		7週	各研究室における実施13・14			
		8週	各研究室における実施15・16			
	2ndQ	9週	各研究室における実施17・18			
		10週	各研究室における実施19・20			
		11週	各研究室における実施21・22			
		12週	各研究室における実施23・24			
		13週	各研究室における実施25・26			
		14週	各研究室における実施27・28			
		15週	各研究室における実施29・30			
		16週	中間発表			
後期	3rdQ	1週	各研究室における実施31・32			
		2週	各研究室における実施33・34			
		3週	各研究室における実施35・36			
		4週	各研究室における実施37・38			
		5週	各研究室における実施39・40			
		6週	各研究室における実施41・42			
		7週	各研究室における実施43・44			
		8週	各研究室における実施45・46			
	4thQ	9週	各研究室における実施47・48			
		10週	各研究室における実施49・50			
		11週	各研究室における実施51・52			
		12週	各研究室における実施53・54			
		13週	各研究室における実施55・56			
		14週	各研究室における実施57・58			

		15週	各研究室における実施59・60	
		16週	研究発表	
評価割合				
			研究遂行・発表（2回）	合計
総合評価割合			100	100
目標達成度			20	20
内容理解度			30	30
デザイン能力			20	20
プレゼンテーション能力			30	30

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気機器		
科目基礎情報								
科目番号	5E016			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	First Stageシリーズ 電気機器概論：深尾正：実教出版：978-4-407-33739-6							
担当教員	中山 和夫							
到達目標								
☐ 直流機の原理と構造を説明することができる。 ☐ 誘導機の原理と特性を説明することができる。 ☐ 同期機の原理と特性を説明することができる。 ☐ 変圧器の原理、構造、特性を説明でき、その等価回路が理解できる。 ☐ 半導体電力変換装置の原理と働きを説明することができる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		回転機の原理と構造を十分に説明できる。		回転機の原理と構造を説明できる。		回転機の原理と構造を十分に説明できない。		
評価項目2		静止器の原理と構造を十分に説明できる。		静止器の原理と構造を説明できる。		静止器の原理と構造を十分に説明できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		直流機、変圧器、誘導機、同期機の原理、構造、特性を学習する。また、半導体電力変換装置の原理と働きについて学習する。						
授業の進め方・方法		講義形式						
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	直流機の原理と構造			直流機の原理と構造を説明できる。		
		2週	直流発電機			直流発電機の特性を説明できる。		
		3週	直流電動機			直流電動機の特性を説明できる。		
		4週	直流機の定格			直流機の定格を説明できる。		
		5週	変圧器の構造と理論			変圧器の原理と構造を説明できる。		
		6週	変圧器の等価回路			変圧器の等価回路を説明できる。		
		7週	変圧器の特性			変圧器の特性を説明できる。		
		8週	中間テスト					
	4thQ	9週	三相誘導電動機の原理と構造			誘導機の原理と構造を説明できる。		
		10週	三相誘導電動機の等価回路			誘導機の等価回路を説明できる。		
		11週	三相誘導電動機の特性			誘導機の特性を説明できる。		
		12週	三相同期発電機			同期発電機の原理と構造を説明できる。		
		13週	三相同期電動機			同期電動機の原理と構造を説明できる。		
		14週	パワーエレクトロニクス			半導体電力変換装置の原理と働きについて説明できる。		
		15週	期末試験					
		16週	まとめ					
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	80	0	0	0	0	20	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子材料基礎Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		5E017		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	5		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		平井 宏					
到達目標							
☐ 誘電体での分極ベクトルについて理解できる。 ☐ 磁性体での磁化ベクトルについて理解できる。 ☐ 強磁性体でのヒステリシス曲線について理解できる。 ☐ 金属の電気的性質を説明し、移動度や導電率の計算ができる。 ☐ 真性半導体と不純物半導体を説明できる。 ☐ 半導体のエネルギーバンド図を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		箱型ポテンシャルについて、存在しえるエネルギー状態を正確に算出できる。		箱型ポテンシャルについて、存在しえるエネルギー状態を算出できる。		箱型ポテンシャルについて、存在しえるエネルギー状態を算出できない。	
評価項目2		電子集団を空間に閉じ込めた場合の最高エネルギーを見積もるための原理を正確に理解できる。		電子集団を空間に閉じ込めた場合の最高エネルギーを見積もるための原理を理解できる。		電子集団を空間に閉じ込めた場合の最高エネルギーを見積もるための原理を理解できない。	
評価項目3		電子集団が弱い周期的ポテンシャルを感じると、自由な時とは状態が違ってくることを正確に理解できる。		電子集団が弱い周期的ポテンシャルを感じると、自由な時とは状態が違ってくることを理解できる。		電子集団が弱い周期的ポテンシャルを感じると、自由な時とは状態が違ってくることを理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		固体電子物性の基本概念を理解することを目標とする。電子物性の舞台として固体をとらえ直すことが大切である。固体電子物性の舞台となるのは、規則的に配置した原子集団（結晶）です。まず初めに、金属中の自由電子のエネルギー状態について概観し、電子系の比熱について学びます。そして、半導体のバンド構造に触れた後、電子デバイスのキャリアについて学びます。 この科目は国立研究所で超伝導体を使った実験を担当していた教員が、その経験を生かし、金属材料、超電導材料等について講義形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法		座学形式で授業を行う。					
注意点		本科の、応用物理I、電磁気学I、II、電子材料基礎Iをマスターしていることを前提に授業を行います。 本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は授業中に周知します。 発展的な取り組みとして、授業で扱わなかった内容についてレポートを数回課す。このような事後の学習が課せられる。 この科目の評点は、提出させた数編のレポートによって算出する。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	誘電体		誘電体での分極ベクトルについて理解できる。 (1)MCC外		
		2週	誘電体		誘電体での分極ベクトルについて理解できる。 (2)MCC外		
		3週	誘電体		誘電体での分極ベクトルについて理解できる。 (3)MCC外		
		4週	磁性体		磁性体での磁化ベクトルについて理解できる。 (1)MCC外		
		5週	磁性体		磁性体での磁化ベクトルについて理解できる。 (2)MCC外		
		6週	磁性体		強磁性体でのヒステリシス曲線について理解できる。 MCC外		
		7週	導体		金属の電気的性質を説明し、移動度や導電率の計算ができる。(1)MCC記載分		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	導体		金属の電気的性質を説明し、移動度や導電率の計算ができる。(2)MCC記載分		
		10週	導体		金属の電気的性質を説明し、移動度や導電率の計算ができる。(3)MCC記載分		
		11週	半導体		真性半導体と不純物半導体を説明できる。(1)MCC記載分		
		12週	半導体		真性半導体と不純物半導体を説明できる。(2)MCC記載分		
		13週	半導体		半導体のエネルギーバンド図を説明できる。 (1)MCC記載分		
		14週	半導体		半導体のエネルギーバンド図を説明できる。 (2)MCC記載分		

		15週	後期定期試験				
		16週	テスト返却				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	50	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	計算機工学	
科目基礎情報							
科目番号	5E019			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	コンピュータアーキテクチャの基礎：柴山潔：近代科学社：978-4-7649-0304-3						
担当教員	谷中 勝,布施川 秀紀						
到達目標							
☐電子計算機的设计方式（コンピュータ・アーキテクチャ）について理解できる。MCC ☐インターネットにおける各種のプロトコルやその階層構造について理解できる。MCC 群馬高専独自 ☐システムの設計や問題解決に対して計算機資源を有効活用することができる。 群馬高専独自 ☐新しい情報通信システムを創造するための素養を身につけることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータ・アーキテクチャについて十分に理解している。		コンピュータ・アーキテクチャについて理解している。		コンピュータ・アーキテクチャについて理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「電子計算機とは、その主要部がNAND等の論理回路素子で構成され、素子間で授受される信号は0・1のデジタル信号であり、機械語という0・1で記述されたプログラムによって制御される。」これは、電子計算機を最も単純に捉えるという点では正しい認識である。3年次の「情報科学1」でも、まずはそう教えているし、超簡単なモデル計算機も構成してみた。 しかし、この認識のままでは、比較的大規模で複雑なシステムを扱うのは難しく、実際に役立つものをデザインすることは無理である。実用的な計算機システムを扱うには、半世紀以上にわたる電子計算機の発展の歴史の中で培われてきた「計算機のデザイン」に関する思想「コンピュータ・アーキテクチャ」を正しく学ぶ必要がある。「コンピュータ・アーキテクチャ」という用語は、もともとは、「ソフトウェアから見たハードウェアの属性」を意味しているが、ここでは、CPUの構造からOSやネットワークまでに及ぶ、様々な階層でのコンピュータの設計方式を指すものとして扱う。						
授業の進め方・方法	つぎのような事項について学習する。命令セット・アーキテクチャ、CPUアーキテクチャ、メモリ・アーキテクチャ、入出力アーキテクチャ、システム・アーキテクチャ、ネットワーク・アーキテクチャ、特殊アーキテクチャ。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	コンピュータ・アーキテクチャ概説		コンピュータ発展の歴史について理解する。		
		2週	命令セット・アーキテクチャ（1）		データ形式および命令セットについて理解する。		
		3週	命令セット・アーキテクチャ（2）		各種のアドレッシング・モードについて理解する。		
		4週	CPUアーキテクチャ（1）		レジスタ、演算制御装置について理解する。		
		5週	CPUアーキテクチャ（2）		パイプライン処理、割り込みについて理解する。		
		6週	メモリ・アーキテクチャ（1）		記憶装置の概略について理解する。		
		7週	メモリ・アーキテクチャ（2）		仮想記憶システムについて理解する。		
		8週	入出力アーキテクチャ（1）		周辺装置との各種インターフェースについて理解する。		
	4thQ	9週	入出力アーキテクチャ（2）		割り込みについて理解する。		
		10週	システム・アーキテクチャ（1）		オペレーティングシステムの役割について理解する。		
		11週	システム・アーキテクチャ（2）		プロセス管理、ファイル管理について理解する。		
		12週	ネットワーク・アーキテクチャ（1）		分散処理について理解する。		
		13週	ネットワーク・アーキテクチャ（2）		各種プロトコルとOSI 7層モデルについて理解する。		
		14週	ネットワーク・アーキテクチャ（3）		TCP/IPの各種プロトコルについて理解する。		
		15週	特殊アーキテクチャ		マルチプロセッサシステム、ロボットについて理解する。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	実用情報処理資格 I	
科目基礎情報							
科目番号	5E020		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年		5		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材	なし						
担当教員	五十嵐 睦夫						
到達目標							
各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	十分な理解を持って各種国家資格を取得することができる。		各種国家資格を取得することができる。		各種国家資格を取得することができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。本科目に対応する国家資格は、学則に記載される。						
授業の進め方・方法	各自で学習を進め、本科目に対応する国家資格を各自で取得する。						
注意点	取得した国家資格は、別途の指示に従って登録をする必要がある。登録がなければ、単位の認定には至らない。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	実用情報処理資格Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	5E021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	なし						
担当教員	五十嵐 睦夫						
到達目標							
各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	十分な理解を持って各種国家資格を取得することができる。			各種国家資格を取得することができる。		各種国家資格を取得することができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。本科目に対応する国家資格は、学則に記載される。						
授業の進め方・方法	各自で学習を進め、本科目に対応する国家資格を各自で取得する。						
注意点	取得した国家資格は、別途の指示に従って登録をする必要がある。登録がなければ、単位の認定には至らない。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	実用無線通信資格	
科目基礎情報							
科目番号	5E022			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	5		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	なし						
担当教員	五十嵐 睦夫						
到達目標							
各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	十分な理解を持って各種国家資格を取得することができる。			各種国家資格を取得することができる。		各種国家資格を取得することができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種国家資格を取得する学習を通し、一定の専門能力を担保する。本科目に対応する国家資格は、学則に記載される。						
授業の進め方・方法	各自で学習を進め、本科目に対応する国家資格を各自で取得する。						
注意点	取得した国家資格は、別途の指示に従って登録をする必要がある。登録がなければ、単位の認定には至らない。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---